

# 2025 年度 事業報告

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

一般社団法人 日本溶接協会

2025 年度に実施した各分野の事業活動の要点は以下のとおりです。

## 1. 全般

世界経済や国際情勢の影響を受け、円ドルレートの変動が続く中、円安基調が継続しています。これらを背景とした製造業の国内回帰が一層進展する一方、生産年齢人口の減少が重なり、労働需給は一段と逼迫し、新卒採用を含む人材確保は、極めて厳しい状況が続いています。

また、社会ニーズであるインフラ老朽化への対応や、溶接士不足に起因するプロジェクト着工の遅れなどを背景に、溶接分野における人材確保は喫緊の課題となっています。

このような中、当協会は自ら人材を集め、教育し、受験してもらう広い意味での人材育成が今後の溶接界に一番必要な取り組みと位置づけ、事業基盤である認定・認証事業を強化・拡大しつつ、人材育成に注力しました。

従来からの人材不足対策である若年者取り込み、女性活躍、外国人支援に関して活動を強化しました。若年者に関しては、工業高校の溶接教育支援の一環として協力してきた全国工業高等学校長協会主催の「高校生ものづくりコンテスト全国大会」溶接部門は、11月に徳島県で引き続き正式種目として開催されました。工業高校への溶接教育支援としては溶接接合工学振興会を通じて、溶接機の工業高校への寄付及び教職員の溶接教育を実施しました。女性受験者数は、1,222名まで増加し、全受験者の約1.2%となりました。女性受験者比率の目標は米国並みの5%です。外国人支援に関しては、技能実習制度が育成就労制度に代わることを見据え、関係省庁と溶接に関する技能向上の確認試験方法について雇用者側に問題が発生しないよう調整を行っております。また、溶接技能者教育に関しては、既存の溶接士ではない従業員を短期間で溶接資格取得させる教育の開発を推進し、プロトタイプによる試行を行っております。溶接技能者評価試験の学科試験が免除となる学科講習会は全国に普及し、受講者数は全受験者数の8.9%にあたる1,413名に達しました。

認定・認証事業は、溶接技能者認証及び溶接管理技術者認証に関して、電子申請システム e-Weld の本格稼働により効率化を推進しています。また、アジア諸国への JIS 溶接技能者認証試験の導入は、「JIS アジア溶接圏構想」と名付け、インドネシア、ベトナムでのローカライズを推進しアジアの溶接品質向上を図ると共に、来日する溶接士の技能向上への取組を実行しています。昨年度開始した AM 技術者 2 級教育に関しては、今年度より認証試験を開始しました。AM に関しては、日本の産業界に AM 技術の製品適用を普及させるカギが設計者の教育であるため、関係省庁とも協力し AM 技術教育の開発・普及に努めております。

また、北海道地区検定試験場の移転に合わせ、認証・教育・研究を一体的に担う新拠点として北海道溶接センター（仮称）の計画を進めています。本センターは北海道の溶接普及及び産業界発展に寄与することを目標として学・協会を始めとした関連各団体と協力して計画を進めております。

最後に、学・協会によるシナジーの創出です。学・協会が組織的に協力して連携することで、産業界が必要とするイノベーションに学术界が継続的に取り組める仕組みを構築し、産業界・学术界が大きく発展できる組織構成を溶接学会と協力して検討・計画しております。

## 2. 調査・研究

専門部会、研究委員会及び特別委員会などでは、溶接技術の維持・向上を目指し、調査・研究活動を行いました。

活動成果については、当協会ホームページ・講習会・講演会・シンポジウム、及び機関紙誌、溶接情報センターWeb サイト等を通じて公表しました。

概要につきましては、本紙または当協会ホームページの専門部会・研究委員会等のページをご覧ください。

### 3. 標準化

技術研究組合 次世代3D積層造形技術総合開発機構（TRAFAM）から ISO/TC 261（付加製造）国内審議委員会を承継し、溶接規格専門委員会 [ISO（国際標準化機構）/TC 44（溶接）及び IEC（国際電気標準会議）/TC 26（電気溶接）国内審議委員会]、AM 規格専門委員会 [ISO/TC 261 国内審議委員会]、両専門委員会で構成する規格委員会を開催しました。ISO/TC 44、IEC/TC 26 及び ISO/TC 261 の国内審議団体として国際規格の検討、日本産業規格（JIS）の原案作成団体として JIS の改正及び定期見直しを行いました。なお、日本溶接協会規格（WES）の制改廃の審議も行いました。

溶接の国際規格への対応としては、ISO/TC 44 及びその分科委員会（SC）、IEC/TC 26 及びその分科委員会（WG）、国際溶接学会（IIW）において標準化を行っている研究委員会（Commission）並びにアジア溶接連盟（AWF）の国際会議に規格委員会及び関連する専門部会・研究委員会から参加し、日本の意見を積極的に主張しました。なお、国内規格への対応としては、用語に関わる規格として JIS Z 3001-3（溶接用語－第3部：ろう接）が公示されました。

AM の国際規格への対応としては、ISO/TC 261 及び TC 261/WG と ASTM（米国試験材料協会）/F42 委員会とのジョイントグループ（JG）に参加し、日本の意見を積極的に主張すると共に海外の情報収集を行いました。なお、TRAFAM が初めて日本から提案した「鑄造砂型の評価法」は、2025 年 9 月に ISO/ASTM 52919 として発行されました。1980 年当時に名古屋市の公設試が世界に先駆けて 3D プリンタの原理を発明して以来、様々なタイプの 3D プリンタが開発されましたが、産官学連携で次なる ISO 規格提案を進めていきます。

### 4. 溶接情報センター

公式 SNS（X、インスタグラム）の運用を開始し、当協会の活動告知・報告記事や、溶接になじみが薄い方に向けたニュース・レポート記事などを投稿しました。若年層を中心とする溶接未経験者・初心者向けに新設したサイト「よくわかる！溶接 lab」では、コンテンツの拡充を図りました。ニュース・レポート記事、インタビュー記事、また、女性を応援するサイト「溶接女子会」においても、溶接女子インタビュー記事を追加掲載しました。

情報発信のさらなる強化に向け、広報委員会において活動内容の検討を行いました。溶接情報活用推進 WG では、ローカル LLM（大規模言語モデル）を活用した AI チャットの導入に向けた試作・検証に着手しました。

会員管理システムを刷新してクラウド化を実施するとともに、会計システムの Windows11 対応および更新された他の基幹システムとの連携対応を行いました。また、職員用パソコンおよびサーバ（ドメインコントローラ、ファイルサーバ）の更新とインターネット回線の高速化を実施しました。ランサムウェア等のセキュリティ対策としては、各 PC への脅威検知・駆除ソフトウェアの導入と、セキュリティベンダーによる常時監視体制の構築を行いました。

2026 年度に向けては、老朽化した溶接情報センターのバックエンドシステムの刷新およびクラウド化に係る計画策定の準備を開始しました。

溶接管理技術者（WE）認証委員会に協力し、WE-COM マガジン（Web マガジン）を年 4 回発行しました。

### 5. 全国溶接技術競技会

第 70 回記念 全国溶接技術競技会（北陸地区富山大会）を、10 月 5 日に富山県高岡市の「ポリテクセンター富山」で開催しました。

通算 70 回目の節目を迎える記念大会として、前日（10 月 4 日）の開会式に併せて特別講演を実施し、また、2024 年に発生した能登半島沖地震からの復興への期待を込め、北陸地区溶接協会連絡会の推薦による選手枠も特別に設けて開催しました。

### 6. 国際協力

海外での溶接管理技術者の教育・認証については、10 月に新たに加わったモンゴル材料科学溶接協会（MMSWS）を含め、9 か国 10 機関との間に締結した協力協定を基に運営しています。

マレーシア、台湾、タイ、ミャンマー及びインドネシアでは現地の講師による各国協会の自立運営での研修会が実施されたうえで、評価試験は当協会と各国協会の共同で実施されました。また、11 月にベトナムのハノイ工科大学において 2 回目となる研修会と評価試験が実施されました。講師は大阪大学及び熊本大学から派遣され、評価試験は当協会とハノイ工科大学の共同で実施されました。

## 7. 認定・認証

溶接技能者、溶接管理技術者、火力設備・原子力施設の溶接士（原子力施設では溶接施工法含む）の認証事業については、日本適合性認定協会（JAB）から認定された要員認証システムを安定的に維持して実施しました。

AM 技術者 2 級の認証事業を新たに開始するとともに、溶接作業指導者、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ、マイクロ溶ダリング要員の認証事業及び溶接構造物非破壊検査事業者（CIW）、ガス溶断器の認定事業についても公正・公平・中立の立場を保持し、継続して実施しました。

溶接技能者、溶接管理技術者の受験申請などの諸手続きは Web での受付を継続しました。また、セキュリティ面を意識しつつ、より一層使い勝手の良いシステムを目指した改善にも取り組みました。

外国人技能実習制度による技能実習評価試験についても継続的に実施しました。また、手溶接職種において薄板種目（TIG 溶接）を追加申請し、国からの認可を得ました。育成就労制度への移行を見据えた対応も関係省庁と連携をとりながら進めました。

IIW の資格に関しては、IIW の要求事項に対応しながら、国際溶接技術者の正規コースと特認コースを継続して実施し、合格者にディプロマを発行しました。

## 8. 教育

AM 技術者教育については、昨年に引き続き「2 級受験者のための研修会」を実施しました。また、「1 級受験者のための研修会」のカリキュラムとテキスト制作の検討を進めました。

溶接技能者教育については、指定機関・ポリテクセンターの協力を得ながら「技能向上のための講習会」を継続的に実施しました。本講習会の全国への拡大に向け、未実施の指定機関に呼びかけを行ったところ 5 指定機関が追加となり、これまでに 26 指定機関で実績を上げています。

人材不足対策の一環としては、溶接作業を担当していない従業員にも短期間で、効率的に技能を育成することができるスキルアップ教育の開発を行いました。初心者でも理解しやすいように動画付きのパワーポイント教材を新たに制作しました。学科及び実技を各 1 日ずつ実施する 2 日間のプログラムとして構成し、1 月にはトライアルを実施した結果、好評を得ました。

また、溶接管理技術者、溶接作業指導者、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ、マイクロ溶ダリング要員、CIW 認定に必要な技術者に対する教育やその他の講習会・セミナーに関しても、例年どおり実施しました。

## 9. 受託研究

諸官公庁等の公的機関、関連団体及び会員企業からの委託により、各種の調査・研究活動を推進しました。実施した受託案件に関して所期の目的を達成することができました。

## 10. 指定機関

全国指定機関委員会では、溶接技能者教育を全国に普及させるため、指定機関に積極的な協力を依頼しました。

2026 年 11 月に実施される高校生ものづくりコンテスト全国大会(全国工業高等学校長協会主催)の溶接競技に向けて協力を依頼しました。

## 11. その他

協会賞各賞の授賞者、日本溶接協会マイスター認定者を決定し、定時総会にて表彰しました。

全国の教育機関に従事する溶接研究者を対象とした第 12 回「次世代を担う研究者助成事業」は 9 件を選考し、2026 年 4 月より奨学寄附金を支給します。また、第 10 回支給対象者の成果を「溶接技術」に掲載しました。

中小企業等経営強化法に基づき、設備に関する証明書の発行を会員サービスの一環として行いました。

設備技術規格評価委員会において、高圧ガス設備の保安検査方法に関する民間規格等としての WES 規格の評価を行いました。

詳細については本書をご覧ください。

# 目 次

一般社団法人 日本溶接協会

## 第一部 活動概要

I. 調査・研究事業関係	1
1. 専門部会	1
溶接材料部会、電気溶接機部会、ガス溶断部会、船舶・鉄構海洋構造物部会、機械部会、車両部会、 自動車部会、建設部会、鉄鋼部会、ろう部会、はんだ・微細接合部会、圧力設備サステナブル保安部会、 AM 部会	
2. 研究委員会	33
特殊材料溶接研究委員会、原子力研究委員会、化学機械溶接研究委員会、ロボット溶接研究委員会、 表面改質技術研究委員会、溶接・接合プロセス研究委員会、レーザ加工技術研究委員会（LMP 委員会）、 非破壊試験技術実用化研究委員会（AN 委員会）	
3. その他	48
溶接情報センター委員会、特許委員会、安全衛生・環境委員会、規格委員会、出版委員会、CW 委員会、 設備技術規格評価委員会	
II. 表彰・コンクール事業関係	59
表彰委員会、全国溶接技術競技会、日本溶接協会マイスター審査委員会	
III. 国際協力事業関係	61
国際活動委員会、海外における溶接管理技術者の教育・認証事業	
IV. 認証・認定事業関係	65
要員認証管理委員会、溶接技能者認証委員会、溶接管理技術者認証委員会、 マイクロソルダリング要員認証委員会、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ認証委員会、 溶接検査認定委員会、技術基準・認証委員会、AM 技術者認証委員会、IIW 資格日本認証機構（J-ANB）、 ガス溶断器認定委員会、鋼種等認定委員会	
V. 教育事業関係	76
溶接技能者教育委員会、溶接管理技術者教育委員会、マイクロソルダリング教育委員会、 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ教育委員会、AM 技術者教育委員会	
VI. その他の事業	81
全国指定機関委員会、税制措置等対応臨時専門委員会、JPVRC（日本圧力容器研究会議）施工部会、 次世代を担う研究者助成事業、研究テーマ指定助成事業、JIW（日本溶接会議）	
VII. 法人管理関係	84

## 第二部 会務報告等（2025年度事業報告の附属明細書）

VIII. 各種活動報告 .....	86
1. 本会関係行事	
2. 諸会合	
3. 講習会・研修会等	
4. 溶接・AM関係規格	
5. 出版	
6. 認証・認定関係	
7. 官公庁及び民間からの受託・委託の研究、調査及び研修等	
IX. 総会・理事会報告 .....	123
1. 総会	
2. 理事会	
3. 会員異動	

# 第一部 活動概要

## I. 調査・研究事業関係

### 1. 専門部会

#### 溶接材料部会

##### 1. 本部会

2025年度の部会総会を2025年5月27日に開催し、2024年度の部会事業報告および決算報告の承認ならびに、2025年度の事業計画（案）および予算（案）の審議・承認を行った。

##### 2. 技術委員会および分科会

2025年度は、6つの分科会活動と1つの共同研究WG活動に取り組んだ。技術委員会を4回開催し、各分科会および共同研究WGの活動状況報告および審議を行った。また、10月の地方開催では、今治造船㈱丸亀工場の見学を行った。

##### 2.1 溶接材料の国際規格適正化調査研究（調査第1分科会：継続）

主査：金内 勲／日鉄溶接工業㈱

幹事：平川拓生／㈱神戸製鋼所

2025年度は、分科会を4回開催し、ISO規格の定期見直し及び改訂案に対する意見のとりまとめを行った。JIS Z 3313（軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用フラックス入りワイヤ）の定期見直しについては、対応国際規格であるISO 17632及びISO 18276に整合させたJIS改正素案を作成し、日本規格協会への公募区分B（2026年2月応募）に応募した。今後、原案作成委員会において7月から原案審議を行い、2027年2月に完成版を提出する予定で進めることとした。また、JIS Z 3312（軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ）の定期見直しにも着手し、今後改正素案の作成を進めることとした。

##### 2.2 AM用ワイヤに関する検討（調査第2分科会：継続）

主査：横田泰之／㈱神戸製鋼所

幹事：戸塚康仁／日鉄溶接工業㈱

2025年度は、分科会を3回開催し、AM（主にWAAM）に関する文献および書籍の調査を実施した。これにより、研究分野、材質、施工法、シールドガスなどに関する動向を整理した。また、AMに関する特許文献の調査を行い、出願内容の傾向や出願件数の推移をまとめた。これらの結果から、WAAMは限定的な用途で研究が進んでいるものの、現状では一般的な製造技術としての普及には至っていないことを確認し、2025年度を以って活動を終了することとした。

##### 2.3 業種別に見た各種溶接材料と将来に関する調査（調査第3分科会：継続）

主査：高橋 将／日鉄溶接工業㈱

幹事：大塚貴之／日鉄溶接工業㈱

2015年の市場調査から約9年が経過している。この間、溶接にまつわる市場動向は大きく変化しており、溶接材料や溶接機器、溶接技術に対する要求も変化している。本分科会では、これら至近の需要動向を明らかにすることを目的として2024年度から活動を開始した。

2025年度は、分科会を5回開催し、アンケートの発送、溶接協会－溶接材料部会HPへのアンケート調査ご紹介や回答受付の閲覧、アンケートの集約を進めた。今後は2026年上期までに完成、提出することを目標とした。

##### 2.4 アジアにおける溶接材料共通規格の検討（調査第6分科会：継続）

主査：斉藤 洋／㈱神戸製鋼所

幹事：飯山雄司／日鉄溶接工業㈱

2025年度は、分科会を2回開催し、AWF標準化委員会の準備、出席報告および活動計画の検討を行った。

AWF 標準化委員会は 5 月（モンゴル）と 10 月（中国）に開催され、日本からは ISO TC44 SC3、IIW II-E、JIS の標準化に関する情報を共有した。また 10 月の会議において AWF メンバー各国で ISO 規格に提案できる規格案がないか検討した結果「ハンドヘルドレーザー」、「積層造形」、「バーチャル溶接」に関する標準化に興味があるとの意見があり、これらの項目に関する国際規格・国家規格の制定状況を把握することが決まった。

#### 2.5 技術委員会 70 年史編集委員会（調査第 7 分科会：新規）

主査：森本朋和／㈱神戸製鋼所

幹事：中井洋二／元ビューローベリタスジャパン㈱

技術委員会は、昭和 31 年に活動を開始して以来、2026 年で 70 周年を迎える。本分科会は 2016 年度から 2025 年度までの 10 年間の活動成果をまとめた 70 年史の発刊を目的に、2025 年 10 月より活動を開始した。2025 年度は分科会を 2 回開催し、掲載内容、作成スケジュール、執筆担当者などを決定した。本年史については、50 年史および 60 年史を補う資料（CD 版）として 2027 年 5 月の発刊を目指して取りまとめを行うこととした。

#### 2.6 溶接材料の ISO、JIS および WES への対応（規格化第 9 分科会：継続）

主査：新舘 宏／㈱神戸製鋼所

幹事：飯山雄司／日鉄溶接工業㈱

本分科会は日本溶接会議（JIW）第Ⅱ委員会との合同会議体として運営し、JIS の定期見直しの他、ISO および IIW における国際標準化活動への対応も行っている。2025 年度は、下記 3 つの WG を設け、ISO 規格の制改訂状況のフォローと JIS 改正準備に注力した。

##### ① WG 1（ISO 全般への対応：継続）

主査：斉藤 洋／㈱神戸製鋼所

幹事：都築 岳／㈱タセト

改訂作業中の溶接材料等の ISO 規格のフォローおよび定期見直し投票結果の審議をおこなうため、ISO/TC 44/SC 3（2025 年 5 月、7 月、10 月）及び IIW 年次大会 C-II、IX（2025 年 7 月）に出席し、得られた情報を溶接材料部会の関連する委員会に共有し議論を行った。

##### ② WG 2（JIS および WES 改正への対応：継続）

主査：新舘 宏／㈱神戸製鋼所

幹事：飯山雄司／日鉄溶接工業㈱

日本規格協会からの溶接材料に関する JIS 20 件の定期見直し依頼に対し、いずれも「確認」と回答した。WES 定期見直しは、本年度の対象 2 件について審議し、「確認」と回答した。

##### ③ WG 3（JIS Z 3211 原案作成委員会 分科会：新規）

主査：金内 勲／日鉄溶接工業㈱

幹事：平川拓生／㈱神戸製鋼所

JIS Z 3211（軟鋼、高張力鋼および低温用鋼用被覆アーク溶接棒）の改正に向け、JIS 改正原案（本文・附属書・解説）の作成と、原案作成委員会（7/16、9/30、1/13）のコメントに対応する審議を実施した。3 回の分科会を開催し、第 3 回原案作成委員会（1/17）原案の最終承認を得た。

#### 2.7 配管溶接における N<sub>2</sub> バックシールド適用性の評価（化学機械溶接研究委員会との共同研究 WG：継続）

主査：横田泰之／㈱神戸製鋼所

2025 年度は、WG を 4 回開催してガイドラインの執筆を進め、ドラフト版を完成させた。溶接材料部会および化学機械溶接研究委員会においてドラフト版のレビューを実施し、コメントを集約した。各コメントへの対応を行い、3 月にガイドラインを完成させた。

### 3. 関係専門部会・研究委員会および関連団体との連携

以下の委員派遣を行い、運営への参画および技術委員会での情報共有化を図った。

#### 3.1 （一社）日本溶接協会 規格委員会

齊藤洋 ISO 連絡委員／規格化第9分科会 WG1 主査が出席し、規格委員会の運営に参画した。

- 3.2 (一社) 日本溶接協会 電気溶接機部会 技術委員会  
横田技術委員会幹事長が連絡委員として出席し、情報の共有化を図った。
  - 3.3 (一社) 日本溶接協会 JPVRC 施工部会  
志村技術委員会副幹事長が連絡委員として出席し、情報の共有化を図った。
  - 3.4 (一社) 日本高圧力技術協会 日本圧力容器研究会議 (JPVRC) 運営委員会  
志村技術委員会副幹事長が連絡委員として出席し、情報の共有化を図った。
  - 3.5 (一社) 日本溶接協会 安全衛生・環境委員会  
澤口委員と齋藤委員が連絡委員として出席し、情報の共有化を図った。
  - 3.6 (一社) 日本溶接協会 AM 部会 技術委員会  
伊藤技術委員長が連絡委員として出席し、情報の共有化を図った。
  - 3.7 (一社) 日本鋼構造協会 建築鉄骨溶接部の機械的性質の標準試験マニュアル改正小委員会  
栗山委員が連絡委員として出席し、運営への参画および情報の共有化を図った。
  - 3.8 (一社) 日本鋼構造協会 エレクトロスラグ溶接による柱梁接合部の設計施工法の研究小委員会  
栗山委員が連絡委員として出席し、運営への参画および情報の共有化を図った。
4. 出版物の発刊  
2024 年度の技術委員会および分科会の活動成果をまとめて「溶接の研究」No. 64 (PDF 版) を作成した。
  5. 講習会の開催  
2025 年 11 月 26 日に、第 22 回「溶接の研究」講習会を開催し、3 件の活動成果報告と、2 件の特別講演を行った。

## 電気溶接機部会

1. 本部会  
2025 年 6 月 18 日 (水) に(株)ダイヘン東京本社・WEB 会議併用で部会総会を開催し、以下の議事について審議を行った。
  - 1.1 2024 年度 事業報告承認の件
  - 1.2 2024 年度 部会収支決算及び監査報告の件
  - 1.3 2025 年度 部会役員委嘱承認の件
  - 1.4 2025 年度 業務委員会正副委員長委嘱承認の件
  - 1.5 2025 年度 事業計画案承認の件
  - 1.6 2025 年度 部会収支予算案承認の件
  - 1.7 2025 年度 部会費各社分担金案承認の件
2. 業務委員会
  - 2.1 業務委員会の本年度の主な活動  
2025 年 4 月 23 日 (水)、2025 年 10 月 24 日 (金)、2026 年 2 月 4 日 (水) の計 3 回 WEB 併用の会議を開催し、会務全般 (部会総会運営、部会活動内容の検討、内規等規定の制定・改正・管理、収支決算・予算の検討、部会費各社分担金・新会費制度及び新会員加入の検討等) に関する審議及び市況調査を実施した。
  - 2.2 見学会および技術講演会の開催  
技術委員会との合同により、見学会および技術講演会を以下のとおり開催した。
    - 2.2.1 見学会
      - a) 2025 年 11 月 14 日 (金) 愛知・日本車輛製造(株) 豊川製作所
        - 1) 内容：溶接組立から内装・艀装まで鉄道車両の製作工程を見学
        - 2) 参加者：26 名

## 2.2.2 溶接技術講演会

a) 2025年11月14日(金) 愛知・日本車輛製造(株) 豊川製作所

1) 内容:[テーマ・講師]

1.1) 「自動車車体の材料・接合技術動向について」

日産自動車(株) 渡辺 由布 氏



写真1：日本車輛製造(株) 豊川製作所 見学会

## 3. 技術委員会

### 3.1 技術委員会の本年度の主な活動

#### 3.1.1 技術委員会の開催

a) 2026年2月24日(火) 東京・溶接会館

- 1) 本年度技術委員会活動状況を報告した。
- 2) 次年度事業計画(案)を承認した。
- 3) アーク溶接機小委員会・抵抗溶接機小委員会の本年度の報告を行った。

#### 3.1.2 見学会の開催

a) 2025年11月14日(金) 愛知・日本車輛製造豊川製作所

#### 3.1.3 溶接技術講演会の開催

a) 2025年11月14日(金) 愛知・日本車輛製造(株) 豊川製作所

1) 内容:[テーマ・講師]

1.1) 「自動車車体の材料・接合技術動向について」

日産自動車(株) 渡辺 由布 氏

#### 3.1.4 技術委員会幹事会

a) 第1回:2025年10月29日(水) 大阪・中央電気倶楽部、WEB会議

- 1) 課題検討を行った。
- 2) 本年度活動報告素案を検討した。
- 3) 次年度事業計画素案を検討した。

b) 第2回:2026年2月3日(火) 東京・溶接会館、WEB会議

- 1) 本年度活動報告案の確認を行った。
- 2) 次年度事業計画案の策定を行った。
- 3) 予算実績見通し及び次年度予算を検討した。
- 4) IEC/TC 26 WG 会議報告

- 4.1) 2025年10月7日-10日 カナダ・モントリオール会議：山根委嘱委員、杵村委員  
 2025年11月6日 WEB会議：山根委嘱委員、杵村委員  
 2025年12月3日 WEB会議：山根委嘱委員、杵村委員  
 2026年1月14日 WEB会議：山根委嘱委員、杵村委員  
 2026年3月17日-19日 デンマーク・コペンハーゲン会議：山根委嘱委員
- 5) ISO/TC 44 WG 会議報告
  - 5.1) 2025年4月24日 WEB会議：伊與田委嘱委員  
 2025年5月19日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2025年6月16日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2025年7月9日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2025年8月26日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2025年10月17日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2025年11月25日 WEB会議：山根委嘱委員、加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2025年12月16日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2026年1月28日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2026年2月25日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員  
 2026年3月20日 WEB会議：加瀬委員、伊與田委嘱委員
- 3.1.5 IEC/TC 26 会議及びWG への派遣 (3.1.4 で報告)
- 3.1.6 ISO/TC 44/SC 6 への派遣 (3.1.4 で報告)
- 3.1.7 その他
  - a) 対外委員会等への協力
    - 1) 日本溶接協会 規格委員会 委員長として、山根委員長（埼玉大学）を派遣した。
    - 2) 日本溶接協会 規格委員会 専門委員として、加瀬副委員長（日本溶接協会）を派遣した。
    - 3) 日本溶接協会 情報化センター 運営委員に、山根委員長（埼玉大学）を派遣した。
    - 4) 日本溶接協会 安全衛生・環境委員会に、市川委員（スズキッド）を派遣した。
    - 5) 総務省 情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会 CISPR<sup>1)</sup> B 作業班に、金子委員（埼玉大学）を派遣した。
    - 6) 電気用品調査委員会に、市川委員（スズキッド）を派遣した。
    - 7) 電気用品調査委員会 解釈等検討部会に、大崎幹事長（パナソニックコネクト）を派遣した。
    - 8) 電気用品調査委員会 整合規格検討部会に、山根委員長（埼玉大学）を派遣した。
    - 9) 電気用品調査委員会 特別検討部会（IoT 関連）に、平澤委員（デンヨー）を派遣した。
    - 10) 電気用品安全法の性能規定化に対応する JIS 開発 性能規定化 WG（家電 G）に、山根委員長（埼玉大学）を派遣した。
    - 11) 電気学会 IEC/SC 77A WG2 対応委員会に杵村委員（ダイヘン）を派遣した。
  - b) 業務委員会との連携
    - 1) 技術委員会と業務委員会間の連携を密にするため、代表者が業務委員会へ出席し、情報交換の場をもち、相互理解に努めた。
    - 2) 見学会、技術講演会を業務委員会と共同で開催した。
  - c) 情報の電子化・共有化
    - 1) 各委員会配布資料を電子化し、技術委員会専用の電子掲示板に掲載し、情報共有化を維持継続した。
  - d) PCB 含有コンデンサーを使用した溶接機の早期処理に関する情報提供
    - 1) 環境省からの依頼に基づき、高濃度 PCB 含有コンデンサーを使用した溶接機及び微量 PCB 含有の

<sup>1)</sup> CISPR : Comite international Special des Perturbations Radioelectriques (国際無線障害特別委員会)

懸念があるコンデンサーを使用した溶接機の製造の有無について情報を集約するとともに、問合せ対応を行った。また、PCB 含有溶接機の機器リストおよびユーザーリストの作成方法に関する環境省のヒアリングに協力した。

### 3.2 規格・法令関係対応

#### 3.2.1 国内規格・法令関係

- a) JIS C 9300-7 (溶接トーチ)
- b) JIS C 9318 (ポータブルスポット溶接機用水冷2次ケーブル)

#### 3.2.2 国際規格受付文書の整理

- a) IEC/ISO 受付文書の整理 (アーク溶接機規格対応 WG/SC 6 対応 WG、規格改正対応 WG) を行った。

### 3.3 アーク溶接機小委員会

#### a) 委員会の開催

- 1) 第1回アーク溶接機小委員会 (抵抗小委と合同) : 2025年5月28日 (水) 東京・溶接会館、WEB
- 2) 第2回アーク溶接機小委員会 (抵抗小委と合同) : 2025年10月28日 (火) 大阪・中央電気倶楽部、WEB
- 3) アーク溶接機小委員会報告 ※2026年2月24日 (火) 技術委員会で報告

#### b) WG 及び SG 活動

- 1) 溶接機使用環境改善対応 WG (抵抗小委合同)
  - ・ EMC<sup>2)</sup>に関する国際規格及び国内法制化等の情報収集を行った。
  - ・ CISPR 国内委員会への CD 案等の賛否回答を行った。
- 2) 溶接機 EMF<sup>3)</sup>調査検討 WG (抵抗小委合同)
  - ・ IEC の EMF 規格への対応を行った。
  - ・ EMF 指令の動きを調査した。
  - ・ IEC 62822-1/-2/-3 への対応を行った。
- 3) 溶接材料部会との連絡会
  - ・ 溶接材料部会との連携 (相互の情報共有) を強化した。
- 4) アーク溶接機規格対応 WG
  - ・ ISO/IEC/JIS/WES への投票原案及びコメントを作成した。
  - ・ JIS C 9300 シリーズへの対応を行った。
- 5) JIS C 9300-1/-3 (溶接電源/起動及び安定化装置) 改正規格化検討 WG
  - ・ 規格改正および制定のフォローを行った。
  - ・ 「主に効率の測定方法の確認」への対応
- 6) JIS C 9300-7 (溶接トーチ) 改正規格化対応検討 WG
  - ・ JIS C 9300-7 改正素案への対応を行った。
  - ・ JIS 原案作成委員会への対応を行った。

### 3.4 抵抗溶接機小委員会

#### a) 委員会の開催

- 1) 第1回抵抗溶接機小委員会 (アーク小委と合同) : 2025年5月28日 (水) 東京・溶接会館、WEB
- 2) 第2回抵抗溶接機小委員会 (アーク小委と合同) : 2025年10月28日 (火) 大阪・中央電気倶楽部、WEB
- 3) 抵抗溶接機小委員会報告 ※2026年2月24日 (火) 技術委員会で報告

#### b) WG 及び SG 活動

- 1) 溶接機使用環境改善対応 WG (アーク小委合同)

---

<sup>2)</sup> EMC : The Electromagnetic Compatibility (電磁両立性)

<sup>3)</sup> EMF : Electric and Magnetic Fields (電磁場 (界))

- ・ EMC に関する国際規格及び国内法制化等の情報収集を行った。
- ・ CISPR 国内委員会への CD 案等の賛否回答を行った。
- 2) 溶接機 EMF 調査検討 WG (アーク小委合同)
  - ・ IEC の EMF 規格への対応を行った。
  - ・ EMF 指令の動きを調査した。
  - ・ IEC 62822-1/-2/-3 への対応を行った。
- 3) 規格改正対応 WG
  - ・ ISO/IEC/JIS/WES の投票原案及びコメント作成を行った。
- 4) SC 6 対応 WG
  - ・ 規格委員会 SC 6 対応小委員会の対応窓口として、ISO への投票原案及びコメントを作成した。
  - ・ JIS/WES 改正への対応を行った。
  - ・ 海外規格の調査及び検討を行った。
- 5) JIS C 9318 (水冷 2 次ケーブル) 規格改正対応 WG
  - ・ JIS C 9318 改正素案への対応を行った。
  - ・ JIS 原案作成委員会への対応を行った。
- 6) EMC 要求事項動向調査 SG
  - ・ IEC62135-2 の内容を調査した。
  - ・ IEC62135-2 の和訳および統合を行った。
- 7) 化学物質対応検討 SG (アーク小委合同)
  - ・ タングステン、ベリリウムおよびアルミ合金の SDS からの記載方法を検討した。
  - ・ 法規制にかかわる化学物質の種類を調査した。
  - ・ 取り扱い説明書への記載方法を検討した。
- 3.5 特別プロジェクト
  - a) 電気用品安全法改正対応プロジェクト
    - ・ 整合規格の整理マップの検討を行った。
  - b) 特化則対応情報収集プロジェクト
    - ・ Mn 規則の情報を収集した。

## ガス溶断部会

当部会は、ガス溶断機器の品質の維持向上と熱切断加工技術（ガス切断、プラズマ切断及びレーザー切断など）の調査・研究を目的として活動している。本年度は、昨年度に引き続き溶断作業の安全確保を目指して各種啓発活動を積極的に行った。2025 年度の主な活動は次の通りである。

1. 本部会
  - 1.1 2024 年度 事業報告並びに決算報告の審議承認
  - 1.2 2025 年度 事業計画（案）並びに予算（案）の審議承認
  - 1.3 その他報告事項（PFAS 規制案経過報告）
2. 幹事会
  - 2.1 2025 年度 事業報告並びに決算報告の確認
  - 2.2 2026 年度 事業計画（案）並びに予算（案）の審議
  - 2.3 部会役員交代について
3. 安全推進委員会
 

安全推進委員会の活動概要は次のとおりである。

  - 3.1 国内保安活動に関する情報交換の件

部会員各社のガス溶断器保安啓発活動について情報交換を行った。関連業界の保安に関する活動状況の調査及び今後のガス溶断器業界としての啓発活動について検討を行った。

### 3.2 ガス溶断器の安全作業の啓発活動検討の件

産報出版より発行されている「溶接ニュース」にガス溶断機器類の定期点検に関する広告を掲載し、ガス溶断器の適正な点検の励行を呼びかけた。併せて「ガス溶断器用圧力調整器の高圧部部品供給の停止」の方針について、「溶接ニュース」内に正副委員長のインタビュー記事を掲載しユーザへ周知した。

また、逆火防止ビデオに関して、溶接協会のHPへアップロード及び公表した。

さらに、逆火の危険性や逆火した場合の対処法に関する漫画に関して、日本乾式安全器工業会と協力し、掲載内容を企画及び検討した。

### 3.3 全国高圧ガス溶材組合連合会（全溶連）の件

全溶連の保安対策連絡会議を通して、ガス溶断器保安関係の情報交換を行った。

### 3.4 技術委員会への要請

建築研究開発コンソーシアム内に設置された工事中の溶接・溶断火花が発泡プラスチック系に飛散して発生する火災の実態及び対策に関する委員会へ委員派遣を要請した。

## 4. 技術委員会

技術委員会の活動概要は次のとおりである。

### 4.1 溶断機器業界の技術的発展への協力

安全推進委員会からの要請に基づいて技術的支援を行った。

### 4.2 ISO・規格WGへの指示

ISO/TC 44/SC 8及びWES関連の規格、文書処理についてISO・規格WGで対応をさせた。

### 4.3 溶断小委員会への支援

溶断小委員会に幹事を出席させ、技術委員会及び本部会の情報伝達、事業活動のサポートの支援を行なった。

### 4.4 関係官庁及び他団体への働きかけ

建築研究開発コンソーシアム内に設置された工事中の溶接・溶断火花が発泡プラスチック系に飛散して発生する火災の実態及び対策に関する委員会へ委員を派遣した。

### 4.5 他委員会への参加

関連委員会に委員を派遣し、委員会審議に参画した。

#### ① 規格委員会

規格委員会に出席し、溶断機器関係のISO/JIS/WESの審議に参画した。

#### ② LMP委員会

LMP委員会に出席し、審議の参画及び情報収集を行ない、小委員会に報告を行った。

#### ③ 安全衛生・環境委員会

安全衛生・環境委員会に出席し、審議の参画及び情報収集を行い、小委員会に報告を行った。

## 5. 溶断小委員会

溶断小委員会の活動概要は次のとおりである。

### 5.1 活動テーマと進捗状況

#### ① 切断現場での問題点とその対策（その他の情報交換の実施を含む）

保有する熱切断設備に関する概要や問題点・改善事例・メーカへの要望を、ユーザ委員より意見を聞き、委員会にて切断現場での問題点及び疑問点について、ユーザ、メーカ及び学識経験者を交えて意見交換を実施した。

#### ② 各種規格の情報収集及び関連法規の情報収集

今期無し。引き続き情報収集を行う。

#### ③ 見学会

・第2回溶断委員会で、日立製作所笠戸事業所様（山口県）にて見学会を行った。

- ④ 各種切断法での切断特性と切断現象の研究および情報収集
    - ・第3回委員会にて「切断技術に関する最近の文献調査」が配布された。
  - ⑤ その他の情報交換の実施
    - 第1回溶断委員会にて講演3件：
      - 【講演①】厚板溶接（建築鉄骨）での開先形状について（日本溶接協会 松本氏）
      - 【講演②】開先切断機器（小池酸素 畠山氏）
      - 【講演③】造船向け20kWファイバーレーザー開先切断機の活用（日酸 TANAKA 黒澤氏）
    - 第3回溶断委員会にて講演3件：
      - 【講演①】切断音解析に基づくプラズマ切断機のノズル劣化検出方法の開発  
(ジャパンマリンユナイテッド 山内氏)
      - 【講演②】レーザージョブショップの最新加工およびハンドトーチ型  
ファイバーレーザー溶接機の安全（レーザックス 鈴木氏）
      - 【講演③】レーザー加工におけるレーザー安全対策について（山本光学 加尻氏）
  - ⑥ 熱切断労働安全衛生ガイドブックの作成
 

金属加工等の事業を行っていく上で遵守すべき法令・法規についてまとめ、労働安全衛生法令を理解しより良い労働環境を構築できる安全衛生ガイドブックの作成を実施した。2025年度中に委員会メンバーがWEB閲覧可能な環境を整えた。2026年度の講習会は熱切断労働安全衛生ガイドブックから抜粋して行うことを検討した。
- 5.2 その他
- ・切断技術基礎講習会の開催について
 

本年度の熱切断作業の品質と安全講習会は、溶接会館での対面講習会とZoom Webinarによるリモート講習会のハイブリッド開催として2025年10月29日に開催し、溶接会館参加者とWEB参加者の合計36名で行われた。

## 船舶・鉄構海洋構造物部会

### 1. 部会活動

#### 1.1 総会

2025年度部会総会：2025年6月9日@溶接会館+リモート

#### 1.2 役員会

2025年度第1回役員会：2025年9月25日@NINN03（新潟）+リモート

2025年度第2回役員会：2026年3月16日@溶接会館+リモート

#### 1.3 溶接施工委員会

第201回溶接施工委員会：2025年6月9日@溶接会館+リモート

第202回溶接施工委員会：2025年12月16日@ビジョンセンター有楽町+リモート

#### 1.4 WG活動

WG1	WG2	WG3
5/12~13 #5@常石	6/19~20 #5@函館	4/21~22 #4@名村
9/18~19 #6@JMU 横浜	9/8~9 #6@川重坂出	7/14~15 #5@白杵
12/1~2 #7@広島大学	12/4~5 #7@パナソニック豊中	9/4~5 #6@三菱下関
2月 #8@今治丸亀	3/12~13 #8@新来島	11/17~18 #7@サノヤス
		2/2~3 #8@阪大・パナ豊中

- 1.5 その他特記事項  
2025年度部会総会にて松田和貴准教授（九州大学）を溶接施工委員会副委員長に委嘱した。
2. 他団体、他分野との交流による視野の拡大
  - 2.1 本協会規格委員会に参加し、ISO、JIS等の規格案の制定、改正の動向確認、情報収集を行った。
  - 2.2 本協会安全衛生・環境委員会に参加し、溶接における安全及び環境に関する諸問題の確認、情報収集を行った。
3. 溶接材料、機器及び施工法に関する総合調査報告  
例年と同様に全国アンケートにより造船業界の溶接関連データの取りまとめを行った。1963年から始まるこの調査は、造船業界の溶接動向を知る上で貴重な資料となっている。
4. 溶接学会全国大会との連携  
（一社）溶接学会の全国大会において「造船」の業界セッションが設置される場合は本部会も協力することとしている。2025年度の秋季全国大会では造船セッションが開催されなかったため対応はしていないが、委員の知見を深める意図で役員会は秋季全国大会の開催日時と場所に合わせて開催することとし、積極的に全国大会に参加できる環境を提供している。
5. 部会員の動向  
2025年度は㈱三保造船所（当時、現在 常石三保造船㈱）が入会したため、造船 21 事業所・機器材料鉄鋼メーカー8社・1船級協会となっている。

## 機 械 部 会

機械部会では、本部会（ボイラ、圧力容器、配管）及びパイプライン小委員会、並びに国際溶接学会（IIW）第 XI 委員会に対応する日本溶接会議（JIW）の第 11 委員会による年 4 回程度の定例会合同会議を開催している。また、年 1、2 回のパイプライン敷設工事現場等の調査・見学会を行い、これらを通じて最新の技術情報を収集し、製造技術の革新による生産性や品質の向上に関する技術検討及び討議を行ってきた。以下に活動概要を報告する。

1. 本部会関係
  - 1.1 本部会開催日程
    - ・第 130 回 2025 年 5 月 16 日 ㈱神戸製鋼所会議室と WEB 会議の併用（機械部会総会を開催）
    - ・第 131 回 2025 年 8 月 28 日 溶接会館会議室と WEB 会議の併用
    - ・第 132 回 2025 年 12 月 9 日 溶接会館会議室と WEB 会議の併用（化学機械溶接研究委員会との共催）
    - ・第 133 回 2026 年 2 月 20 日 溶接会館会議室と WEB 会議の併用
  - 1.2 JIS、WES 等の新規規格案、改正動向の紹介及び改正への対応  
WES 規格の制改廃案件について、部会内で書面審議を行った。また、規格委員会、安全衛生・環境委員会に参加し、業界動向把握を行った。
  - 1.3 ボイラ、圧力容器、パイプラインの溶接に関する委員会への参加と技術情報の紹介  
IIW-XI 委員会、日本圧力容器研究会議（JPVRC）へ参加し情報共有を行った。
  - 1.4 特別講演会の開催  
溶接技術の動向についての知見を広めることを目的に、特別講演会を年数回開催している。今年度は以下の講演会を開催した。
    - ・第 130 回本部会  
「小型可搬型溶接ロボット ARCMAN™PORTABLE KI-700 による LNG タンクの自動溶接施工事例」  
（㈱神戸製鋼所 三輪 剛士 氏）
    - ・第 131 回本部会  
「ノーブロー工法（活管分岐・遮断工法）について」

JFE エンジニアリング㈱ 野木 俊克 氏

・第 132 回本会議

「高圧水素ガス環境下でのラインパイプ材および周溶接部の機械特性評価」

日鉄エンジニアリング㈱ 清川 裕樹 氏

・第 133 回本会議

「接合から積層へ、溶接技術の再定義が進む WAAM の最前線」

愛知産業㈱ 木寺 正晃 氏

### 1.5 会員の動向

現会員は、10 社と 2 団体で、㈱IHI、三菱重工業㈱、東京ガスネットワーク㈱、大阪ガスネットワーク㈱、東邦ガスネットワーク㈱、㈱神戸製鋼所、JFE エンジニアリング㈱、日鉄エンジニアリング㈱、日鉄パイプライン&エンジニアリング㈱、独逸機械貿易㈱、(一社) 日本ガス協会、(公社) 日本水道協会が昨年度と同様であった（順不同）。

### 1.6 工場視察の開催

㈱神戸製鋼所茨木工場にて、軟鋼溶接材料の製造工程を視察した。成型から伸線、包装までの各工程を見学するとともに、製造スタッフとの意見交換を通じて長手方向の品質管理項目等への理解を深めることができ、今後の参考となる大変有意義な機会となった。



写真 1 工場玄関前での集合写真

## 2. パイプライン小委員会活動

### 2.1 最新のパイプラインの溶接及び施工技術の情報収集及び技術論文の調査と技術検討

パイプライン溶接技術に関する情報収集を行った。ASME の International Pipeline Conference (IPC) のパイプラインの溶接、施工技術に関する論文等を調査し、有意なものとして以下の論文の解説と技術討議を行った。

- ・ IPC2022-87273 「PIPELINE DEFECT DETECTION USING ARTIFICIAL INTELLIGENCE-BASED ACTIVE ACOUSTIC SENSING」

日鉄パイプライン&エンジニアリング㈱ 矢野 嘉孝 氏

- ・ IPC2024-133837 「FRACTURE TOUGHNESS AND MANAGEMENT OF CRACKING IN HYDROGEN PIPELINES」

日鉄エンジニアリング㈱ 清川 裕樹 氏

- ・ IPC2024-133538 「COMPOSITE REPAIR OF LARGE-SIZE DIAMETER PIPE WITH SEVERE METAL LOSS」

東邦ガスネットワーク㈱ 野澤 皓平 氏

### 2.2 パイプライン関連工事現場の調査

大阪ガスネットワーク㈱の尼崎・久御山ラインの建設工事の状況を見学した。ガバナステーション、建設ルート及びシールドトンネルの立坑を見学させていただいた。今回の工事状況の見学は非常に有意義なものであった。



写真2 シールド立坑内での集合写真

### 3. IIW-XI 委員会対応

#### 3.1 2025 年 IIW 年次大会第 XI 委員会への対応

2025 年度の IIW (国際溶接学会) 年次大会は、イタリア・ジェノバで開催された。第 XI 委員会には、当部会から 1 名、大阪大学から 1 名の計 2 名が出席した。

本委員会では、今年度実施された 2 回の中間会議の報告に続き、各小委員会の主要テーマに関する技術発表が行われた。発表件数は前年同様の 27 件ののぼり、活発な質疑応答が交わされた。日本からは、日鉄 P&E/藤田より、水素パイプラインに関する最新の研究成果が報告された。

また、今回は通常のセッションに加え、C-XI と ASME IWG (米国機械学会・国際作業部会) による共同セッションが初めて開催され、10 件の報告がなされた。ASME との合同セッションは例を見ない試みであり、多くの聴講者が集まるなど、国際的な規格連携への関心の高さがうかがえる有意義な機会となった

## 車両部会

### 1. 本部会

車両部会は、鉄道会社、車両メーカー、溶接材料/溶接機器メーカー及び材料メーカーを会員として「鉄道車両製作における溶接技術の研鑽、溶接品質の向上」を目的に、アルミ車体溶接研究委員会、鉄・SUS 車体溶接研究委員会及び台車溶接研究委員会の三研究委員会体制で活動している。

本年度は、2025 年 6 月 6 日に部会総会を開催し、各委員会の活動報告と活動予定について審議・承認した。活動内容は、第 2 項 (委員会) の通りである。

また、同部会総会終了後は、パナソニック コネクト㈱ 西脇 隆太氏より「iWNB (統合溶接管理システム) について」をご講演いただいた。iWNB によって稼働状況・消費電力・作業実績など溶接に関するデータを見える化でき、今後溶接に関する課題の解決方法の手段になると説明頂き、参加者一同大いに知見を深めることができた。

### 2. 委員会

#### (1) アルミ車体溶接研究委員会

2025 年度は委員会を 4 回開催した。主な活動内容として各社から起案されたアンケート調査の中において

「デジタルデータ・3Dデータの製造活用」及び「厚板溶接時の入熱、歪の低減方法について」を審議した。

「デジタルデータ・3Dデータの製造活用」については各社工程進捗や現場帳票の管理、また3次元モデルにおいては各社でロボットや加工機等のオフラインティーチングやプログラム作成、生産現場向け指示書などへの活用が進んでいる一方、デジタルデータでは特にそのデータを取り扱う人財の育成や管理の負担増、3次元モデルにおいては製造側と設計側で必要とするインプット情報が異なる等、共通の課題も挙げられた。

「厚板溶接時の入熱、歪の低減方法について」アンケートでは、各社とも必要に応じて開先形状の調整による入熱低減や、冷却・拘束による歪み低減を実施していたが、適用規定や定量的基準があいまいで現場判断にまだ依存している点、余盛脚長の上限や多層盛り時の温度管理などで認識が統一されていない点が課題として指摘された。

本年度の異業種交流会（見学会）は、12月に瀬戸内クラフト㈱（広島県）を訪問した。主にアルミ合金製の旅客船・作業船・監視船など小～中規模船舶の建造を行っており、見学会では建造中の船体外殻から操舵室、機関室など内部構造まで詳細を視察し、アルミ製車両との相違点を含め非常に多くの知見を得た。

また、特許委員会へ委員を派遣し、「溶接注目発明賞（JWES）」及び「特許庁長官賞」審査委員会に参画した。



アルミ車体溶接研究委員会 工場見学会  
瀬戸内クラフト㈱（広島県）（2025.12.19）

## (2) 鉄・SUS車体溶接研究委員会

2025年度は委員会を4回開催し、溶接会館での会議及び委員会社の工場見学会を実施した。

活動内容は各社から起案されたアンケート調査で、「抵抗スポット溶接機に変化点が生じた際の対応」、「熱中症対策の取り組み状況」及び「スポット溶接機のロボット（自動・無人）化」について審議した。

「抵抗スポット溶接機に変化点が生じた際の対応」では、スポット溶接機の各種部品を交換または修繕した場合における性能試験（連続打点による試験）、または独自の確認（加圧力、電流測定等）の有無についてアンケートを行い、各社ポータブルガン、自動機、シリンダ、トランス、2次側ケーブル等の重要な部品が主な確認箇所、確認方法は連続試験や独自の確認（加圧力や電流の測定、テストピースによる試験）等を実施していることがわかった。

「熱中症対策の取り組み状況」では、地球温暖化の進行や都市化の影響により、夏季の高温環境が深刻化しており、2025年に行われた労働安全衛生規則の改正により、全ての事業者における熱中症対策が罰則付きで義務化されたことから、各社の熱中症対策の取り組み状況についてアンケート調査を行った。その結果、各社でほぼ同様の施策が実施され、それぞれ施策は熱中症対策の基本となる①暑さを避けること、②こまめな水分補給、③涼しい服装を踏まえており、実効性が高いものとなっていることがわかった。

「スポット溶接機のロボット（自動・無人）化」では、各社のスポット溶接機の現状（工程毎の使用設備の詳細、打点数、タクトタイム、困り事等）、ロボット化・完全自動化の意向等についてアンケートを行い、今後の技術開発や提案活動に役立てることを目的として実施した。その結果、困り事は「可視化・冷却・

安全（干渉）・作業負荷・保全」に大別されて短期の改善余地が大きいこと、また、自動化の導入意向は前向き回答と慎重姿勢が混在していることがわかった。

委員会社の工場見学会は、近畿車輛株式会社（大阪府）にて行い、車両製造工程を見学し、製造における方法、考え方などについて意見交換する事で今後の各社での取り組みの参考になった。

4回の活動とは別に、規格委員会 溶接規格専門委員会 薄板接合技術小委員会（ISO/TC 44/SC 6 対応）に幹事会社から委員を派遣し、車両製造の視点における情報収集した。



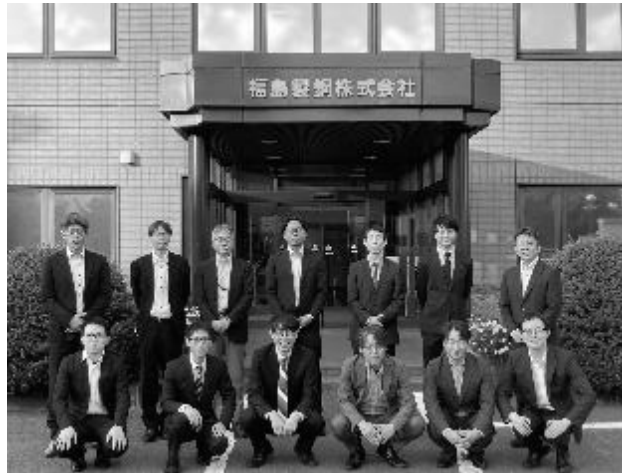
鉄・SUS 車体溶接研究委員会 工場見学会  
近畿車輛株式会社（大阪府）（2025. 11. 28）

### (3) 台車溶接研究委員会

2025 年度は委員会を 4 回開催し、溶接会館での会議及び異業種の工場見学会を実施した。活動内容としては「鋳物管理基準」についてアンケート案を審議し、各社からの回答をとりまとめ、管理方法を共有した。また、10 月に鋳物メーカーである福島製鋼株式会社を訪問し、鋳物の製造工程を見学し、鋳物の製造方法やシミュレーション解析による品質確保等の説明を受け、台車製造に不可欠な鋳物に関する知見を大いに深める事が出来た。

また、研究テーマとして「台車枠適用母材と割れ感受性に関する調査」を行った。国内向けの台車枠では主に SM400・490 などの鋼板と STKM13・18 などのシームレス鋼管、溶接材料は各母材強度に対応したソリッドワイヤーや溶接棒を使用しているが、気温の低い時期に低温割れと思われる小さな割れの発生事象が報告されている。そこで、各種試験によって割れ感受性を評価し、低温割れリスクや施工及び溶材選定のポイント等をまとめ、台車枠の溶接施工管理の指標とすべく研究を行った。研究内容としては、各社の管理方法・施工方法に関するアンケートを審議するとともに、各社で実際に使用している母材の成分分析やシャルピー試験を実施、また溶接試験片を用いて実際に気温の低い時期に各社で溶接を行い、それらを断面マクロ・ミクロ観察、硬度測定を実施した。

その他、安全衛生・環境委員会への委員派遣は継続している。



台車溶接研究委員会 工場見学会  
福島製鋼(株) (福島県) (2025. 10. 17)

### 3. 三研究委員会合同委員会

今年度は2026年1月29日の1日にて開催し、㈱日立ビルシステム 水戸事業所(茨城県)の工場見学及び三研究委員会合同委員会を実施した。

会社及び水戸事業所の概要を資料、並びにビデオで説明された。続いて、エレベーター研究棟(G1 TOWER)、並びにエレベーター及びエスカレーターの製造工程を見学した。エレベーターのレールの加工・矯正工程から、巻上機の組立、部材の機械加工、エレベーターのドアの組立、エレベーターフレームの製缶組立および艤装作業など多岐にわたる工程について見学することができ、委員一同参考となった。

また、三研究委員会合同委員会では、次年度の運営体制変更について、各研究委員会の活動状況報告などが行われた。



三研究委員会合同委員会 工場見学会  
㈱日立ビルシステム 水戸事業所(茨城県) (2026. 1. 29)

## 自動車部会

2025年度は2回の本部会及び1回の幹事会を開催した。

### 1. 本部会・幹事会

回数・名称	開催日	開催場所	議題他	出席者
第1回幹事会	2025年5月28日	JFE スチール(株) スチール研究所 (千葉県)	1. 前回議事録の確認 2. 役員及び幹事の交代について 3. 2024年度 活動報告の確認の件 4. 2024年度 決算報告、監査報告及び承認の件 5. 2025年度 事業計画の確認の件 6. 溶接技能者資格における新規薄板種別の追加の件 7. ろう部会との交流会の件 8. 2025年度 予算(案)の審議及び承認の件 9. その他 ※同研究所の金属材料の試験・検査技術を見学した。	27名
第1回本部会	2025年9月19日	マツダ(株) 本社工場 (広島県)	1. 前回議事録案の確認 2. 幹事・部会員の交代の件 3. スズキ 退会の審議 4. 溶接技能者資格における新規薄板種別の追加アンケート集計の件 5. 包括連携分科会の取組みについて 6. 人材確保・人材育成について 7. その他 ※同社の自動車製造の溶接工程を見学した。	40名
第2回本部会	2026年3月25日	(株)神戸製鋼所 真岡製造所 (栃木県)	1. 前回議事録案の確認 2. 役員会社及び特別委員会 幹事会社派遣の審議 3. 2025年度活動報告及び2026年度事業計画の審議及び承認 4. 2025年度推定決算及び2026年度予算(案)の審議及び承認 5. 人材育成・人材確保の進捗報告 6. 包括連携分科会の報告 7. その他 ※同社のアルミ材の熱間圧延工程などを見学した。	26名

## 2. 工場見学

2.1 2025年5月28日にJFE スチール(株) スチール研究所及びJFE テクノリサーチ(株)を見学した。



写真1-JFE スチール(株) スチール研究所

2.2 2025年9月19日にマツダ(株) 本社工場を見学した。



写真 2—マツダ(株) 本社工場

2.3 2026年3月25日に(株)神戸製鋼所 真岡製造所を見学した。



写真 3—(株)神戸製鋼所 真岡製造所

### 3. 人材確保及び人材育成について

中長期的な活動とすべく、部会員に対して大学生・大学院生を対象とした PR 活動に関するアンケートを実施し、対応を検討した。

4. 規格委員会 溶接規格専門委員会、溶接規格専門委員会 薄板接合技術小委員会 (ISO/TC 44/SC 6 対応)、特許委員会及び安全衛生・環境委員会に担当幹事が自動車部会を代表して参加し、情報の収集及び意見交換を行った。

## 建設部会

### 1. 本部会

建設部会はゼネコン、鉄骨・橋梁のファブリーケーター、溶接材料メーカー等を会員とし、中立機関を含めて 13 会員で構成している。2025 年度の部会は、対面+WEB 会議にて計 3 回開催された。内容を以下に報告する。

#### 1.1 建築鉄骨の若手技能者・技術者向けの講習会 [2025年6月20日、2026年3月24日]

2024 年度から始めた建築鉄骨の若手技能者・技術者向けの講習会を 2025 年度も実施することとし、2024

年度と同様にテキスト作成 WG を設置し、講習会テキストを見直した。講習会テキストは、2024 年度講習会の受講生のアンケート結果をできるだけ反映させた。

講習会は 2024 年度と同様に「建築鉄骨の溶接の勘所」のタイトルで 12 月 16 日に開催し、受講者は 50 名であった。プログラムは、①溶接の基礎知識、②工場溶接、③鉄骨工事における工事現場溶接、④溶接部の品質管理・検査とし、品質管理や品質保証に必要な基礎知識だけでなく、最新の工場溶接や現場溶接の技術についても説明した。なお、今年度の講習会の受講生アンケートの内容を確認し、来年度の講習会内容について議論した。来年度は講習会 WG を設置して検討していく。

#### 1.2 研究テーマについて [2025 年 6 月 20 日、2026 年 3 月 24 日]

当部会の今後の研究テーマについて議論した。鋼橋および建築鉄骨における溶接に関する基準や溶接技術の課題への取り組みなどの提案があり、引き続き、検討することにした。提案があった主なテーマとして、鋼床版デッキプレート突合せ継手の狭開先溶接、組立溶接の再溶融による溶接金属部の強度への影響、フェイズドアレイ探傷の適用などである。

#### 1.3 製作工場見学会 [2025 年 10 月 20 日]

新型コロナウイルス禍のため中断した製作工場・施工現場見学会を再開し、10 月 20 日に建築鉄骨の製作工場である川田工業株式会社 栃木工場の見学会を開催した。この見学会はロボット溶接研究委員会との合同とし、活発な意見交換がなされた。来年度も見学会を実施していく予定である。

#### 1.4 溶接協会内委員会への委員派遣

本年度は、下記 2 委員会へ委員派遣を行った。

- ・規格委員会
- ・安全衛生・環境委員会

## 鉄鋼部会

### 1. 本部会並びに幹事会

鉄鋼部会はわが国の鉄鋼の溶接に関する技術の向上並びに普及を図ることを目的に、破壊・疲労などに関する研究動向の把握及び海外も含めた調査を行うとともに、最新の技術・情報を反映した規格化及び標準化活動を推進している。

#### 1.1 本部会並びに技術委員会活動内容

本年度は対面形式により部会総会を行い、2024 年度の事業報告、決算報告並びに監査報告を行った。また、2025 年度の事業計画案を審議して、これを了承した。

#### 1.2 本部会・幹事会活動内容

##### 1.2.1 委員会の活動状況の確認、調整

幹事会では、2022 年度から活動を継続している 2 つの委員会の活動に関し、意見交換、研究対象及び研究内容の具体化のための活動推進を行った。

##### 1.2.2 規格改正

規格委員会からの JIS、ISO、WES 規格等に関する審議依頼に対応して、鉄鋼部会としての意見を取りまとめ、回答した。

WES 定期見直しに関し以下の対応を実施した。WES 1108:2025（亀裂先端開口変位（CTOD）試験方法）及び WES 3009:2025（溶接割れ感受性の低い高張力鋼板の特性）は改正した。WES 1104:2025（インプラント形溶接割れ試験方法（追補 1））及び WES 3003:2025（低温用圧延鋼板判定基準（追補 1））は追補改正した。WES 3008:1999（鋼板及び平鋼の厚さ方向特性）は廃止した。

上記に関連して、英訳版 WES 3003:2025（Evaluation Criterion of Rolled Steels for low Temperature Application（Amendment 1））を追補改正した。英訳版 WES 1108:2016（Standard test method for crack-tip opening displacement（CTOD）fracture toughness measurement）及び英訳版

WES 3009:1998 ( Supplementary Requirements for High Strength Steel Plates with Low Susceptibility to Cold Cracking) を廃止した。

#### 1.2.3 他専門部会・特別研究会及び他学会との連携

##### (1) 規格委員会幹事会・本委員会

規格委員会幹事として幹事会及び本委員会に参加し、種々の規格の制定及び改正原案並びに定期見直しに関する議論を行った。

##### (2) JPVRC (日本圧力容器研究会議)

JPVRC は、日本鉄鋼協会が材料部会を、日本高圧力技術協会が設計部会を、日本溶接協会が施工部会を担うことによって3協会3部会で構成されている。鉄鋼部会として参加し、3部会および溶接協会内での情報交換を行った。

#### 1.3 WES 2805 改正委員会

WES 2805 (溶接継手のぜい性破壊発生及び疲労亀裂進展に対する欠陥の評価方法) は、溶接継手の割れや欠陥からのぜい性破壊、及び疲労亀裂進展による損傷とぜい性破壊への移行に対する評価方法を規定した規格である。本委員会は WES 2805 の構成の全面改正も視野に入れて活動を開始し、2022 年度は、鉄鋼部会 CRB 委員会 (CTOD Requirement for Butt joint、2018 年から 2021 年にかけて活動) の知見など関連する最新の研究成果の整理や、ユーザーアンケートによるニーズ把握を行った。2023 年度は、CTOD 駆動力曲線の整備ならびに極厚継手溶接部へのシャルピー靱性と破壊靱性の相関式の適用性検討を重点課題に据え、ワーキンググループ (WG) をそれぞれ設置して改正に向けた具体的検討を開始した。2024 年度は、CTOD 駆動力曲線の整備 (WG-A) において、ひずみ集中を有する部材の CTOD 駆動力曲線を算定する新しい手法 (2カーブ法: 平板モデルと局所高拘束モデルを用いた CTOD 駆動力曲線算定法) を提案するに至った。また、シャルピー靱性と破壊靱性の相関式拡張 (WG-B) において、CRB 委員会と RTW 委員会のデータを基に極厚継手溶接部に対する WES 2805 の相関式の適用の妥当性を検証し、改正時に反映させることとした。

2025 年度は、提案した 2 カーブ法の実継手への適用性の検討に注力し、表面亀裂を有する突合せ溶接継手およびすみ肉溶接継手の弾塑性 FEM 解析を実施して精度検証と課題抽出を行った。また、実験による検証のための継手の設計と製作を進め、次年度以降の実験準備を整えた。

#### 1.4 建築高強度鋼 (780N/mm<sup>2</sup> 級鋼) アンダマッチング継手研究委員会

##### 【BUH 委員会 (Building application of Undermatching joint for High strength steel)】

建築構造物の柱構造への高強度鋼 (780N/mm<sup>2</sup> 級鋼) 普及のネックを解消することを目標として、母材より強度が低く溶接施工性の良い溶接材料を用いたアンダマッチング継手 (軟質溶接継手) 採用を促進するため、大学、ゼネコン、設計事務所、ファブリケータ、溶材メーカー、鋼材メーカーなど多方面から委員を募り、2022 年度に活動を開始した。

2022 年度は、検討内容を四面 BOX 柱の角溶接部の構造性能評価と溶接割れ評価に絞り込み、構造性能 WG と溶接施工 WG の 2 つのワーキンググループを設置した。

2023 年度は、構造性能 WG において、アンダマッチング溶接で組み立てられた溶接組立箱形断面接合部パネルのせん断挙動を検討するために、建築研究所の実験設備を用いた平面十字形骨組の載荷実験計画を策定した。溶接施工 WG において、アンダマッチング多層 SAW 角溶接の横割れ発生メカニズムを解明するため、板厚 85mm、予熱なしの条件で窓形拘束溶接割れ試験を実施した。

2024 年度は、構造性能 WG において、角溶接金属強度と母材強度の比を 3 種類 (強度比: 0.98、0.87、0.62) とした平面十字形骨組の載荷実験を実施し、3 体ともに破断を生ずること無く、十分な耐力・変形能力を発揮することを明らかにした。溶接施工 WG において、前年度の窓形拘束溶接割れ試験の結果を分析し、HAZ 側の板厚中央付近に横割れを検出した。

2025 年度は、前年度の構造実験で極端なアンダマッチング溶接の試験体が超大変形時に角部に沿った延性き裂を発生したことから、構造性能 WG において、アンダマッチング継手のせん断要素試験とその再現 FEM 解析を実施し、せん断卓越下での延性き裂発生の限界歪を導出した。また、構造実験の結果を取りまと

めて日本建築学会構造系論文集に投稿した。

溶接施工 WG において、横割れが検出された溶接部の硬さ試験を実施し、中央偏析と多重熱サイクルによる局所的脆化域の特徴が得られた。窓枠拘束溶接割れ試験の再現 FEM 解析も実施し、溶接線方向の残留応力が卓越していることが確認され、これらの重畳により横割れが発生した可能性が示唆された。

## ろう部会

### 1. 本部会

- 1.1 2024 年度事業報告を承認した。
- 1.2 2024 年度決算報告を承認した。
- 1.3 2025 年度事業計画案を承認した。
- 1.4 2025 年度予算案を承認した。

### 2. 業務委員会

- 2.1 事業報告・計画、決算・予算の検討を行い本部会上に上申した。
- 2.2 ろう部会全体の活性化について検討を行った。
- 2.3 ろう部会入会案内の検討を行った。
- 2.4 銀ろうの市場調査を行った。
- 2.5 機関誌「ぶれいず」の企画及び発刊を行った。
- 2.6 部会文献（ぶれいず技術特集編、ろう付 DVD 等）の頒布を行った。
- 2.7 ろう付技術資料（DVD 等）の最新版改訂の検討を行った。
- 2.8 「ぶれいず友の会」の運営を行った。
- 2.9 技術委員会との共通問題の審議を行った。
- 2.10 「現場に役立つろう付技術講習会」の企画及び実施を行った。

### 3. 技術委員会

#### 3.1 本委員会

2025 年度の技術委員会の本委員会の開催はなかったが、各小委員会は活発な活動がされた。

### 4. 先端材料接合委員会

先端材料接合委員会では 2025 年度において 3 回の講演会を行った。そのうち、第 2 回委員会では、溶接学会「界面接合研究委員会」との合同委員会を開催した。

#### 4.1 第 1 回委員会

- ① 鉄鋼材料とアルミニウムの炉中ろう付
- ② チップと基板の固相接合における短時間接合の検討
- ③ ろう付用アルミニウム材料における熔融ろうの生成挙動
- ④ ヘテロ凝固機構とそのデポジション式積層造形法への応用

#### 4.2 第 2 回委員会 溶接学会「界面接合研究委員会」との合同委員会を開催した。

- ① マテリアルズ・インフォマティクスの「状態図と熱処理」
- ② ステンレス鋼ろう付の際のニッケルろう材中のボロンの有効性
- ③ 真空バルブに用いられる接合技術および表面制御技術
- ④ 核融合炉ダイバータにおけるろう付け技術の適用：ITER プロジェクトにおける製作実績に基づく要件と認証プロセス
- ⑤ 金属-セラミック接合体界面における接合強度のマルチスケール解析
- ⑥ ろう付関連規格の最新動向と将来展望

#### 4.3 第 3 回委員会

- ① リフロー実装に対応するはんだ付け性試験の新規前処理の検討

- ② 逐次近似多目的最適化のパワーデバイス構造最適化への適用による短時間化
- ③ 陽極接合における導体側材料の酸化反応の応用
- ④ マルチフェイズフラックスの流動物性と交流電場を用いたセンシング

## 5. 規格調査・分析委員会

規格調査・分析委員会の担当内容は以下の①～②である。

- ① ろうに関わる規格（JIS、ISO、WES などのろう材、ろう材分析法、ろう付試験方法）の制定や改正、廃止などの精査および JIS 定期見直しに対応した。
  - ② 2025 年度においては 2025 年 6 月、9 月、12 月、2026 年 2 月の 4 回委員会を開催した。ISO 会議（TC44/SC13）は 2025 年 12 月にオンラインで開催され、3 名が出席した。
- 5.1 ろうの材料規格については、該当する国際規格である ISO 17672 の改正が完了し 2024 年 4 月に発行された。本年度は、当該規格に対応する JIS 規格の改正を目的としてワーキンググループ（WG）を立ち上げて審議を進め、素案作成を完了させた。また当該素案を基に、JIS Z 3270 原案作成委員会立ち上げの申請を行い、2026 年 4 月より同委員会が開始されることとなった。来年度も引き続き審議を進め、原案作成を完了させる計画である。
- 5.2 溶接用語の規格改正について、本委員会において JIS Z 3001-3「溶接用語—第 3 部：ろう接」を対象とした。本規格はろうおよびはんだの双方に関連することから、はんだ部会の委員と合同で原案作成委員会を立ち上げ審議を進め、改正原案完成・改正作業完了となった。
- 5.3 ろうの分析に関する規格について、昨年度に実施したアンケート調査の結果、既存の分析規格に使用実態が確認されたことから、現行規格については現状を維持する方針とした。一方、JIS Z 3270 において新たに規定される成分および不純物が存在し、既存の分析規格では対応できない項目があることから、分析通則等を含め引用可能な規格を検討する必要がある。このため、WG を立ち上げ審議を行うこととした。

## はんだ・微細接合部会

### 1. 本部会及び幹事会

2025 年度部会総会は 2025 年 5 月 15 日（木）に開催された。2024 年度事業報告、2024 年度決算書、2025 年度事業計画（案）、2025 年度予算書（案）の説明があり、すべて議案通り承認された。

新たな部会・委員会リストに基づき、はんだ・微細接合部会規則、並びに部会会員の異動等について確認を行った。また、経済産業省等からの要望に応える形で 2011 年度から実施している部会会員会社の年間のはんだ生産量（はんだ生産量統計調査）について、集計調査結果が本部会で報告された。本調査については、生産実績調査表を用いて今後も継続して調査することが承認された。

幹事会は 2026 年 2 月 19 日（木）に実施され、第 40 期役員案、2025 年度の暫定決算及び活動概要、2026 年度予算案、はんだ生産量調査結果を審議し、環境省内の廃棄物処理制度小委員会の活動を紹介した。また、2024 年度の研究成果報告および 2025 年度の研究協力金申請については、2025 年 6 月 25 日（水）～6 月 30 日（月）に書面審議により審議を行った。

### 2. 技術委員会及び規格分科会

#### 2.1 国内はんだ及びはんだ付関連規格の改正及び整備

##### 2.1.1 JIS 改正

###### ① JIS 5 年見直し

2025 年度に見直しとなる以下の 3 つの JIS に関して、確認見直しを行った。

JIS Z 3282:2017 はんだ—化学成分及び形状

JIS Z 3283:2017 やに入りはんだ

JIS Z 3910:2017 はんだ分析方法

###### ② JIS Z 3001「溶接用語」

公募区分 24C（原案作成期間：2024/10/1～2025/5/31）に応募した JIS Z 3001-3「溶接用語—第3部—：ろう接」の改正にあたり、原案作成委員会に参画して原案作成を行った。本 JIS は 2025 年 12 月 22 日に改正公示された。

## 2.2 国際規格関連

### 2.2.1 ISO 規格への対応

ISO/TC 44/SC 12 会議が 2025 年 4 月 9 日（水）および 2025 年 12 月 3 日（水）の 2 回、Hybrid 会議方式で行われた。日本から提案している焼結型接合材料の国際標準化に向け、焼結型接合材料国際標準化研究委員会で進めている内容について概要の説明、NP（New work item Proposal）提案を行った。

#### (1)2025 年 4 月 9 日（水）開催分

- ・焼結型接合材料国際標準化に向けた概要説明

焼結型接合材料国際標準化研究委員会の設置経緯、プロジェクトの目標、計画、規格に掲載する項目や各評価方法の概要を説明し、次回の SC 12 会議で規格草案を提出する旨報告した。

- ・プリフォームはんだに関するプロジェクト提案

中国からプリフォームはんだに関するプロジェクトが提案され、ISO 9453:2020 との適用範囲の重複等協議したが、懸念はないとの結論になった。SC 12 会議の中で、ISO 12224 に新しいパートを設け、そこにプリフォームはんだに関する内容を制定する方向で検討する運びとなった。

#### (2)2025 年 12 月 3 日（水）開催分

- ・焼結型接合材料国際標準化に向けた NP 提案

焼結型接合材料国際標準化研究委員会で進めている内容について規格草案を作成し、規格の目的、適用範囲、規格に掲載する項目や各評価方法の概要を説明した。NP 提案は受け入れられ、投票に進むこととなった。

- ・プリフォームはんだに関するプロジェクト提案

中国の国家機関がプリフォームはんだに関する新たな規格草案を作成している旨、中国から説明があり、2025 年 4 月 9 日の SC 12 会議で使用した書類関連の差し替え要望があった。作成中の規格草案には、プリフォームはんだの試験方法も含まれる予定である。ISO 12224 の新しいパートとして制定する意志があり、次回会議迄に準備する旨報告された。

### 2.2.2 IEC 規格への対応

IEC/TC 91 活動は、WG2：5 月 29 日（シンガポール）、10 月 16 日（エバンストン/USA）および WG3：5 月 27 日（シンガポール）、10 月 14 日（エバンストン/USA）にハイブリッド会議方式でそれぞれ開催され、日本溶接協会より 2 名が WEB 参加した。

- ・WG2

- 文書メンテナンス案件として IEC 61190-1-3 ED3 (Attachment materials for electronic assembly - Part 1-3: Requirements for electronic grade solder alloys and fluxed and non-fluxed solid solder for electronic soldering applications) を担当。

本文書類の IPC 規格として J-STD-006C が制定されており、はんだ合金組成、不純物規格について規定している。現状は IEC 文書と IPC 文書間で幾つかの不一致が発生している状況にあり、日本がプロジェクトリーダーとなってこの相違を考慮して新しく ED4 としての改訂を行っていくこととなった（2028 年初頭の IS 化目標）。

- ・WG3

- イギリスより、「New Business」として、IEC61189-5-501：General test methods for materials and assemblies - Surface insulation resistance (SIR) testing of solder fluxes の改訂案が出された（内容は、試験に使用される試験片の改訂）。日本溶接協会委員がエキスパートとして登録され対応を行った。

CD 文書が 10 月に出され、12 月に投票が行われた。日本からは、「コメントなし賛成」の投票

を行った。

### 2.3 高鉛含有はんだ代替接合材料規格化 WG

2019 年度に高鉛含有はんだ代替接合材料規格化準備 WG を立ち上げ、2022 年度までの 3 年間、部会内で WG 活動を行い、2023 年度からはエネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費 省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野（新規対応分野））「半導体デバイス向け焼結型接合材料に関する国際標準化」に本部会からの提案が採択されたため、焼結型接合材料国際標準化研究委員会に活動の中心を移し、本規格化 WG は必要に応じて開催することとした。2025 年度の開催はなかった。

### 2.4 焼結型接合材料国際標準化研究委員会

2022 年度の産業標準化推進事業委託費/戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動による「半導体デバイス向け焼結型接合材料に関する標準化調査」を経て、2023 年度からエネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費 省エネルギー等国際標準開発（国際標準分野（新規対応分野））「半導体デバイス向け焼結型接合材料に関する国際標準化」に採択され、部会内に「焼結型接合材料国際標準化研究委員会」を設置し、3 年間の活動を実施した。最終年度である 2025 年度は、主に 2024 年度に委員を中心にラウンドロビンをテストを行い試験手順などの確認と問題点の洗い出しを行った熱伝導率試験、機械的特性試験、接合部接合強度試験、印刷性試験と、既存装置を利用した試験方法と新規に簡易試験方法を検討した焼結開始温度試験の 5 種類の試験方法を含む国際規格文案を策定し、2025 年 12 月 3 日開催の ISO/TC 44/SC 12 会議に新規プロジェクト案として提案、審議された。

### 2.5 WES 2810 JIS 化検討 WG および JIS 原案作成委員会

JIS 公募区分 25A に申請を行った WES 2810 をベースとした「鉛フリーはんだ対応はんだこて試験方法」の原案作成について、2025 年 7 月 3 日に Z 区分での作成が承認された。8 月 19 日に WES 2810 JIS 化検討 WG を実施して WG としての原案検討を実施し、9 月 4 日に JIS Z 3199 原案作成委員会を開催した。その後、原案作成分科会および原案作成委員会を開催して JIS Z 3199 本文および解説案を作成した。

### 2.6 他団体、他委員会との連携・協力

（一社）電子情報技術産業協会 TC 91 国内委員会へ協力し、鉛フリーはんだ関連等の国際規格改訂への協力をを行った。

### 2.7 環境規制調査・対応 WG への協力

有害物質や環境負荷の高い薬品類に関する規制法案がいくつか検討されており、それらの動向調査を目的とした部会メンバーで構成されるワーキンググループの活動に協力できる体制を維持している。

## 3. 微細接合技術分科会

2025 年 7 月 30 日に溶接会館 2 階ホールとオンラインでの Hybrid 方式にて、「～多様な社会課題に応えるエレクトロニクス実装技術・材料の最前線～」というテーマで、はんだ・微細接合部会主催のシンポジウムを開催した。

本シンポジウムには、（一社）エレクトロニクス実装学会、（一社）スマートプロセス学会 エレクトロニクス生産科学部会および当協会マイクロソルダリング要員認証委員会の協賛、（一社）電子情報技術産業協会の後援を頂き、3 件の講演、当部会会員企業 4 社からの技術紹介が行われ、会員外の参加者も含め 59 名の参加を得た。

## 圧力設備サステナブル保安部会

### 1. 本部会

下表議題で本部会を開催した。

開催日	会議名	決定事項等
5月27日	第1回	・2024年度 活動報告、会計報告 ・2025年度 活動計画、予算計画

## 2. 規格原案作成委員会

(1) WES 9801 特定認定高度保安実施者による保安検査基準（2025年版：2025年7月1日制定）を“保安検査の方法としての民間規格”として審議してもらうため、申請書類と共に設備技術規格評価委員会に提出した。

(2) 次の2つの規格の2026年版について委員会を2回開催。委員会で承認した素案を規格委員会に提出する予定。

- ① WES 9801 特定認定高度保安実施者による保安検査基準
- ② WES 9802 圧力設備の維持管理基準

(3) 2026年版での主な改正内容は以下の通り。

API 及び ASME 規格の維持管理手法について保安検査基準として適用するために技術的な整理を進め、以下について新たにこの規格に反映した。

- ① 供用適性評価手法の適用拡大
- ② WES 9801 を使用する者の資格要件

開催日	審議内容
9月18日	・2つの規格の本体・解説
10月23日	・2つの規格の第1回規格原案作成委員会でのコメント対応の確認 ・2つの規格の解説

## 3. 規格原案作成ワーキング

規格原案作成委員会に、次の2つの2026年版を提出するため、ワーキングを開催した。

- (1) WES 9801 特定認定高度保安実施者による保安検査基準
- (2) WES 9802 圧力設備の維持管理基準

検討内容	回数
・本体および解説の改正内容検討 ・規格原案作成委員会でのコメントへの対応検討	4回

## 4. 事例共有委員会

(1) 以下を目的とした講演会を石油学会主催・日本溶接協会協賛で実施した。

- ① WES 2820 圧力設備の供用適性評価方法- 減肉評価に関する教育（化学機械溶接研究委員会と協働）
- ② 高圧ガス保安検査民間規格（複線化）導入経緯の説明
- ③ WES 9801/9802 特定認定高度保安実施者による保安検査基準の説明
- ④ 不具合事例に関する本質的原因及び再発防止策の説明

開催日	講演会名称
11月25日	WES 2820（圧力設備の供用適性評価方法- 減肉評価）講習会
11月26日	第2回圧力設備保安セミナー ～現場保全技術者の教育講座～

(2) 保安検査のチェックリストおよび規格に関するガイドライン作成のためのワーキングを招集した。

- ① チェックリスト WG：各社・各事業所で使用している保安検査のチェックリストが異なっているため、共通したチェックリストを作成し、WES 9801 に反映することを目的とする。
- ② ガイドライン WG：事業者が WES 9801/9802 を活用しやすいようにガイドライン作成を目的とする。

## 5. 技術検討委員会

本委員会は、規格（WES 9801、9802）に反映する技術に関する事前検討等を行うことが目的。今年度は以下の活動を行った。

- (1) 各種減肉加工した圧力容器の破裂試験（供用適性評価での制約条件の妥当性評価）

(2) 各社で実施している現場に役立つ施工技術の共有化

#### 6. 構造健全性評価ハンドブック改訂編集委員会

一般社団法人 日本高圧力技術協会で原子力分野用に発行した『構造健全性評価ハンドブック』（共立出版株式会社）を、石油精製/石油化学分野での減肉評価でも使えるように、内容の改訂検討を実施中。

#### 7. 基礎となる工学分野の教育研究助成事業

供用開始後の石油・石化産業の設備に関連する基礎的な研究、実験、教育または知識理論の普及（基礎的教科書等の執筆や学生への教育活動含む）に関する活動で各分野（溶接工学・機械工学・材料工学・安全工学等）に関連する内容を対象とした助成事業を 2025 年度より開始した。

#### 2025 年度の応募／採用実績

	応募件数	選考件数	助成金・期間
一般（36 歳以上）	10 件	3 件	200 万円／1 年／1 件、3 年間
若手（36 歳未満）	7 件	3 件	200 万円／1 年／1 件、2 年間

また、学識者に石油／石油化学産業で行っている保安業務に関して理解を深めてもらうために、高圧ガス保安検査現場の見学会の開催、意見交換会などを行った。

#### 8. その他

##### (1) 学識者を対象とした高圧ガス保安検査現場の見学会実施（ENEOS 株式会社 川崎製油所）

定期補修期間の多数の設備を開放検査している現場を見学し、現場の実情と保全担当者との意見交換を行った。

##### (2) 検査員認証関係の枠組み検討

###### ① 目視検査員の認証

事業所に設置してある圧力設備の内外面からの目視を行う社外検査員について、一定レベルの技量を有した検査員を認証するため、一般社団法人 日本非破壊検査協会に委員会を設置して枠組みを検討する。圧力設備サステナブル保安部会からは委員を輩出して議論を行う予定。

###### ② 保安検査員の認証

事業所の保安検査を行う社員が、一定レベルの技量を有していることを認証するため、公益社団法人石油学会の設備維持管理士の資格を活用して枠組みを検討する。圧力設備サステナブル保安部会からは委員を輩出して議論を行う予定。

## AM 部会

AM 部会は、AM 技術が普及し発展するために、本部会と傘下の 3 委員会体制（技術、広報、企画運営）で以下の活動を実施した。

#### 1. 本部会

AM 本部会は、正副部会長役員会議、部会幹事会会議を経て本部会審議を実施し、円滑に各種事業を行った。本部会は部会総会の開催、『AM TECH』発刊、各委員会協力のもと臨時講演会を実施している。

今年度は、主に『AM TECH』の発刊を決定するとともに、円滑な活動ができるように、内規類の見直しを進めた。来年度からは、技術委員会内において中立的立場の会員区分と学生会員区分を新たに設け、多くの部会員同士が情報交換できるような体制づくりを進めていくこととした。

##### (1) 本部会審議

1. 正副部会長会議（2025. 4. 23、一橋講堂）開催：新委員会設置案、予算案について
2. 正副部会長会議（2025. 6. 3、溶接会館/WEB 会議室）開催：AM TECH 発行案、予算案について
3. 部会幹事会（2025. 6. 12、愛知産業㈱本社 3 階会議室/WEB 会議室）開催：総会審議の検討
4. 部会総会（2025. 6. 12、愛知産業㈱本社 3 階会議室/WEB 会議室）開催

5. 正副部会長会議 (2025. 7. 17、WEB 会議室) 開催：新委員会における研究 WG、中立確保の検討について
6. 正副部会長会議 (2025. 9. 10、溶接会館/WEB 会議室) 開催：学生会員の検討、J3DPA とのジョイントセミナーについて
7. 正副部会長会議 (2026. 1. 6、溶接会館) 開催：他部会委員会との連携強化の検討、研究 WG 推進

(2) 本部会活動

1. 部会総会 (2025. 6. 12、愛知産業㈱本社 3 階会議室/WEB 会議室)
2. 臨時講演会 (外部セミナー) ※企画運営委員会企画

① 展示会セミナー

- ① ものづくりワールド [東京]・次世代プリンタ展 (2025. 7. 10) 日本溶接協会セミナー ※広報委員会企画

- ・「いよいよ動き出す AM 技術の普及に向けて」 (一社) 日本溶接協会 濱本 康司 氏
- ・「会員企業の AM 実用化事例」 愛知産業㈱ 木寺 正晃 氏

- ② Formnext forum asia tokyo 日本溶接協会×formnext セミナー (2025. 9. 25) 「AM 規格と AM 教育」

- ・「起死回生日本の一手：金属 AM 利用を大企業のみならず中小企業にも爆発的に普及させるには」 (一社) 日本溶接協会 水沼 渉 氏

- ・「欧米の AM 取組と日本のすすむべき方向」 三菱重工業㈱ 石出 孝 氏

- ・「AM 技術発展に対応する AM 教育のあり方」 慶應義塾大学 小池 綾 氏

- ・「ガスタービンへの AM 技術適用」 三菱重工業㈱ 小牧 孝直 氏

- ・「革新的 AM 技術による造形と品質管理の展望」 埼玉車体㈱ 阿久津 光雄 氏

- ③ 高機能素材 Week 東京展・Photonix-光・レーザー技術展-セミナー (2025. 11. 13) 「AM 技術の信頼性を支える認証と実践」

- ・「いよいよ動き出した AM 技術の普及に向けて」 (一社) 日本溶接協会 濱本 康司 氏

- ・「各種 AM 技術の最新適用事例」 愛知産業㈱ 金安 力 氏

- ④ ものづくりワールド [福岡]・次世代 3D プリンタ展 (2025. 12. 5) セミナー「どうする 日本の AM」

- ・「金属 AM で発展する企業を生み出す教育・認証制度」 (一社) 日本溶接協会 水沼 渉 氏

- ・「日本の AM の進むべき方向」 三菱重工業㈱ 石出 孝 氏

- ・「航空エンジン・エネルギー機器における AM 技術の適用開発」 川崎重工業㈱ 森橋 遼 氏

- ・「航空宇宙分野への AM 適用事例と技術開発の取組」 三菱重工業㈱ 橘 孝洋 氏

- ⑤ TCT Japan2026 (2026. 1. 28) 日本溶接協会セミナー「Beyond Printing— AM は“造形”から“制御された製造プロセス”へ —」

- ・「AM はどこまで進化したのか — 世界の最新技術動向」 三菱重工業㈱ 石出 孝 氏

- ・「品質は造形中に作り込む — AM におけるインプロセス制御」 三菱重工業㈱ 成田 竜一 氏



TCT Japan2026 (2026. 1. 28)

## ②AM World セミナー

- ①第3回 AM World セミナー ～AM プロセスとその理解…シミュレーションと現象観察～ (2025. 7. 18、  
株ニコン 本社イノベーションセンターホール) 開催 ※企画運営委員会発足時のため広報委員会が  
企画

(参加 102 名うち学生 19 名)

< 講演テーマ >

- ・「熱プラズマ・電極現象の可視化と理解から探究する WAAM プロセス最適化への道」  
大阪大学 田中 学 氏
- ・「電流制御による WAAM 精密造形技術の開発」  
大阪大学 荻野 陽輔 氏
- ・「熔融池での熱流動と欠陥挙動の詳細シミュレーション」  
島根大学 新城 淳史 氏
- ・「DED 法を用いた非溶接性ニッケル基超合金 IN738LC の造形パラメータの最適化」  
株ニコン 長坂 博之 氏
- ・「Particle-based Modeling of Laser Powder Bed Fusion of Metals (PBF-LB/M)」※英語講演  
Fraunhofer IWM, Dr. Claas Bierwisch
- ・AM 展示・産学ポスター展示 (17 団体) / ニコンツアーを実施

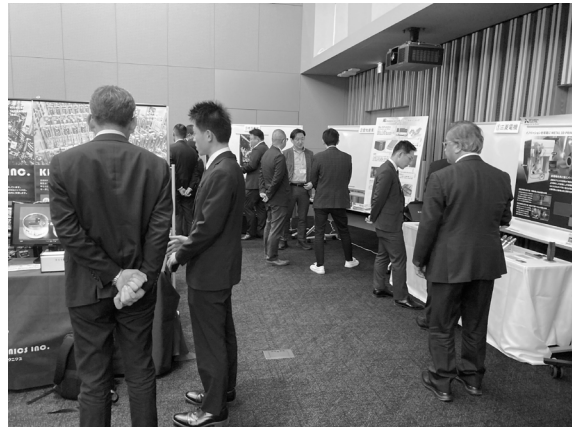
- ②第4回 AM World セミナー ～AM 品質保証の現状～ (2026. 2. 4、岩谷産業(株)神戸研修所) 開催  
(参加 94 名うち学生 3 名)

< 講演テーマ >

- ・「船用機械における AM 品質管理について」  
川崎重工業(株) 大道 義範 氏
- ・「ガスタービンへの AM 技術適用 –AM の品質保証–」  
三菱重工業(株) 小牧 孝直 氏
- ・「航空宇宙分野における AM の品質保証の取り組み」  
(株)IHI 中村 賢治 氏
- ・「革新的 AM 造形とその品質評価」  
埼玉車体(株) 阿久津 光雄 氏
- ・「水素社会実現に向けた取り組み」  
岩谷産業(株) 津吉 学 氏
- ・「JAXA におけるロケットへの AM 適用とその品質評価の取組み」  
(国研) 宇宙航空研究開発機構 寺島 啓太 氏
- ・「The current state of AM quality assurance and some application examples」【オンライン】  
Fraunhofer IWS, Elena Lopez
- ・AM 展示・産学ポスター展示 (17 団体) / 岩谷産業ギャラリー / 液化水素タンク見学



第4回 AM World セミナーホール (2026. 2. 4、岩谷産業)



展示エリア (同左)

### ③ジョイントセミナー (J3DPA との共催)

「AM による素材加工革新 セラミックス、CFRP の可能性と最新動向」(2025. 10. 22、溶接会館) 開催  
(参加 34 名)

<講演テーマ>

- ・基調講演 1 PBF 法によるセラミックス indirect AM プロセス技術  
(国研) 産業技術総合研究所 堀田 幹則 氏
- ・基調講演 2 光造形アディティブ・マニュファクチャリング  
大阪大学 接合科学研究所 桐原 聡秀 氏
- ・MEX 方式 3D プリンタ向けセラミックス・金属フィラメントの紹介  
第一セラモ(株) 和田 誠 氏
- ・緻密かつ厚肉なアルミナ焼結体の取得を目指したバインダーージェットティング造形技術  
(株)リコー 鴨田 紀一 氏
- ・セラミック 3D プリンタ事業と活用事例のご紹介  
(株)エスケーフライン 浅野 忠克 氏
- ・基調講演 3 炭素繊維複合材料 3D プリントの動向と最新研究  
東京理科大学 松崎 亮介 氏

- ・デジタル製造の最前線！Markforged 3D プリンタ活用による生産改革  
 (株)データデザイン 牛尾 公一 氏
- ・軽量・高強度の実現：FDM カーボンファイバー材料活用事例と実践ヒント  
 ストラタシス・ジャパン(株) 竹内 翔一 氏
- ・基調講演 4 Additive Manufacturing of Ceramics and Cemented Carbides [字幕付ビデオ講演・リモート Q&A]  
 Fraunhofer IKTS, Christian Berger
- ・基調講演 5 Exploring CFRP Additive Manufacturing: Innovations for Aerospace and Space Applications [字幕付ビデオ講演・リモート Q&A]  
 Technical University of Munich, Bernhard Bauer  
 Fraunhofer IGCV, Kevin Scheiterlein

#### ④セミナー講師派遣

- ・(公社)精密工学会／公益財団法人 精密測定技術振興財団 共催 第 448 回講習会 (オンデマンド) (2025.12.8-26、WEB)「Additive Manufacturing (AM) 技術と AM のための設計・トポロジー最適化の基礎」  
 「日本産業界への金属 AM 普及を加速する産業クラスター」  
 (一社)日本溶接協会 水沼 渉 氏
- ・(一社)日本機械学会 講習会 (2026.1.16、三菱電機(株)名古屋製作所)「金属 AM 技術の動向と今後の展望」  
 『AM 技術の信頼性を支える認証と実践』～いよいよ動き出した AM 技術の普及に向けて～』  
 (一社)日本溶接協会 濱本 康司 氏
- ・(一社)日本 AM 学会 2025 年度 第 2 回セミナー (2026.1.20、エッサム神田ホール 2 号館)「最先端 AM 技術の萌芽と AM 人材育成」  
 「AM 技術の信頼性を支える認証と実践 ～いよいよ動き出した AM 技術の普及に向けて」  
 (一社)日本溶接協会 濱本 康司 氏

## 2. 技術委員会

部会員全員が参加できる技術委員会は、年 4 回の定例会 (WEB 併用) で、あらゆる AM 情報の共有と発信を目指し、本年度に溶接協会内に設置された TC 261 国内審議委員会関係者、本年にはじめてばかりの AM 技術者検定試験を運営する教育・認証関係者から報告を受けるようにした。

なお、技術委員会でメインとなる技術講演 (以下) では、技術委員の他、各社・公的機関及びアカデミアから取組事例の報告や技術課題が共有された。第 3 回目委員会では、(国研) 産業技術総合研究所 (つくば) で見学会を兼ねた委員会を実施した。

技術委員会は、講演企画から当日の運営まで技術委員会幹事によって実施された。毎回、委員会後には、参加者全員が気軽に交流できる場を提供している。

### (1) 技術委員会審議

- ・第 1 回 技術委員会 2025.6.12、愛知産業(株) 本社 3 階会議室 (WEB 併用)
- ・第 1 回 技術委員会幹事会 2025.10.6、溶接会館 2 階ホール (WEB 併用)
- ・第 2 回 技術委員会 同上 会議室 (WEB 併用)
- ・第 2 回 技術委員会幹事会 2025.12.16、(国研) 産業技術総合研究所 研究戦略本部 会議室 (WEB 併用)
- ・第 3 回 技術委員会 同上 会議室 (WEB 併用)
- ・第 3 回 技術委員会幹事会 2026.3.16、溶接会館 2 階ホール (WEB 併用)
- ・第 4 回 技術委員会 同上 会議室 (WEB 併用)

### (2) 技術委員会活動

①技術講演の実施（以下にテーマ）

②施設見学会：産業技術総合研究所における AM の取り組み

- ・コンビナトリアルレーザ DED を用いたハイスループット合金探索システム
- ・粒子法による金属溶融・凝固プロセス（AM、鋳造）シミュレーション
- ・X 線透視による粉末床内部の挙動観察
- ・3D 積層造形によるリマンプロセス：高機能造形確立を目指した取り組み

<講演テーマ>

第 1 回

- ・「その場観察およびマルチフィジクスシミュレーションを用いた電子ビーム積層造形プロセスの最適化」  
東北大学 任 勝均 (Seungkyun Yim) 氏
- ・「Ansys シミュレーションによる金属積層造形の革新」  
サイバネットシステム(株) 藤平 知生 氏
- ・「高出力半導体レーザとホットワイヤ法による各種材料の積層造形」  
広島大学 山本 元道 氏
- ・「ワイヤー・アーク DED による異種アルミニウム合金を用いたマルチマテリアル造形」  
東京農工大学 笹原 弘之 氏

第 2 回

- ・「機械的プロセスによる新たな積層造形用アルミ粉末の製造工法および造形特性」  
日産自動車(株) 吉田 晃 氏
- ・「レーザクラディングによるその場合合金化を活用した摺動部向け鉛フリー銅合金の創製」  
川崎重工業(株) 渡邊 健太郎 氏
- ・「ジャイロイド構造を用いた熱交換器の開発」  
三浦工業(株) 清水 翔太 氏
- ・「マグネシウム合金ワイヤを材料に用いた金属 AM 技術の開発」  
三菱電機(株) 篠原 暢宏 氏
- ・「DED-LB/W 式金属 AM を活用した技術支援」  
秋田県産業技術センター 黒沢 憲吾 氏

第 3 回

- ・「金属 AM を活用した 3 次元冷却金型のアルミダイカスト工程への適用」  
(株)豊田自動織機 佐藤 良輔 氏
- ・「ISC における AM 技術の活用」  
将来宇宙輸送システム(株) 飯島 直純 氏
- ・「産業技術総合研究所および製造基盤技術研究部門の紹介」  
(国研) 産業技術総合研究所 三宅 晃司 氏
- ・「ユニットにおける AM の取り組み例のご紹介 3D 積層造形をベースとした革新的合金探索システム」  
(国研) 産業技術総合研究所 廣瀬 伸吾 氏

第 4 回

- ・「PBF を適用したアルミ製空冷式熱交換器の設計製造事例」  
住友精密工業(株) 西部 孝祐 氏
- ・「WAAM を活用した建築向けモックアップの製造事例に関する報告」  
(株)大林組 中村 允哉 氏
- ・「交流シンクロフィード溶接を用いた WAAM」  
(株)ダイヘン 門田 圭二 氏
- ・「粉からの新しいモノづくり」

以上 16 件

### 3. 広報委員会

AM 部会の認知と AM 技術を普及させるための広報機関として、紙・電子すべての媒体を生かして活動した。本年度は、主に『AM TECH』のコンテンツ企画を行うほか、展示会への出展に力を入れた。

#### (1) 広報委員会審議

- ・ 第 1 回 2025. 4. 16-17、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 2 回 2025. 5-9、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 3 回 2025. 6. 11、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 4 回 2025. 6. 25、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 5 回 2025. 8. 21、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 6 回 2025. 9. 29、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 7 回 2025. 10. 23、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 8 回 2025. 12. 17、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 9 回 2026. 1. 7、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・ 第 10 回 2026. 3. 25、溶接会館 会議室 (WEB 併用)

#### (2) 広報委員会活動

##### ① 紙媒体における広報活動

- ・ AMWorld セミナー (第 3 回、第 4 回) のチラシ作成
- ・ AM 部会パンフ作成
- ・ AM 部会ポスター作成
- ・ 『AM TECH』のコンテンツ企画と編集委員会 (産報出版内に設置) への参加。
- ・ AM 漫画の検討

##### ② 電子媒体における広報活動

- ・ AM 部会 HP にて、「AM 実用化一覧」のページを企画、運用 (2025. 7)
- ・ SNS の検討

##### ③ 展示会への出展事業及びワークショップの運営

- ・ ものづくりワールド [東京]・次世代プリンタ展 (2025. 7. 9-11、幕張メッセ) : 部会員 4 社出展+ワークショップ (サポート外し)
- ・ formnext Asia Tokyo Forum 2025 (2025. 9. 25-26、東京都立産業貿易センター 浜松町館) : 部会員 7 社出展
- ・ 高機能素材 Week 東京/Photonix [東京] -光・レーザー技術展- (2025. 11. 12-14、幕張メッセ) : 部会員 4 社出展+ワークショップ (サポート外し)
- ・ ものづくりワールド [福岡]・次世代 3D プリンタ展 (2025. 12. 3-5、マリンメッセ福岡) : 部会員 6 社出展
- ・ TCT Japan2026 (2026. 1. 28-30、東京ビッグサイト) : 部会員 5 社出展+ワークショップ (サポート外し)
- ・ 高機能素材 Week 名古屋/Photonix [名古屋] -光・レーザー技術展- (2026. 2. 18-20、ポートメッセなごや) : 部会員 6 社出展

##### ④ AM World セミナーでの展示会企画

- ・ 第 3 回 AMWorld セミナー (2025. 7. 18、(株)ニコン本社アトリウム) ※セミナーの講演企画も実施
- ・ 第 4 回 AMWorld セミナー (2026. 2. 4、岩谷産業(株)神戸研修所セミナーホール内)

### 4. 企画運営委員会

企画運営委員会は、共同研究を積極的に推進するほか、外部セミナーの企画・運営に力を入れてきた。また、AM は幅広い産業で活用される技術であるため、協会内の専門部会や研究委員会とも積極的に関わり、情報交換を進め始めた。



部会ポスター (A1サイズ)

(1) 企画運営委員会審議

- ・第1回 2025. 8. 26、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・第2回 2025. 9. 11、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・第3回 2025. 10. 7、溶接会館 会議室 (WEB 併用)
- ・第4回 2026. 1. 27、溶接会館 会議室 (WEB 併用)

(2) 企画運営委員会活動

① 研究 WG の推進

業界の発展を促すために、中立などから研究シーズを、部会員から研究ニーズを提案いただき、参画したい部会員がマッチングしたところでテーマごとに WG を発足し、研究活動に取り組むことになるが、今年度は下記テーマに関心ある企業が下打ち合わせを重ね、2026 年度に動き出せるよう準備しており、名称・実施事項については協議中である。

- ・WG1：自動車 WG
- ・WG2：重工・建築部品の WAAM 試作
- ・WG3：レーザー PBF のインプロセスモニタリング
- ・WG4：低廉装置の出力品比較評価調査研究
- ・WG5：AM 材の接合検討
- ・WG6：プロセスシミュレーションの有用性検討

② 講演企画 ※運営は本部会活動

<展示会セミナー>

- ・ものづくりワールド [東京]・次世代プリンタ展 (2025. 7. 10) 「日本溶接協会セミナー」
- ・Formnext forum asia tokyo 日本溶接協会×formnext セミナー (2025. 9. 25) 「AM 規格と AM 教育」
- ・高機能素材 Week 東京・Photonix [東京] -光・レーザー技術展-セミナー (2025. 11. 13) 「AM 技術の信頼性を支える認証と実践」
- ・ものづくりワールド [福岡]・次世代 3D プリンタ展 (2025. 12. 5) セミナー「どうする 日本の AM」
- ・TCT Japan2026 (2026. 1. 28) 日本溶接協会セミナー「Beyond Printing — AM は“造形”から“制御された製造プロセス”へ —」

<AM World セミナー>

- ・第4回 AMWorld セミナー (2026. 2. 4、岩谷産業(株)神戸研修所セミナーホール内)  
※第3回 AMWorld セミナーのときにはまだ委員会が発足していなかったため広報委員会が企画。

<ジョイントセミナー (J3DPA との共催) >

- ・「AM による素材加工革新 セラミックス、CFRP の可能性と最新動向」(2025. 10. 22、溶接会館)

② 委員派遣 ※運営は本部会活動

- ・2026 年度から始まる原子力研究委員会関係委員会へ大畑技術委員長を派遣 (平田顧問・石出副部会長は一定期間オブザーバ参加)

③ 他専門部会/研究委員会との意見交換

縦割りになっている溶接協会内の各産業である専門部会・研究委員会で、AM 技術の普及や浸透について意見交換を始めた。場合により、協力・連携関係を結びつけていくことで、AM 技術の発展に貢献していきたいと考えている。

- ・溶接材料部会との意見交換 (2026. 1. 13)

## 2. 研究委員会

### 特殊材料溶接研究委員会

#### 1. 本委員会

2025年度は下記の4回を開催した。

1.1 第1回は2025年6月13日（金）に溶接会館（東京）でオンラインを併用して講演会を開催し、下記5件の講演と情報交換を行った。

- ① 航空機産業の挑戦と先進材料・製造技術開発の展望 川崎重工 都筑亮一氏
- ② ごみ焼却発電施設向け二相系耐熱鋳鋼の開発とその肉盛り性に関する検討 カナデビア 田中智大氏
- ③ 二相ステンレス鋼の推奨溶接入熱範囲に関する新提案 UEX・大阪大学 井上裕滋氏
- ④ 液化水素用 STH2 厚鋼板の溶接技術 日本製鉄 今川一成氏
- ⑤ 高信頼性 Ni 基合金溶接材料の原子力機器への適用化に向けた技術開発 東芝 ESS 大友康平氏

1.2 第2回は2025年10月10日（金）に高田工業所（北九州市）でオンラインを併用した講演会を開催し、情報交換を行った。講演は下記2件。また同日、株式会社高田鉄工所にて見学会を開催した。

- ①二相ステンレス鋼 UNS S8255 のシグマ相析出挙動に及ぼす合金元素と溶接条件の影響 日本製鉄 山田健太氏
- ②翼肉盛加工における品質改善 IHI 阿部大輔氏



株式会社高田工業所での見学会

1.3 第3回は2025年12月2日（火）に「積層造形の特性・組織制御」を主題にスタディグループ会議を兼ねて、愛知産業（相模原市）において見学会ならびに講演会を開催し、情報交換を行った。講演は下記2件。

- ①AM組織・欠陥制御 SG 文献調査まとめ IHI 山岡弘人氏
- ②溶接困難な Ni738LC の DED 造形とマルチマテリアル材料設計の最前線 ニコン 恵久春佑寿夫氏



愛知産業での見学会

1.4 第4回は2026年3月3日(火)に溶接会館(東京)にてオンラインを併用して、下記4件の講演と情報交換を行った。

①Al合金と高強度鋼の異材レーザーブレイジングにおける接合部形状と金属間化合物厚さの連成予測

大阪大学 山下正太郎氏

②高倍率その場観察技術によるステンレス鋼の凝固割れ感受性評価

広島大学 山本元道氏

③ディファレンシャル装置における鋳鉄と炭素鋼との異材レーザー溶接

ジャトコ株式会社 西本大地氏

④航空機エンジンの補修溶接接合技術の動向と展望

川崎重工業株式会社 都筑亮一氏

## 2. 溶接部耐環境性能小委員会

本年度から①水素環境、②腐食環境および③高温環境の各使用環境における溶接部性能確保のためのガイドライン提示を目的に、「溶接部耐環境性能小委員会」を設置し、活動を開始した。第1回の小委員会は「水素環境」を主題に2025年9月2日(火)に、第2回的小委員会は「腐食環境」を主題に2026年1月28日(水)に、ともに溶接会館(東京)でオンラインを併用して開催し、合わせて6件の講演を実施した。

## 3. 積層造形の特性・組織制御」スタディグループ(SG)

2020年度から「積層造形の特性・組織制御」スタディグループの活動を開始した。本年度第1回のSG会議は2025年5月2日(金)に溶接会館(東京)でオンラインを併用して開催し講演ならびに文献調査報告を行った。第2回SG会議は、2025年11月10日(月)に溶接会館(東京)でオンラインを併用して開催し講演ならびに文献調査報告を行い、第3回SG会議は上記の第3回本委員会と見学会(上記参照)を兼ねて開催した。

## 4. 「ステンレス鋼溶接トラブル事例集」の増補・改定編集委員会

発刊から20年以上経過し4回の重版を経ていることから、あたらしい事例や知見を取り入れた内容に刷新した書籍の刊行を目的とした増補・改定編集委員会を設置し、改定作業に着手した。

## 5. セミナーおよび講習会

### 5.1 「ステンレス鋼のアーク溶接および新しい溶接方法による施工技術の実際」講習会

当委員会での活動成果として発刊された「ステンレス鋼溶接トラブル事例集」(産報出版)の内容をベースにして、ステンレス鋼のあたらしい溶接プロセスの内容も加えた講習会「ステンレス鋼のアーク溶接および新しい溶接方法による施工技術の実際」を溶接学会四国支部との共同にて開催した。この講習会は2025年11月20日(木)に日本溶接協会四国地区溶接技術検定委員会(愛媛県新居浜市)において対面受講とオンライン受講を併用するハイブリッド方式にて実施した。両方式を合わせて82名の受講者が参加し会場・WEB双方からチャットも含め活発な質疑が行われ、成功裡に実施された。



「ステンレス鋼のアーキ溶接および新しい溶接方法による施工技術の実際」講習会の開催状況

## 5.2 「溶接部の腐食トラブル防止の基礎と実際－溶接部の耐環境性能とトラブル・対策－」講習会

2025 年度にあらたに設置した「溶接部耐環境性能小委員会」の活動の一環として、講習会「溶接部の腐食トラブル防止の基礎と実際－溶接部の耐環境性能とトラブル・対策－」を溶接会館（東京）において対面受講とオンライン受講を併用するハイブリッド方式にて実施した。両方式を合わせて 54 名の受講者が参加し会場・WEB 双方からチャットも含め活発な質疑が行われ、成功裡に実施された。



「溶接部の腐食トラブル防止の基礎と実際－溶接部の耐環境性能とトラブル・対策－」講習会の開催状況

## 6. 規格関係

溶接規格専門委員会からの要請にもとづき、ステンレス協会主管の JIS 原案作成委員会に委員を派遣し、JIS G4311 追補改正原案作成委員会および JIS G4308 改正原案作成委員会での審議に参加し原案作成を支援した。

## 7. 会員の動向

会員企業数は、28 社である。

## 原子力研究委員会

### 1. 本委員会

#### 1.1 第169回原子力研究委員会（2025年6月18日開催）

特別講演「地震に対する性能確保のための耐震設計の考え方」

高田毅士氏 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（国立大学法人東京大学）

後援：JASMiRT Japan Association for SMiRT

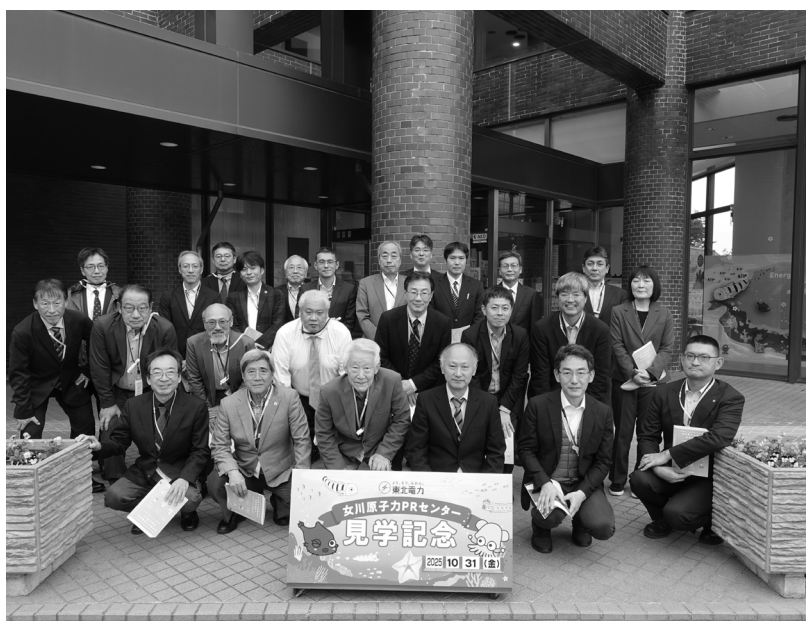
#### 1.2 原子炉圧力容器の加圧熱衝撃に対する新しい破壊評価技術

－ 塑性拘束を考慮した破壊評価基準の社会実装－（第59回国内シンポジウム）（9月30日開催）

#### 1.3 第170回原子力研究委員会（2025年10月31日～11月1日開催）

見学会の実施：東北電力榎女川原子力発電所（11月1日開催）

#### 1.4 原子力プラント機器の健全性評価に関する講習会の開催（12月10日・11日開催）



## 2. 小委員会

### 2.1 国際研究連絡小委員会

2025年4月16～18日にわたり台湾、台南市で開催された第15回ASINCO国際ワークショップ「International Workshop on the Integrity of Nuclear Components」の実施・運営に協力した。原子力研究委員会傘下の小委員会の協力を仰ぎ、基調講演1件および論文7件の講演発表をサポートした。また、講演論文の中から学術的価値の高い論文を選定し、International Journal of Pressure Vessels and Pipingの特集号の発刊作業を進めた (<https://www.sciencedirect.com/special-issue/10GB7JCBX5L>)。

2027年4月に韓国、慶州市で開催予定の第16回ASINCO国際ワークショップの企画立案に協力してその準備を進めた。

### 2.2 SPN-II小委員会

「原子力構造機器の経年化とその関連技術に関する調査研究」

2012年度までは、原子力プラント機器の構造健全性、経年劣化に関連する分野の動向を幅広く把握するために、文献抄訳、講演を通じた動向調査を進めてきた。さらに、東日本大震災時の福島第一原子力発電所の事故後は、大地震などに代表される過大荷重下での機器やプラントの健全性を評価するための手法の整備や適用の動向をメインの対象とした調査活動を行っている。また、2016年度からは「弾塑性解析に基づく構造健全性評価ガイドライン」の作成を目的として、応力-ひずみ関係式や限界ひずみ評価式に関する検討を進めている。

2025年度は5回の委員会を開催し、昨年度までと同様に、講演及び文献抄訳を通じて上記分野の技術動向を調査するとともに、弾塑性解析に基づく構造健全性評価ガイドラインの作成に向けた検討を進めた。体制を以下に示す。

- ・主 査：高橋由紀夫（(一財)電力中央研究所）
- ・委 員：10機関、13名

活動の概要を以下に示す。なお、SPN-II小委員会は2025年度をもって終了となった。

#### (1) 講演及び文献による調査

- ・5回の講演が行われた。テーマは、延性破壊挙動評価、機械学習、固体力学シミュレーション技術、原子炉圧力容器の照射脆化メカニズム、クリープ疲労試験技術であり、各分野の研究動向を把握した。
- ・文献調査では5つの論文を調査した。1件は疲労設計線図に関する論文、残り4件は機械学習に関する論文であった。
- ・今後の調査文献を検討するために、雑誌「International Journal of Pressure Vessels and Piping」を対象として調査を行い、材種、テーマ、国などの項目別に発表動向を整理した。また、機械学習・ニューラルネットワーク・AI関係の論文リストを作成した。

#### (2) 弾塑性解析に基づく構造健全性評価ガイドラインの検討

構造健全性評価ガイドラインへの導入を念頭において、降伏応力、引張強さ、破断伸び、絞りなどの機械的特性を用いた真応力-真ひずみ関係式の整備に加え、応力三軸度とロード角を用いて局部破壊の発生や塑性変形抵抗に対する損傷の影響を考慮する延性破壊評価法の検討を実施した。それらの検討結果を基に、応力-ひずみ関係式、及び、損傷評価式と材料定数の決定法について、ガイドライン案を作成した。

### 2.3 PFM小委員会

「原子力構造機器信頼性評価への確率論的破壊力学の適用法に関する調査研究」

我が国における確率論的破壊力学に関する研究は、日本溶接協会および日本機械学会の研究委員会等で30年以上にわたり行われている。我が国においては、維持基準導入など、破壊力学の適用は進んでいるが、確率論的取り扱いについては検討が始まろうとしているに過ぎない。一方、新型コロナウイルス禍により一般大衆の確率的事象に対する理解度の向上が期待され、地球温暖化およびウクライナ危機・中東危機に伴う世界的エネルギー状況への不安から、原子力発電への期待が大きくなっていくものと思われる。

このような状況の中、今年度は、確率論的評価法の信頼性を高めること、および適用分野の拡大、さらには解析手法のガイドライン化などを目的として、原子炉重要機器の破壊確率解析、PFM 解析結果の表し方、PFM 解析プラットフォーム整備、および文献調査などの活動を行なった。さらに、PFM 技術の理解促進を目的として作成した、基礎と最新動向に関する講演動画についても PFM 小委員会の HP より一般公開しており、有効活用が望まれる。

#### 2.4 BDBE2 小委員会

「構造対策とシステム安全対策の連携に関する調査研究小委員会 (BDBE2 小委員会)」

今年度新たに、文科省原子力システム事業「構造対策とシステム安全対策の連携による不確定性の大きい事象の合理的リスク低減法の研究 (2025 年度～2029 年度予定)」が採択されたことから、本事業を推進しつつ事業の一環として、システム安全の専門家も加えた「構造対策とシステム安全対策の連携に関する調査研究小委員会 (BDBE2 小委員会)」を発足させた。

##### (1) 目的

原子力分野では、構造対策は専ら設計想定事象に対する破損防止に適用され、深層防護に基づく設計想定を超える事象による破損発生後の影響緩和はシステム安全対策の領域とされ、両者の思想や手法は別々のものであった。自然現象に代表される不確定性の大きい事象に対して、破損防止に頼ったリスク低減策は、過大なマージンをとった際限のない強化につながり、技術的限界に近づきつつある。このため、不確定性の大きい事象に対して、影響緩和を重視した合理的なリスク低減法が必要とされている。

このため、構造の破損発生後にも期待できる影響緩和性能の評価法を開発し、構造対策による影響緩和の効果をリスク評価とシステム安全対策に組み込む (連携) ことで、影響緩和を重視した合理的リスク低減の方法論・技術を提案することである。本小委員会では、文科省事業を推進しつつ、その一環として「構造対策とシステム安全対策の性能ベース連携に関するガイドライン」の策定を目的とした調査研究を行う。

##### (2) 体制

主査：笠原直人 (東京都市大学) 副主査：望月正人 (大阪大学)

幹事：堂崎浩二 (東北大学)、釜谷昌幸 (原子力安全システム研究所)

委員：中立委員 18 名・委員 8 名 事務局：3 名

##### (3) 実績

本委員会 2 回開催 (対面 1 回、オンライン 1 回)

講演「現象の連続性や時間効果をリスク評価で考慮するための研究」

文科省原子力システム事業「構造対策とシステム安全対策の連携による不確定性の大きい事象の合理的リスク低減法の研究」の進捗報告と推進のための議論

「構造対策とシステム安全対策の性能ベース連携に関するガイドライン」の検討

WG 3 つの WG を各 1 回開催

WG1 連携方法論：構造対策とシステム安全対策連携の方法論の検討

WG2 過大地震：過大地震時の連携に必要な影響緩和性能評価法の検討

WG3 超高温：超高温の連携に必要な影響緩和性能評価法の検討

#### 2.5 DHI-III 小委員会

「デジタル打音検査技術の高度情報化に関する調査研究小委員会 Phase III」

原子力発電所の高経年化が進み、設備保全の観点から配管・アンカー等の溶接部・接合部の構造健全性を簡便に診断する技術が望まれている。2019 年度に活動を開始した DHI 小委員会第一期では、デジタル打音検査技術に関する調査研究 WG と高度情報化検討 WG による調査研究を行い、基礎ボルト検査方法、金属/コンクリート間の界面状態検査方法に関するガイドライン案を作成した。2022 年度に開始した第二期では対象範囲を広げ、各種センサ技術による高度情報化 (オンラインモニタリング等) の調査研究を行ってきた。2024 年度から開始した第三期ではこれまでの活動を引き継ぎデジタル打音検査技術のガイドライン案を整備・拡張すると共に、それらの技術に人工知能を活用した場合の高度情報化技術のガイドライン案の

検討、社会実装に向けてインフラ維持管理分野での地方自治体との連携、デジタル打音検査に係る技術文書の公開などを行うこととしている。具体的な活動成果は以下となる。

(1) 調査研究 WG

デジタル打音検査に係る事例収集、各種センサ技術の高度情報化に関する調査、沖縄県土木事務所との連携によりコンクリート橋梁経年劣化のデジタル打音検査などを継続的に実施した。公開する技術文書として「デジタル打音検査技術の基礎と応用」に基礎理論、ガイドラインを含む利用法、利用事例などを取り纏めて、ガイドラインに関連する論文の英文ジャーナルへの投稿を進めた。

(2) 高度情報化 WG

異常検知 AI の文献調査、AI の工学応用に関する研究動向の報告、デジタル打音検査の機械学習による状態予測手順のガイドライン化を継続して実施している。

## 2.6 FDF-III小委員会

「繰返し荷重下での低サイクル疲労および延性破壊に対する評価法の整備に関する調査研究（その3）」

これまで FDF/FDF-II 小委員会では、規格への反映を目的として、J 積分範囲  $\Delta J$  を用いた亀裂進展評価法に関するガイドラインの整備を進めてきた。このガイドラインは、CT 試験片及び貫通亀裂付き配管の試験データを用いて整備されたものである。しかしながら、実機では表面亀裂に対する需要が高く、ガイドライン（案）の規格化には表面亀裂に対する評価精度の確認など、いくつかの課題があると考えられた。

そこで 2022 年度は FDF-III 小委員会準備会を設立し 1 年間の準備期間を設けた。そのうえで、J 積分範囲  $\Delta J$  を用いた亀裂進展評価法の規格化に向けて、課題整理、方針策定及び評価法検証に資する表面亀裂付き配管に対して低サイクル疲労亀裂進展試験を実施した。これらの準備結果を基に、2023 年度より FDF-III 小委員会を設立した。同小委員会では、文献調査、参照応力評価式の高精度化及び数値解析を実施し、小規模降伏条件を逸脱したときの亀裂進展評価ガイドラインを精緻化することで、10 年続いた FDF 小委員会の活動を締めくくった。主な成果を以下に示す。

(1) J 積分評価に関する既往研究調査

FDF-II 小委員会でも策定した「J 積分範囲  $\Delta J$  を用いた亀裂進展評価法のガイドライン（案）」は、主として直管に発生した亀裂に地震荷重が作用することを想定した評価法である。適用荷重を熱応力、適用部位をエルボなどに広げるために文献を調査した。一次応力と二次応力が重畳した場合の J 積分値の評価法やエルボの J 積分値に関して有益な知見を得た。

(2) 参照応力評価式の高精度化と適用範囲の明確化

FDF-II 小委員会では、J 積分や J 積分範囲評価の観点から、代表的な亀裂を有する構造部材に対する参照応力式の評価を行い、その有効性に対する見通しを得ていた。これらの式は、有限要素解析の結果を基にして、下界定理により得られた極限荷重式に対して補正を加えたものであった。しかし、補正のための式の根拠については明らかにされていないため、より精度よい評価式の提案を行い、その適用範囲も明らかにした。これらの検討結果を反映して、J 積分範囲を用いた疲労亀裂進展の評価ガイドライン（参照応力法を用いた簡易評価）を作成した。

(3) 繰返し複合荷重下での低サイクル疲労及び延性破壊に対する解析手法の検討

低サイクル疲労及び延性破壊に対する評価法の整備を目的として、準備会で実施した周方向表面亀裂付き配管の亀裂進展試験の有限要素法トレース解析を複数機関で実施した。各機関からの報告を比較検討した結果、有効なモデル化や Generation Phase 解析手法とそれらの問題点が明らかになり、各参加機関における要素寸法や構成則のパラメータ決定法をまとめた。これらの検討結果を反映して、J 積分及び  $\Delta J$  による繰返し荷重下での低サイクル疲労亀裂進展解析のガイドラインを作成した。

今後は策定したガイドラインの規格化を確実に遂行するため、2026 年度は幹事会として活動を継続する。10 年続いた FDF 小委員会では、徐々に世代交代も進み、技術の伝承が図られた。小委員会の重要な目的の一つは、若手の育成である。一度活動を終了してしまうと、再開時の人選が困難となることから、電力殿へのご意見も伺いつつ、新規テーマの模索も試みる。

## 化学機械溶接研究委員会

### 1. 概要

2025年度は4回の委員会（第313回～第316回）を開催した。

そのうち、第314回は委員会の地方開催としての愛媛開催と㈱新来島どっく 本社・大西工場の見学会（写真1）とを併設した。第315回は機械部会（JIW第XI委員会）とパイプライン小委員会との合同委員会を開催した。2025年度は退会2社及び入会2社があり、会員数は46企業・団体となっている。

### 2. 委員会

化学機械分野の機器製作に関わる材料、溶接、試験・検査、供用中の劣化損傷の評価及び設備保全技術などの調査・研究を事業の柱として運営している。2025年度の委員会における技術発表の概要を、以下に示す。

#### 2.1 第313回（2025年6月10日）：溶接会館（WEB会議併用）

(1) 予熱作業負荷を低減する極低水素フラックス入りワイヤ

日鉄溶接工業㈱ 渡邊 耕太郎 氏

(2) プロセス機器の長手継手を対象とした自動サブマージアーク溶接システム

カナデビア㈱ 小林 優一 氏

(3) 低温貯槽の構造と溶接技術開発

㈱IHI 猪瀬 幸太郎 氏

(4) ケーススタディ【熱処理について：その1】

運営 WG

#### 2.2 第314回（2025年9月2日）：㈱新来島どっく（WEB会議併用）

(1) ケミカルタンカーの建造要領

㈱新来島どっく 四塚 卓之 氏

(2) ケーススタディ【熱処理について：その2】

運営 WG

#### 2.3 第315回（2025年12月9日）：溶接会館（WEB会議併用）

機械部会・JIW第XI委員会及びパイプライン小委員会との合同開催

(1) 高圧水素ガス環境下でのラインパイプ材および周溶接部の機械特性評価

日鉄エンジニアリング㈱ 清川 裕樹 氏

(2) 二相ステンレス鋼溶接ガイドラインと溶接部組織・性能

大阪大学 小川 和博 招へい教授

(3) 鋼材のアンモニア応力腐食割れに関する研究動向とNKの取り組み

(一財)日本海事協会 柳本 史教 氏

(4) 溶接補修指針改訂版のポイント

レイズネクスト㈱ 津野 和裕 氏

#### 2.4 第316回（2026年3月10日）：溶接会館（WEB会議併用）

(1) Oil & Gas 業界におけるAM適用検証と国際的な客先・ベンダー・規格・認証動向

日揮グローバル㈱ 吉本 直広 氏

(2) フューチャー・デザインとその実践 — 新たな産業イノベーションに向けて

大阪大学 原 圭史郎 教授

(3) Unlocking Major Cost Savings & Sustainability with Automated Weld Overlay Services

Sulzer 社 (Singapore) Mr. Hang Seng 氏

(4) 化学機械溶接研究委員会の活動をふりかえって

大阪大学 南 二三吉 名誉教授

### 3. 幹事会

委員会の事業企画、小委員会・WG 活動、国際活動計画などの運営について諸検討を行った。定例幹事会の開催日を以下に示す。

第 1 回：2025 年 6 月 10 日（委員会開催日の午前中）

第 2 回：2025 年 9 月 1 日（委員会開催の前日）

第 3 回：2025 年 12 月 9 日（委員会開催日の午前中）

第 4 回：2026 年 1 月 6 日 新年幹事会

第 5 回：2026 年 3 月 10 日（委員会開催日の午前中）

#### 4. 常任幹事会

委員会の中長期的な運営方針の検討を行った。常任幹事会の開催日を以下に示す。

第 1 回：2025 年 9 月 1 日（委員会開催の前日）

第 2 回：2025 年 12 月 8 日（委員会開催の前日）

#### 5. 小委員会及び WG

##### 5.1 N<sub>2</sub>バックシールド適用評価合同小委員会（長島委員長）

2025 年度は小委員会活動を通じて得られた成果について、次の学協会で公開することで N<sub>2</sub>バックシールド適用拡大に向けた周知活動を実施した。

- ・「溶接技術」への投稿（10 月）
- ・溶接材料部会「溶接の研究」講習会での発表（11 月）
- ・（公財）石油学会 装置研究討論会での発表（12 月）

小委員会は 6 回開催し、2024 年度より執筆を進めてきたガイドライン（案）を取りまとめた。ガイドライン（案）は幹事会でレビューを行い、内容の充実化を図った。

##### 5.2 溶接技術仕様作成小委員会（星加委員長）

API RP 582 の内容をベースとし、スリム化作業を 4 つの分科会に分けて行っている。さらに、非破壊検査および国内法規と溶接に関する要求事項についても分科会を設け、合計 6 つの分科会で作業を進めている。2025 年度は小委員会を 1 回開催し、幹事会を 2 回開催した。2 つの分科会にまたがる技術コンテンツの取りまとめが課題となったため、技術コンテンツについて議論と整理を行い、またがらないように分科会に振り分けた。分科会のうち、法規情報集約チームは 2025 年度で活動を完了した。

##### 5.3 運営 WG（高橋主査）

委員会の将来ビジョンの検討及び活動テーマの探索を主な活動とし、2025 年度は WG を 4 回開催した。委員会における通常の講演発表のスタイルに加え、技術的に深堀すべきテーマを検討し、その討議の場としてケーススタディを企画・運営するとともに、委員会活性化のために所属委員の自己紹介を実施した。2026 年度からの若手・女性技術者の委員会活動への積極的な参加を促す施策についても準備を完了した。

##### 5.4 WES 2820 改正 WG（戒田主査）

2025 年度は WG を 4 回、原案作成委員会を 3 回開催し、WES 2820 改正原案をまとめた。主な活動は次のとおりである。

- ・WES 2820 改正原案について、部会・委員会回覧、パブリックコメントから提出されたコメントに基づいて修正し、規格委員会 溶接規格専門委員会に最終案を報告、受理された。その後、理事会での審議を経て 2026 年 1 月 1 日に WES 2820:2026 として発行された。
- ・2025 年 11 月 25 日に第 2 回 WES 2820 講習会を開催し、88 人の参加者を得た。講習会では、WES 2820:2026 改正原案に基づく解説を実施したほか、関連する技術動向を紹介した。

##### 5.5 溶接補修 WG（津野主査）

溶接補修指針の改訂活動として、冊子「プラント圧力設備の溶接補修指針（改訂版）」を作成し、10 月に発行した。また、2026 年 2 月 17 日及び 18 日にシンポジウムを開催し、123 人の参加者を得た。また、ASME PCC-2 委員会における溶接補修ワーキンググループ（SGWR: Welded Repair Subgroup）に対し、Article 212 Fillet Welded Patches (para. 3.4) の改訂活動への委員派遣を継続している。これに関連

し、PM である Chris Dagele 氏と電子メールによる意見交換を実施した。「当て板厚さの計算方法の提案（第二報）」において提示予定の当て板厚さ計算式の妥当性検証を目的として、当て板および当て板溶接部に発生する応力状態を評価する FEM 解析を実施した。

#### 5.6 DSS 溶接ガイドライン出版 WG（岩本主査）

2024 年 4 月 25 日付で発行した「二相ステンレス鋼の溶接—溶接施工のかんどころ—」の内容に関し、2025 年 7 月 9 日にシンポジウム（対面のみ）を開催し、50 人の参加者を得た。また、書籍発行後の DSS の溶接材料に関する JIS の変更を本委員会のホームページに掲載した。

#### 5.7 海外活動 WG（中野主査）

2025 年度は WG を 2 回開催し、圧力設備技術に関わる ASME、API などの情報を共有し、本委員会の海外活動への展開について議論した。

- ・ ASME PCC Meeting の Post Construction Standard Committee に WEB 出席し、「Introduction of Guidelines for Repair Welding of Pressure Equipment in Refineries and Chemical Plants (2025)」についてプレゼンを行った。
- ・ ISO/TC 11（ボイラ及び圧力容器）の恒久的な活動再開について、事務局より紹介した。

#### 5.8 圧力設備の溶接設計施工テキスト講習会検討 WG（大原主査）

第 2 回圧力設備の溶接設計施工テキスト講習会（2025 年 3 月 6 日～7 日実施）において実施したアンケートの結果を解析し、次回以降の講習会開催に向けた方針を策定した。また、Q&A をまとめ、今後の講習会に活用する予定とした。

#### 5.9 情報化 WG（松下主査）

本年度は特筆する活動はなかった。



写真 1—(株)新来島どっく見学会（2025.9.2）

## ロボット溶接研究委員会

### 1. 本委員会

2025/6、2025/10、2026/3 の 3 回にわたり本委員会を開催し、委員会議事の検討・承認および 3. の技術講演会・見学会を実施した。また、第 2 回委員会は厚板向けの最適ロボット溶接施工技術開発プロジェクトとの合同委員会とし、併せて見学会を実施した。

### 2. プロジェクト研究活動

#### 2.1 知的情報処理制御・システム化技術検討プロジェクト（主査：金子裕良）

HDR 機能を持つ CMOS カメラなどが溶接現象の観察などに用いられてきている。そこで、これらのセンサ

類の溶接ロボットへの適用状況の調査を行った。具体的には、溶接溶融現象の観察および画像処理など知的センシングする方法および、深層学習に基づく画像処理方法などについての情報収集および適用可能性を調査した。

## 2.2 厚板向けの最適ロボット溶接施工技術開発プロジェクト（主査：中込忠男）

### 2.2.1 鉄骨溶接ロボット施工時の溶接欠陥の現状調査と対策案の構築

ファブリーケータ3社でこれまで行ってきたロボット溶接と半自動溶接での溶接欠陥の発生状況に関して収集したデータをまとめた結果について比較検討し、ロボット溶接使用時の溶接部の溶接欠陥の発生要因について議論し、それらの現状把握を行った。

### 2.2.2 組立て溶接に使用する溶接材料が完全溶込み溶接の機械的性質に及ぼす影響

母材に建築構造用の高強度鋼を使用した完全溶込み溶接部において、開先内に組立て溶接を行う場合に溶接材料が及ぼす溶接金属部の機械的性質並びに割れ発生性状への影響について、550N/mm<sup>2</sup>級鋼を対象に行った溶接施工試験の実験結果の分析を引き続き進め、投稿論文などにその成果をまとめる予定である。

### 2.2.3 角形鋼管柱溶接のパス間温度の管理手法の検討

パス間温度を測定するためのBCP角形鋼管柱とダイアフラム接合部の溶接施工実験と機械試験を行い、得られた温度履歴を分析し、「ロボット溶接における角形鋼管のパス間温度測定に関する研究（その1 溶接施工試験）」と題して日本建築学会大会にその成果を発表した。引き続き、機械試験と温度履歴結果について分析を行い、角形鋼管を溶接ロボットで溶接施工する際の溶接部の力学的性能を担保するための、入熱・パス間温度の管理手法について検討を行った。

### 2.2.4 鉄骨溶接ロボットの分野開拓

これまで様々な溶接ロボットシステムが開発され、コラム・仕口等に広く適用されており、今後さらなるロボットの活用が期待されている。前年度本委員会特別講演「柱製造ラインの構築と新たな取り組み」に関連して実施した鉄骨製作工場見学会を通して情報収集を行った。

また、過去2回、建築鉄骨ロボットに関するアンケート調査を行っており、直近の調査後10年近く経過していることから、定期的な動向やニーズの把握などを目的とし、同様のアンケート調査を実施するための検討を開始した。

## 3. 技術講演会及び見学会

### 3.1 技術講演会

#### 3.1.1 第1回本委員会

特別講演①「JETプロセスシステム」

パナソニックコネクト株式会社

福光 洋一 氏

特別講演②「溶接前後工程の自動化への取り組み」

株式会社ダイヘン

澤井 明雄 氏

#### 3.1.2 第2回本委員会

技術講演会は開催されなかった。

#### 3.1.3 第3回本委員会

特別講演①「Physical AI：ロボットへの応用とその実用例」

埼玉大学 大学院 理工学研究科 博士後期課程

大石 涼雅 氏

特別講演②「20kW リングモード対応レーザー溶接ロボット」

株式会社安川電機

関山 友之 氏

### 3.2 合同見学会

2025年度は川田工業株式会社 栃木工場（栃木県大田原市）を訪問し、同社における自動化された鉄骨4面ボックス柱製造ライン等を見学した。参加者は16名であった。

## 表面改質技術研究委員会

溶射・肉盛などの厚膜表面改質、CVD・PVD・めっきなどの薄膜表面改質およびそれらの評価に関する最新技術について、講演、研究発表、見学会等を通じた情報交換を行うとともに、表面改質技術に関するデータの収集およびデータベース化を推進し、本技術分野における会員の研究開発・実用化に対する技術支援を実施している。

2025年度は、委員会3回、見学会1回、セミナー2回を実施した。

### 1. 委員会及び講演会

以下のとおり委員会を開催し、計4件の講演を実施した。なお、すべての委員会はオンライン会議（Cisco Webex Meeting）を併用して開催した。

#### (1) 2025年度第1回（通算108回委員会）

2025年7月23日（水）＜（一社）日本溶接協会 溶接会館（東京）＞

##### ① 「フランス HEF グループの DLC コーティングへの取り組み」

ナノコート・ティーエス株式会社 熊谷 泰 氏（会場）

##### ② 「熱可塑性炭素繊維強化プラスチック（CFRTP）の前処理無し接着」

地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター 武田 浩司 氏（会場）

##### ③ 「熱硬化性炭素繊維強化プラスチック（CFRP）とアルミニウムの接着強化コーティング剤開発」

地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター 小野澤 明良 氏（会場）

#### (2) 2025年度第2回（通算109回委員会）

2025年12月8日（月）＜（一社）日本溶接協会 溶接会館（東京）＞

表面処理技術セミナー応用編を本委員会に振り替えて開催した（詳細は「4. セミナー」参照）。

#### (3) 2025年度第3回（通算110回委員会）

2026年3月9日（月）＜日産自動車㈱横浜工場3地区（神奈川）＞

##### ④ 「コールドスプレーバルブシート量産工法の開発－第3世代 e-POWER エンジンへの適用－」

日産自動車株式会社 柴山 博久 氏（会場）

### 2. 幹事会

2025年7月23日（水）に開催した。

### 3. 見学会

2026年3月9日（月）、日産自動車株式会社横浜工場3地区（神奈川）において実施した（参加者7名）。

### 4. セミナー

#### (1) 表面処理技術セミナー～ドライプロセスを中心に基礎から応用まで～ 基礎編

2025年11月6日（木）＜（一社）日本溶接協会 溶接会館（東京）＞

参加者31名

#### (2) 表面処理技術セミナー～ドライプロセスを中心に基礎から応用まで～ 応用編

2025年12月8日（月）＜（一社）日本溶接協会 溶接会館（東京）＞

参加者41名

## 溶接・接合プロセス研究委員会

本年度は3回の本委員会を開催した。第1回は5月20日に、第2回は11月27日のシンポジウム時に、第3回は2025年3月18日の見学会時に開催した。また、本委員会に先立って、5月20日に行った幹事会では、主にシンポジウム及び見学会の開催について審議を行った。本年度も、見学会を行った。

### 1. 委員会・シンポジウム

#### (1) 第1回委員会 2025年5月20日（火） 溶接会館 3階 研修室

2025年度の事業計画案とともに、シンポジウム及び見学会についての審議に加え、以下の2件の技術講

演を行った。

- ① 「火力発電の現状および将来と溶接技術」 東芝エネルギーシステムズ株式会社 藤田 善宏 氏
- ② 「超音波複合振動接合の電動化移動体への適用」 株式会社 LINK-US 齋藤 茂樹 氏

(2) 第2回委員会 2025年11月27日(木) 溶接会館3階 研修室

シンポジウムのテーマと講演者について審議した。

(3) シンポジウム 2025年11月27日(木) 溶接会館2階ホール (WEB会議室併用)

第11回シンポジウム「新エネルギー源とその実現に製造技術の展望」

総勢6名の講師より以下の講演を開催した。講演終了後に総合討論の時間を作り、議論を深めることで、聴講された皆者からのご要望やご意見等を幅広く収集することができた。

- ① 「火力発電の現状および将来と溶接技術」  
東芝エネルギーシステムズ(株) 藤田 善宏 氏
- ② 「アンモニアによるエネルギー転換」  
(株)IHI 藤森 俊郎 氏
- ③ 「次世代革新炉開発の取組みと原子力を支える溶接技術」  
三菱重工業(株) 下楠 善昭 氏
- ④ 「核融合炉における接合技術課題」  
国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 谷川 博康 氏
- ⑤ 「航空機産業の挑戦と先進材料・製造技術開発の展望」  
川崎重工業(株) 都筑 亮一 氏
- ⑥ 「定置用大型リチウム二次電池への期待と課題 ―安全性評価と国際標準化―」  
一般財団法人 電気安全環境研究所 本多 啓三 氏

(4) 第3回委員会 2026年3月18日(水) 川崎重工業(株) 会議室

第11回シンポジウムの総括及び2025年度の決算案、2026年度の事業計画案及び予算案の審議を行った。

2. 見学会 (2026年3月18~19日)

川崎重工業(株)坂出造船工場、今治造船(株)丸亀工場および川田工業(株)四国工場を見学させていただくとともに、質疑応答や意見交換を通じて様々な知見を共有した。川崎重工業(株)では、坂出造船工場の説明の後、各種工場のみならず、ドックで建造中の船舶を間近で見せていただくことができた(写真1)。今治造船(株)では、丸亀工場の概要説明の後、ドック内で建造中の大型コンテナ運搬船の建造プロセスを順を追って見学させていただくとともに、岸壁に接岸して艀装中の船を間近に見せていただいた(写真2)。さらに、実海域再現用と曳航用の2種類の大型水槽について詳しくご説明いただいた。また、川田工業(株)では、工場の概要説明の後、橋梁の組み立て工程を順に見せていただくとともに、実際に仮組立されたモノレール用や道路用の橋梁を前に、建設から塗装に至るまでを詳細に解説していただいた(写真3)。



写真1 川崎重工業(株)坂出造船工場にて 2026. 3. 18



写真2 今治造船(株)丸亀工場にて 2026. 3. 19



写真3 川田工業(株)四国工場にて 2026. 3. 19

## レーザ加工技術研究委員会（LMP 委員会）

### 1. 委員会の実施

幹事会及び本委員会を4回開催した（WebexによるWEB会議形式を併用）。

### 2. 研究報告及び特別講演の実施

本委員会において下記の6件の研究報告及び特別講演を行った。

- 2.1 「ハンドトーチ型ファイバーレーザ溶接機の安全対策」
- 2.2 「ファイバーレーザ溶接機「FLM-2000W」について」
- 2.3 「中国最新レーザ技術 深圳 JPT オプトエレクトロニクスのご紹介」
- 2.4 「ハイスピードカメラによる画像解析事例」
- 2.5 「60年間の研究及び技術開発を振り返って（溶接ワイヤの作製からレーザ技術開発まで）」
- 2.6 「コールドスプレーバルブシート量産工法の開発」

### 3. 見学会の実施

- 3.1 第2回本委員会（開催日 2025年9月4日）で、(株)ナックイメージテクノロジー 横浜工場（所在地：神奈川県横浜市）において、高速度カメラの製造工程やカメラを用いたモニタリングシステムについて紹介を実施した。
- 3.2 第3回本委員会（開催日 2025年12月4日）で、IPG フォトニクスジャパン(株)中部テクニカルセンター（所在地：愛知県安城市）において、ファイバーレーザ発振器や周辺機器の紹介と各種レーザ加工設備の見学を実施した。

### 4. シンポジウムの開催

2025年3月5日と3月6日の2日間で、会場開催（つくば国際会議場、所在地：茨城県つくば市）とWEB開催（Zoom ウェビナー）によるハイブリッド方式にて、LMP シンポジウム 2026「レーザ加工技術の基礎・応用と最新動向」を開催し、86名の参加者を得て13件の講演を実施し、見学会として国立研究開発法人物質・材料研究機構 NIMS・千現地区（本部）にて、金属粉末レーザ積層造形装置や試験機などを見学した。

#### 5. レーザ関連 ISO 及び IIW 規格等の国際標準に関する活動

- 5.1 ISO/TC 44/SC 7 国際会議及び IIW-VI 委員会に参加し、レーザ溶接、熱切断及びプラスチックの接合・接着の用語作成・見直しに関する活動に参画した。その後のワーキング作業にも参画した。
- 5.2 ISO/TC 44/SC 7/WG 1（記号）に参加し、溶接記号の規格修正に関する活動に参画した。
- 5.3 ISO/TC 44/SC 10/WG 5（施工要領）に参加し、施工要領書の規格修正に関する活動に参画した。
- 5.4 その他 ISO のレーザ加工に関する各種規格の制定及び定期見直しに関して、日本を代表して審議、修正提案及び投票を行った。

#### 6. レーザ関連 JIS、WES 等の国内標準に関する活動

安全衛生・環境委員会には委員代表が参加し、WES の改正や溶接ヒュームの特定化学物質規制について、レーザ溶接・加工の観点から協議に加わった。また今年度は、安全衛生・環境委員会と共同で新設規格 WES9009-7「溶接、熱切断及び関連作業における安全衛生（第7部：レーザ溶接）」を策定し、2025年10月1日に制定された。

WES 9009-3「溶接、熱切断及び関連作業における安全衛生 第3部：有害光」の見直しで、レーザ溶接部分を新たに WES 9009-7 に規定するため、レーザ溶接にかかわる部分を除いて内容を整理する作業を行った。

#### 7. 国際会議出席報告

下記の国際会議に出席した委員により、下記の1件の出席報告を行った。

- 7.1 Joint Intermediate Meeting with C-I, C-IV, C-XII and C-XIX（2026/3/4～6、ハエン・スペイン）
- 7.2 43rd International Congress on Applications of Lasers & Electro- Optics - ICALEO 2024（2024/11/4～7、カリフォルニア・米国）

#### 8. 最近のレーザ加工技術関連文献の調査及びデータベース化

2025年に発刊された国内外の学会誌や雑誌及び EALA2025 などの国際会議のプロシーディングなど 25 を超える学術情報誌から、レーザ加工に関する 485 件の文献をリスト化しマイクロソフトエクセルのファイルとしてデータベース化した。

#### 9. 共同調査

ハンドヘルドレーザ溶接 WG より、以下の1件の講演と1件のその講演の解説記事作製を実施した。

- 9.1 「安全なハンドヘルドレーザ溶接作業の方法」（一般社団法人 軽金属溶接協会、一般社団法人 日本溶接協会 安全衛生・環境委員会主催、「溶接の安全・衛生を取り巻く最近の環境-労働安全衛生規則及びハンドヘルドレーザ溶接の最新動向-」シンポジウム）という題目にて、口頭発表（2025-10-1）
- 9.2 「ハンドヘルドレーザ溶接機の安全利用に向けた基本的な考え方」という題目で、産報出版『レーザ加工技術』Vol.9 と『溶接技術』6月号に掲載予定

また、前々年度に実施した「自動機によるレーザ溶接での溶接ヒューム測定」の共同調査の結果報告を、溶接ヒューム測定を依頼した調査・分析機関である（独）労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所より、以下の内容について学会報告を実施した。

- 9.3 日本産業衛生学会第2回関東地方会学会（2025/7/26、東京都品川区）：「溶接ヒュームばく露に関する最近の知見とリスク管理」という題目で、レーザ溶接のヒューム測定に関する内容を口頭発表

## 非破壊試験技術実用化研究委員会（AN 委員会）

デジタルラジオグラフィ（D-RT）に関する JIS Z 3110（溶接継手の放射線透過試験方法—デジタル検出器による X 線及び γ 線撮影技術）に基づき IP などを用いての試験体撮影を実施し、技術的検討を行うとともに採取

したデータに関しての集合観察実験については、本年度も実施できなかった。

それに代わって、2020年の韓国開催の第20回国際非破壊試験コンファレンス(20th WCNDT 2020)が、2024年5月27日から31日までの5日間で開催されたのを受けて、主に、発表内容に対して発表後の試験研究との関連で、その内容について検討した。観察条件の適正化に向けた観点からの集合実験について、フィルムラジオグラフィとコンピューテッドラジオグラフィ画像の比較、デジタルRTにおける画像観察環境の影響及びデジタル法による針金形透過度計及び有孔形透過度計の識別性に注視して、観察におけるウインドーレベルに絞って得られた検討結果について比較検討し、次の集合実験への対応を明らかにした。

特に、観察者により識別性(きず、複線形像質計あるいは透過度計)にばらつきが生ずること、観察時の画像の表示条件に差異があることなどを重点的に議論してWCNDTの提出内容を今後、より充実させることとした。

なお、ウインドーレベルに関して実用化に向けた更なる絞り込みについては、引き続き、次年度の検討項目とした。また、これまでの集合観察実験に使用した試験体について、本年度は実験を行っていないためAN委員会で保有している試験体の活用及び新たな集合実験に向けての試験体製作の検討を行った

一方、RT用 $\gamma$ 線源製造及び供給の状況について、従来の線源製造及び使用状況の調査に加えて、Ir線源の微小化球状線源の実用化が可能となり、線源サイズが $\phi 0.5\text{mm}$ 、 $\phi 1.0\text{mm}$ は近接撮影での効果が期待されることから、今後も検討を継続するとともに必要に応じての実験を進めることとし、委員会として実装の観点から注視していくこととした。

D-RTの技術講習会は、東京、広島の2会場で実施して、D-RTの普及を図ったが、東京はこれまでより少ない参加者であった。

さらに、RT-Dに関連したISO規格であるISO17636-2が2027年に改正又は確認を迎えていること、また、JIS Z 3110の対応国際規格が改正されたことへの対応が不可欠なことから、その対応についての検討に着手した。

今後もAN委員会を継続し、D-RT技術者の技術向上のためにも、溶接継手の放射線透過試験としてのD-RTの普及・拡大を図るとともに、溶接継手に関わる非破壊試験関連規格の調査・検討などを進める予定である。また、試験研究の成果を国内外のシンポジウムなどで発表し、情報交換及び情報の入手に努める計画である。

### 3. その他

#### 溶接情報センター委員会

##### 1. 情報発信強化の継続推進

- (1)公式 SNS(X、Instagram)を開始。当協会活動の告知・報告記事や、溶接になじみが薄い方に向けたニュース・レポート記事などを投稿した。
- (2)若年層を中心とする溶接未経験者・初心者向けに新設したサイト「よくわかる!溶接 lab」のコンテンツについて拡充を検討した。ニュース・レポート記事、インタビュー記事を追加掲載した。
- (3)溶接情報活用推進WGにて、ローカルLLM(大規模言語モデル)を使用したAIチャットの導入に向けた試作検証に着手した。
- (4)広報委員会を立ち上げ、活動内容を検討した。
- (5)溶接界で活躍する・活躍したい女性を応援するサイト「溶接女子会」では溶接女子インタビュー記事を追加掲載した。

##### 2. 当協会基幹システムや情報インフラの整備など

- (1)会員管理システムを刷新し、クラウド化を行った。
- (2)会計システムを改修し、Windows11対応および他の更新された基幹システムとの連携対応を行った。
- (3)職員用パソコンおよびサーバ(ドメインコントローラ、ファイルサーバ)を更新した。
- (4)ランサムウェア等のセキュリティ対策のため、各PCに脅威検知や駆除を行うためのセキュリティソフト導入と、セキュリティ専門ベンダーによる監視体制構築を行った。

(5)インターネット回線を高速通信光回線（10Gbps）に切り替えた。

(6)溶接情報センターのバックエンドシステムが老朽化しており、2026年度システム刷新とクラウド化を計画化するため、刷新を依頼するベンダー選定を行った。

### 3. 専門部会・委員会など協会活動の支援

溶接管理技術者（WE）認証委員会に協力し、WE-COM マガジン（WEB マガジン）を年4回発行した。

- ・インタビュー記事や体験紹介など、親しみやすい記事の充実に努めた。大阪大学接合科学研究所とのコラボレーションによる、好評のコミック「浪速博士の溶接がってん！R」及び「溶接バッテン！X」も毎号掲載した。
- ・技術相談は回答チームの協力により順調に運用した。

## 特許委員会

### 1. 特許庁長官賞の推薦選考

特許庁長官賞 推薦審査委員会を開催し、審査の結果1件を授賞候補として特許庁へ推薦した。

### 2. 溶接関係特許に関する特許庁との協力

#### (1)特許庁と当協会会員による懇談会

特許出願に関わる法令や規則は毎年のように改正され、それらを注意深くフォローしていくことが必要不可欠である。

今年度は溶接会館とオンラインのハイブリッド開催とし、特許庁の審査第二部生産機械（加工機械）の田中成彦室長、総務部企画調査課知財動向班の温井脩市係長、審査第二部生産機械（加工機械）の松田長親先任上席審査官ご参加いただき、田中室長より「最近の特許行政」について、温井係長より「GXTI を用いた特許情報分析結果の概要」について、松田上席審査官より「溶接業界の特許出願・審査に関する統計」について、それぞれ丁寧な解説をいただいた。

その後、情報交換、意見交換が行える場として、全体での討論会の時間を設け、活発な質疑討論となった。

開催日時：2025年11月5日（水）14：00～17：00

開催場所：溶接会館会議室

Teams ウェビナー

- 内容：① 「最近の特許行政」について  
② 「GXTI を用いた特許情報分析結果の概要」について  
③ 「溶接業界の特許出願・審査に関する統計」  
④ 意見交換会

参加者数：48名（うち特許庁から4名）



## (2) 特許庁審査官、審判官の溶接研修

審査官・審判官がよりの確に溶接技術の発明を理解するための一助として、実際に溶接を行ってみることを通じて溶接技術に関する理解を深め、特許審査に役立てていただきたいことから溶接実習を実施することとした。

今回の溶接実習については、(株)神戸製鋼所（特許委員会委員会社）に協力を要請した。

特許庁からの参加者は5名であった。

日時：2025年11月10日（月）9：30～17：00

場所：コベルコ溶接テクノ(株) 溶接研修センター

内容：①溶接材料・施工に関する基礎知識や最近のトピックの座学

②設備見学

③被覆アーク溶接（一般棒、低水素棒）および MAG 溶接（ソリッドワイヤ、フラックス入りワイヤ）の実習体験



実習体験



講師による実演

## (3) 特許庁審査官、審判官の溶接構造物製造現場の実施

審査官・審判官がよりの確に溶接技術の発明を理解するための一助として、実際に溶接を行っている現場を見学することで溶接技術に関する理解を深め、特許審査に役立てて行きたいことから工場見学を実施することとした。

今回の工場見学については、JFE スチール(株)（日本溶接協会団体会員）に協力を要請した。

特許庁からの参加者は9名であった。

日時：2026年3月9日（月）13：30～16：00

場所：JFE スチール株式会社 スチール研究所 千葉地区

内容：① 会社・事業所概要説明

② 研究所見学

③ 質疑応答

## 3. 広報活動

溶接情報センターのコンテンツとして、特許行政に関する資料を公開した。

## 安全衛生・環境委員会

### 1. 第10次粉じん障害防止総合対策（2023～2027年度）の推進

- ・リーフレット・ポスター作製検討

2. 特定化学物質障害予防規則への対応
  - ・金属アーク溶接等作業主任者限定講習会（東京都溶接協会主催）への講師派遣の調整
  - ・（一社）軽金属溶接協会との講習会を開催
3. 個人用保護具展示
  - ・展示内容・方法について検討及び展示を開始
4. 化学物質規制の動向調査
  - ・化学物質管理者の役割に関する情報収集
5. JIS 制定検討
  - ・JIS Z 3960 溶接及び関連工程における安全衛生—アーク溶接用の透明な溶接遮光カーテン、ストリップ及びスクリーン
6. WES 制定・改正検討
  - ・改正：WES 9009-2 溶接、熱切断及び関連作業における安全衛生 第2部：溶接ヒューム及び有害ガス
7. 国際規格審議
  - ・ISO 5年見直し規格の審議および諸段階における回答案作成および投票を実施
8. 国際活動
  - ・IIW 2025年次大会（イタリア、ジェノヴァ）IIW 第VIII委員会（衛生・安全・環境）への参画
  - ・IIW 第VIII委員会中間会議（スペイン、リンナレス）への参画
9. 広報活動
  - ・産報出版株式会社「溶接技術」2025年7月号及び2026年3月号へ原稿執筆
  - ・関連講習会への講師派遣
    - a)アーク溶接等特別教育講師養成講座（建設業労働災害防止協会主催）
    - b)「鉄骨工事管理責任者」資格講習会（日本鋼構造協会主催）
10. 安全、衛生及び環境に関する国内外の文献調査
11. 安全、衛生及び環境に関する事項の他団体への協力
12. 安全、衛生及び環境に関する諸問題への対応

## 規格委員会

### 1. 本委員会

回数・名称	開催年月日	開催場所	出席者数
第39期第1回規格委員会	2025年6月4日	溶接会館	15名（内、オブザーバー3名）
第39期第2回規格委員会	2025年12月2日	溶接会館	10名

### 2. 溶接規格専門委員会

#### 2.1 本委員会

回数・名称	開催年月日	開催場所	出席者数
第39期第5回溶接規格専門委員会	2025年6月4日	溶接会館（Webex併用）	38名（現地28名／WEB10名）
第39期第6回溶接規格専門委員会	2025年9月8日	溶接会館（Webex併用）	42名（現地22名／WEB20名）
第39期第7回溶接規格専門委員会	2025年12月2日	溶接会館（Webex併用）	38名（現地23名／WEB15名）
第39期第8回溶接規格専門委員会	2026年2月5日	溶接会館（Webex併用）	35名（現地19名／WEB16名）

## 2.2 幹事会

回数・名称	開催年月日	開催場所	出席者数
第39期2025年度5月度 溶接規格専門委員会 幹事会	2025年5月14日	溶接会館 (Webex 併用)	17名 (現地 13名/WEB 4名)
第39期2025年度7月度 溶接規格専門委員会 幹事会	2025年7月10日	ホテルグランド天空 (秋田県)	13名
第39期2025年度10月度 溶接規格専門委員会 幹事会	2025年10月7日	溶接会館 (Webex 併用)	19名 (現地 13名/WEB 6名)
第39期2025年度11月度 溶接規格専門委員会 幹事会	2025年11月13日	溶接会館 (Webex 併用)	15名 (現地 10名/WEB 5名)
第39期2025年度1月度 溶接規格専門委員会 幹事会	2026年1月20日	溶接会館 (Webex 併用)	13名 (現地 9名/WEB 4名)
第39期2025年度3月度 溶接規格専門委員会 幹事会	2026年3月9日	溶接会館 (Webex 併用)	17名 (現地 11名/WEB 6名)

## 2.3 その他小委員会

回数・名称	開催年月日	開催場所	出席者数
2025年度第1回 (通算第25回) 薄板接合技術小委員会 (ISO/TC 44/SC 6 対応)	2025年7月14日	溶接会館 (Webex 併用)	17名 (現地 4名/WEB 13名)
薄板接合技術小委員会 (ISO/TC 44/SC 6 対応) 第2回機械式ピール試験 JIS 原案作成準備会	2025年7月15日	溶接会館 (Webex 併用)	14名 (現地 3名/WEB 11名)
薄板接合技術小委員会 (ISO/TC 44/SC 6 対応) 第3回機械式ピール試験 JIS 原案作成準備会	2025年10月9日	溶接会館 (Webex 併用)	14名 (現地 4名/WEB 10名)
2025年度第2回 (通算第26回) 薄板接合技術小委員会 (ISO/TC 44/SC 6 対応)	2025年10月10日	溶接会館 (Webex 併用)	17名 (現地 5名/WEB 12名)
溶接施工管理 (ISO/TC 44/SC 10 対応) 小委員会 第1回 JIS Z 3400 改正打合せ	2026年1月14日	溶接会館	8名
用語・記号 (ISO/TC 44/SC 7 対応) 小委員会 第10回 JIS Z 3021 改正打合せ	2026年1月20日	溶接会館	7名
溶接施工管理 (ISO/TC 44/SC 10 対応) 小委員会 第2回 JIS Z 3400 改正打合せ	2026年2月9日	溶接会館 (Webex 併用)	9名 (現地 8名/WEB 1名)
2025年度第3回 (通算第27回) 薄板接合技術小委員会 (ISO/TC 44/SC 6 対応)	2026年3月4日	溶接会館 (Webex 併用)	13名 (現地 8名/WEB 5名)
溶接施工管理 (ISO/TC 44/SC 10 対応) 小委員会 第3回 JIS Z 3400 改正打合せ	2026年3月30日	溶接会館	9名 (現地 8名/WEB 1名)

## 3. AM 規格専門委員会

回数・名称	開催年月日	開催場所	出席者数
第39期第1回 AM 規格専門委員会	2025年6月26日	溶接会館 (Webex 併用)	39名 (内、オブザーバー 3名) (現地 17名/WEB 22名)
第39期第2回 AM 規格専門委員会	2025年12月2日	金沢大学 (Webex 併用)	36名 (内、オブザーバー 3名) (現地 17名/WEB 19名)
第39期第3回 AM 規格専門委員会	2026年2月2日	溶接会館 (Webex 併用)	40名 (内、オブザーバー 4名) (現地 20名/WEB 20名)

## 4. ISO・IEC 規格の調査

ISO/TC 44 (溶接)、ISO/TC 261 (積層造形)、IEC/TC 26 (電気溶接) 及び IIW の国際規格回答原案の調査・作成を実施した。

## 5. 国際標準化活動

### 5.1 ISO/IEC 文書に対する投票及び回答

本年度受理した文書のうち、回答文書は ISO/TC 44 で 56 件、ISO/TC 261 で 20 件、IEC/TC 26 で 1 件及び IIW で 4 件であった。定期見直しの ISO 規格は ISO/TC 44 で 38 件、ISO/TC 261 で 3 件及び IIW で 9 件であった。また、本年度に発行された ISO 規格は ISO/TC 44 で 14 件、ISO/TC 261 で 8 件、及び IEC 規格は 1 件であった。

### 5.2 国際会議実績 (ISO/TC 44)

## 5.2.1 ISO/TC 44

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/5/22	TC 44 Plenary	Berlin/Germany & Zoom	山根 (埼大)、山田 (新日設計)、今岡・山出 (事務局)
5/24	TC 44/WG 5	Zoom	伊與田 (大工大)、今岡 (事務局)
6/13	TC 44/WG 5	Zoom	伊與田 (大工大)、今岡 (事務局)
2026/3/19	TC 44/JAG	Zoom	[不参加]

## 5.2.2 ISO/TC 44/SC 3

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/5/6	SC 3	Zoom	斉藤 (神鋼)
7/2	SC 3	Zoom	斉藤 (神鋼)
9/24	SC 3/WG 2	Zoom	[不参加]
2026/1/15	SC 3	Zoom	斉藤 (神鋼)

## 5.2.3 ISO/TC 44/SC 5

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/5/22	SC 5	Berlin/Germany & Zoom	白旗 (都市大)、山田 (新日設計)、山根 (埼大)、今岡・山出 (事務局)
9/11	SC 5/WG 2	Zoom	今岡 (事務局)
11/19	SC 5/WG 2	Zoom	白旗 (都市大)、今岡 (事務局)
11/26	SC 5/WG 2	Zoom	白旗 (都市大)、今岡 (事務局)
2026/3/16	SC 5/WG 2	Paris/France & Zoom	[中止]
3/23-24	SC 5/WG 2	Paris/France & Zoom	白旗 (都市大)、今岡 (事務局)

## 5.2.4 ISO/TC 44/SC 6

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/4/16	SC 6	Zoom	[延期]
4/24	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)
5/19	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
6/16	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
7/9	SC 6/WG 3	Zoom	[中止]
8/26	SC 6	Zoom	山根 (埼大)、松山 (SWT)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
9/17	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
10/17	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
11/25	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
12/16	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
2026/1/28	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、北村 (九工大)、加瀬 (JWES)
2/25	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、加瀬 (JWES)
3/20	SC 6/WG 3	Zoom	松山 (SWT)、伊與田 (大工大)、加瀬 (JWES)

## 5.2.5 ISO/TC 44/SC 7

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/5/5	SC 7/WG 1	Zoom	山田 (新日設計)、中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、松山 (SWT)
7/7	SC 7/WG 1	Zoom	山田 (新日設計)、中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、松山 (SWT)
9/30	SC 7/WG 1	Zoom	山田 (新日設計)、中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、松山 (SWT)
11/18	SC 7/WG 1	Zoom	山田 (新日設計)、中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、松山 (SWT)
2026/2/23	SC 7/WG 1	Zoom	山田 (新日設計)、中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、松山 (SWT)

## 5.2.6 ISO/TC 44/SC 8

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/5/21	SC 8/WG 8	Berlin/Germany & Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、上野 (JWES)
5/21	SC 8/WG 9	Berlin/Germany & Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、谷村 (JRMA)、上野 (JWES)
5/22	SC 8	Berlin/Germany & Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、上野 (JWES)
9/10	SC 8/WG 8	—	[中止]
9/24	SC 8/WG 9	Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、谷村 (JRMA)、上野 (JWES)
10/27	SC 8/WG 8	Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、上野 (JWES)
10/30	SC 8	Basel/Switzerland & Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、上野 (JWES)
2026/1/15	SC 8/WG 9	Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、谷村 (JRMA)、上野 (JWES)、静 (大同ゴム)
3/17	SC 8/WG 9	Zoom	福島 (日酸 TANAKA)、谷村 (JRMA)、上野 (JWES)、静 (大同ゴム)

## 5.2.7 ISO/TC 44/SC 9

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/10/7	SC 9	Zoom	山根 (埼大)
2026/2/3	SC 9/WG 4	Zoom	[不参加]

## 5.2.8 ISO/TC 44/SC 10

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/4/1	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、北側 (阪大)、今岡 (事務局)
5/20	SC 10	Berlin/Germany & Zoom	佐藤 (JWES)、白旗 (都市大)、中澤 (清水建)、山田 (新日設計)、今岡・山出 (事務局)
6/26	SC 10/WG 6	Zoom	鈴木 (愛工大)、稲本・佐々木・松山・ナカジ (ASW)
7/1	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、北側 (阪大)、今岡 (事務局)
7/15	SC 10/WG 12	Zoom	中井 (元 BVJ)、今岡 (事務局)
9/2	SC 10/WG 12	Zoom	中井 (元 BVJ)、今岡 (事務局)
9/23	SC 10/WG 16	Zoom	中澤 (清水建)、今岡 (事務局)
10/1	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
10/6	SC 10/WG 12	Zoom	中井 (元 BVJ)、今岡 (事務局)
10/7	SC 10/WG 16	Zoom	中澤 (清水建)、今岡 (事務局)
10/14	SC 10/WG 12	Zoom	中井 (元 BVJ)、今岡 (事務局)
11/21	SC 10/WG 16	Zoom	中澤 (清水建)、今岡 (事務局)
12/9	SC 10/WG 5	Zoom	[中止]
2026/2/2	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、北側 (阪大)、今岡 (事務局)
2/24	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、北側 (阪大)、今岡 (事務局)
2/27	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
3/23	SC 10/WG 5	Zoom	中井 (元 BVJ)、佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)

## 5.2.9 ISO/TC 44/SC 11

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/4/24	SC 11/WG 4	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
5/21	SC 11	Berlin/Germany & Zoom	佐藤 (JWES)、山田 (新日設計)、山根 (埼大)、今岡・山出 (事務局)
5/21	SC 11/WG 4	Berlin/Germany & Zoom	佐藤 (JWES)、山田 (新日設計)、山根 (埼大)、今岡・山出 (事務局)
6/10	SC 11/WG 2	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
6/30	SC 11/WG 4	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
9/3	SC 11/WG 3	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
9/22	SC 11/WG 2	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
9/25	SC 11/WG 4	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
10/15	SC 11/WG 3	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
10/27	SC 11/WG 4	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
12/11	SC 11/WG 4	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)
2026/3/2	SC 11/WG 4	Zoom	佐藤 (JWES)、今岡 (事務局)

## 5.2.10 ISO/TC 44/SC 12

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/4/9	SC 12	Zoom	大田 (千住金属)、今岡 (事務局)
12/3	SC 12	Zoom	大田 (千住金属)、新井 (タムラ製作所)、今岡 (事務局)

## 5.2.11 ISO/TC 44/SC 13

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/12/3	SC 13	Zoom	岸本 (田中貴金属)、宮沢 (東海大)

## 5.2.12 ISO/TC 44/SC 14

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/9/10	SC 14	Zoom	池庄司 (東北大)
2026/2/10	SC 14	Zoom	[延期]

## 5.3 国際会議実績 (ISO/TC 261)

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/7/9	TC 261/JAG	Teams	村瀬 (阪大)
9/23	TC 261/WG 1	Manila/Philippines	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)
9/23	TC 261/WG 4	Manila/Philippines	池庄司 (東北大)、綾 (AIST Solutions)
9/23	TC 261/JG 76	Manila/Philippines	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、西田 (事務局)
9/23	TC 261/JG 84	Manila/Philippines	佐々木 (リコー)、綾 (AIST Solutions)
9/23	TC 261/JG 81	Manila/Philippines	綾 (AIST Solutions)、山出・西田 (事務局)
9/24	TC 261/WG 2	Manila/Philippines	中村 (IHI)、岩本・篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)、藤本 (宇大)、芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、小柳・土屋 (JFCA)、山出・西田 (事務局)
9/24	TC 261/WG 3	Manila/Philippines	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、西田 (事務局)
9/24	TC 261/JG 64	Manila/Philippines	池庄司 (東北大)
9/24	TC 261/JG 73	Manila/Philippines	池庄司 (東北大)
9/24	TC 261/JG 75	Manila/Philippines	池庄司 (東北大)
9/24	TC 261/JG 82	Manila/Philippines	小柳・土屋 (JFCA)、山出 (事務局)
9/24	TC 261/JG 85	Manila/Philippines	中村 (IHI)、池庄司 (東北大)
9/25	TC 261/JAG	Manila/Philippines	村瀬 (阪大)
9/25	TC 261/CAG	Manila/Philippines	村瀬 (阪大)
9/25	TC 261/WG 6	Manila/Philippines	佐々木 (リコー)、綾 (AIST Solutions)
9/25	TC 261/JG 59	Manila/Philippines	中村 (IHI)、鈴木 (道総研)
9/25	TC 261/JG 77	Manila/Philippines	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、山出・西田 (事務局)
9/25	TC 261/JG 80	Manila/Philippines	岩本・篠野 (Polyuse)、芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、中村 (IHI)、土屋 (NILIM)、藤本 (宇大)、山出・西田 (事務局)
9/25	TC 261/JG 83	Manila/Philippines	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、山出・西田 (事務局)
9/25	TC 261 Plenary	Manila/Philippines	村瀬 (阪大)、中村 (IHI)、岩本・篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)、藤本 (宇大)、芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、小柳・土屋 (JFCA)、池庄司 (東北大)、山出・西田 (事務局)
10/30	TC 261/JG 63	Teams	綾 (AIST Solutions)
2026/1/13	TC 261/JAG	Teams	村瀬 (阪大)
1/19	TC 261/JG 84	Teams	佐々木 (リコー)
3/10	TC 261/JG 81	Oak Ridge/U.S.A	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、中村 (IHI)、綾 (AIST Solutions)、柳本 (NEDO)、増尾 (MTC)、小柳 (JFCA)、西田 (事務局)
3/10	TC 261/WG 4	Oak Ridge/U.S.A	池庄司 (東北大)、篠野 (Polyuse)、
3/10	TC 261/JG 76	Oak Ridge/U.S.A	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、中村 (IHI)、綾 (AIST Solutions)、柳本 (NEDO)、増尾 (MTC)、西田 (事務局)
3/11	TC 261/JG 83	Oak Ridge/U.S.A	中村 (IHI)

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
3/11	TC 261/JG 72	Oak Ridge/U. S. A	増尾 (MTC)
3/11	TC 261/WG 3	Oak Ridge/U. S. A	芦田 (AIST)、鈴木 (道総研)、綾 (AIST Solutions)、池庄司 (東北大)、柳本 (NEDO)、小柳 (JFCA)、篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)、西田 (事務局)
3/11	TC 261/JG 73	Oak Ridge/U. S. A	小柳 (JFCA)、篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)
3/11	TC 261/JG 75	Oak Ridge/U. S. A	中村 (IHI)
3/11	TC 261/JG 59	Oak Ridge/U. S. A	鈴木 (道総研)、小柳 (JFCA)
3/11	TC 261/WG 2	Oak Ridge/U. S. A	芦田 (AIST)、綾 (AIST Solutions)、池庄司 (東北大)、柳本 (NEDO)、篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)、増尾 (MTC)、西田 (事務局)
3/11	TC 261/JG 64	Oak Ridge/U. S. A	鈴木 (道総研)、小柳 (JFCA)
3/12	TC 261/WG 6	Oak Ridge/U. S. A	綾 (AIST Solutions)、篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)、小柳 (JFCA)
3/12	TC 261/JG 74	Oak Ridge/U. S. A	中村 (IHI)、池庄司 (東北大)、柳本 (NEDO)、芦田 (AIST)、増尾 (MTC)、西田 (事務局)
3/13	TC 261 Plenary	Oak Ridge/U. S. A	芦田 (AIST)、中村 (IHI)、綾 (AIST Solutions)、池庄司 (東北大)、柳本 (NEDO)、鈴木 (道総研)、小柳 (JFCA)、篠野 (Polyuse)、土屋 (NILIM)、西田 (事務局)

#### 5.4 国際会議実績 (IEC/TC 26)

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/10/7	TC 26/WG 1	Montreal/Canada	山根 (埼大)
10/8	TC 26/WG 5	Montreal/Canada	山根 (埼大)
10/9	TC 26 Plenary	Montreal/Canada	山根 (埼大)
11/6	TC 26/WG 5	Zoom	山根 (埼大)、杵村 (ダイヘン)
12/3	TC 26/WG 5	Zoom	山根 (埼大)、杵村 (ダイヘン)
2026/1/13	TC 26/WG 1	Zoom	山根 (埼大)、杵村 (ダイヘン)
3/17-18	TC 26/WG 1	Copenhagen/Denmark	山根 (埼大)、杵村 (ダイヘン)、森田 (やまびこ)
3/19	TC 26/WG 5	Copenhagen/Denmark & Zoom	山根 (埼大)、杵村 (ダイヘン)、森田 (やまびこ)

#### 5.5 国際会議実績 (IIW)

開催日	会議名称	開催場所	出席者 ※敬称略
2025/6/23-25	C-VI	Genoa/Italy	北側・片山 (阪大)、松山 (SWT)、山出 (JWES)
6/24	C-II & C-IX	Genoa/Italy	[不参加]
6/25	C-XVIII	Genoa/Italy	松山 (SWT)、山出 (事務局)
6/26	WG-STAND	Genoa/Italy	山根 (埼大)、松山 (SWT)、山出 (事務局)
2026/1/22	WG-STAND	Zoom	[全体会議無し、役員のみ]
1/29	C-III-B/WG-B6	Zoom	藤本・三宅 (KHI)
2/12	C-III-B/WG-B6	Zoom	藤本・三宅 (KHI)、中山 (JWES)
3/19	C-XVIII	Zoom	松山 (SWT)、立花、山出 (事務局)

## 6. 溶接関連規格

溶接関係規格については、「第2部 4. 溶接関係規格」に記載している。

<参考>

ISO: International Organization for Standardization (国際標準化機構)

IEC: International Electrotechnical Commission (国際電気標準会議)

IIW: International Institute of Welding (国際溶接学会)

## 出版委員会

### 1. 出版物の登録及び分類

本協会の専門部会、研究委員会等の出版物において、2025年4月1日から2026年3月31日までに登録申請されたものを次の通り分類し、登録した。

分類	登録数
A	15
B	4
C	10

種 別

A：閲覧可 → 図書室の書架にて管理

B：限定閲覧可 → 図書室の鍵付書架にて管理

C：非公開（発行者以外の閲覧禁止）→ 図書室の鍵付書架にて管理

## 2. 編集委員会

次の各編集委員会からの 2025 年度発行報告を承認した。また、2026 年度溶接技術の出版計画案を承認した。

### 2.1 溶接ニュース編集委員会

### 2.2 溶接技術編集委員会

## 3. 委託出版物

### 3.1 次の通り委託出版物の改訂および増刷依頼を承認した。

#### 3.1.1 JIS 銀ろう付受験の手引（第 2 版第 2 刷）

#### 3.1.2 新版改訂溶接・接合技術入門（第 5 版第 1 刷）

#### 3.1.3 新版 JIS 半自動溶接受験の手引（第 11 版第 1 刷）

### 3.2 次の通り委託出版物の出版契約を審議した。

#### 3.2.1 新版 チタン溶接受験の手引

#### 3.2.2 新版 建築鉄骨ロボット溶接入門

#### 3.2.3 新版 溶接・接合技術総論

## 4. 転載許可申請の承認回答

本協会の出版物からの転載許可申請（6 件）に対し、担当の専門部会、研究委員会等の確認を経た上で、これらの申請を承認した。

## 5. その他

### 5.1 溶接ニュース編集委員会の委員交代について報告があった。

### 5.2 2026 年～2027 年度の「溶接ニュース」「溶接技術」編集委員会 委員 候補者を承認し推薦した。

## CW 委員会

国際化への対応として国際規格 ISO 9606-1 に基づく溶接技能者認証制度（ISO 溶接技能者認証）に係わる技術調査を実施し、国際規格および関連規格の動向を調査した。

### 1. ISO/TC 44/SC 11 審議への参画

SC 11 のテーマのひとつである ISO 9606 規格群の統合改訂に向け、活発な審議が続けられており、審議メンバーとして参画している。

### 2. 溶接技能者認証規則や基準についての調査実施

ISO 9606-1：2012 が引用している評価基準について、放射線透過試験の試験方法を調査し、関連委員化へ参考として提供された。

## 設備技術規格評価委員会

### 1. 高圧ガス保安法における民間規格評価機関として認定（国内初）

一般高圧ガス保安規則第94条の7の13第5項第3号およびコンビナート等保安規則第49条の7の13第5項第3号に基づく民間規格評価機関として、当協会の『設備技術規格評価委員会』が経済産業大臣より2024年6月28日付けで認定された。

### 2. 設備技術規格評価委員会

第4回	2025年 5月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新委員の承認、委員長の互選</li> <li>・規則、要領の改正</li> <li>・2024年度 事業報告（案）および決算報告（案）</li> <li>・2025年度 事業計画（案）および予算計画（案）</li> </ul>
第5回	2025年 9月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回委員会の議事要録（案）</li> <li>・第29回高圧ガス小委員会における民間規格評価機関の報告</li> <li>・WES 9801:2025「特定認定高度保安実施者による保安検査基準（コンビナート等保安規則関係）」の技術評価</li> <li>・パブリックコメント公募案</li> <li>・規則、要領の改正</li> </ul>
第6回	2025年 12月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回委員会の議事要録（案）</li> <li>・WES 9801:2025「特定認定高度保安実施者による保安検査基準（コンビナート等保安規則関係）」の技術評価</li> <li>・要領の改正</li> <li>・次期委員の委嘱と委員長・副委員長の互選</li> </ul>

### 3. 設備技術規格評価委員会で技術評価した民間規格のパブリックコメント

意見公募期間：2025年9月5日～2025年10月4日

民間規格：WES 9801:2025「特定認定高度保安実施者による保安検査基準（コンビナート等保安規則関係）」

### 4. プロセス評価委員会

第2回	2026年 2月6日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新委員の承認</li> <li>・規則、要領類の改正【報告】</li> <li>・2024年度 事業報告および決算報告【報告】</li> <li>・2025年度 事業計画および予算計画【報告】</li> <li>・WES 9801:2025「特定認定高度保安実施者による保安検査基準（コンビナート等保安規則関係）」の全体評価</li> <li>・次期委員の承認と委員長・副委員長の互選</li> </ul>
-----	---------------	---

### 5. 外部評価委員会

第1回	2025年 4月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則、要領【報告】</li> <li>・民間規格等の保安検査の方法としての妥当性評価に係る評価プロセスの運営・維持に関する外部評価（2024年度）</li> </ul>
	2025年 4月30日 (書面審議)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回委員会の議事要録（案）</li> <li>・修正版の外部評価書（案）の承認</li> </ul>
第2回	2026年 3月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規則、要領類の改正状況について【報告】</li> <li>・民間規格等の保安検査の方法としての妥当性評価に係る評価プロセスの運営・維持に関する外部評価（2025年度）</li> </ul>
	2026年 3月3日 (書面審議)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正版の外部評価書（案）の承認</li> </ul>

## II. 表彰・コンクール事業関係

### 表彰委員会

#### ●日本溶接協会賞（2025年度の受賞者）

2025年度に理事会において決定した受賞者は下記のとおり。

##### 1. 功績賞

該当者なし

##### 2. 功労賞

粉川 博之 氏 東北大学 名誉教授

##### 3. 業績賞

大沢 直樹 氏 大阪大学 教授

矢野 嘉孝 氏 日鉄パイプライン&エンジニアリング(株) 顧問

山根 敏 氏 埼玉大学 教授

##### 4. 貢献賞

伊藤 幹郎 氏 東芝テクニカルサービスインターナショナル(株) 技術・人財事業部 技術支援部 参事  
元(株)東芝 電力・社会システム 技術開発センター 金属材料開発部 主査

井上 健裕 氏 日鉄テクノロジー(株) 客員研究員

桑原 孝次 氏 (一社)日本溶接協会 技術アドバイザー

小池 敏郎 氏 (株)小池鉄工 取締役会長 元 (一社)群馬県溶接協会 会長

関根 俊宗 氏 (株)関根製作所 代表取締役 元 (一社)栃木県溶接協会 会長

藤岡 和俊 氏 (一財)電子科学研究所 理事 心齋橋研修センター長

藤原 哲矢 氏 元 住重試験検査(株) 執行役員

真木 洋次 氏 (株)新来島高知重工 代表取締役社長 (一社)高知県溶接協会 会長

宮沢 靖幸 氏 (学)東海大学 工学部 機械工学科 教授

三和 勇 氏 函館どつく安全衛生協力会 事務局長

柳原 幸一 氏 (株)鶴飼 会長 元 (一社)岐阜県溶接協会 会長

##### 5. 技術賞

本賞

(1) レーザメタルデポジション方式による内面高機能コーティング技術の開発と大型レシプロエンジンへの適用

坂根 雄斗 氏、岩崎 勇人 氏、久保 大智 氏、藤田 大河 氏：川崎重工業(株)

堀内 悠平 氏：川重テクノロジー(株)

(2) TWB 構造ラダーフレームの接合に適したレーザー・アークハイブリッド溶接システムの開発

高田 賢人 氏、中川 慎一郎 氏、横山 勇太 氏、坂本 欣也 氏、恵良 哲生 氏：(株)ダイヘン

(3) PBF-LB/M 方式での積層造形による一体造形誘導加熱コイル (AM コイル®) の開発

下村 豊 氏、清水 稔彦 氏、佐藤 弘基 氏、武内 友也 氏：TKE(株)

開発奨励賞

(1) 鋼/アルミ異材スポット溶接技術の開発

林 哲史 氏、梅野 栄介 氏、各務 綾加 氏：トヨタ自動車(株)

松岡 秀明 氏、尼子 龍幸 氏：(株)豊田中央研究所

(2) ショルダ・プローブ統合型新規小径らせんツールを用いた高速摩擦攪拌接合技術の開発と実用化

原田 尚彦 氏、栃山 繁信 氏、椋田 宗明 氏：三菱電機モビリティ(株)

森貞 好昭 氏、藤井 英俊 氏：大阪大学

#### 6. 溶接注目発明賞

(1) アーク溶接制御方法（特許第 7289043 号）

野口 昂裕 氏、中川 晶 氏、藤原 潤司 氏：パナソニック コネクト(株)

(2) MIG 溶接方法（特許第 7060159 号）

小西 恭平 氏、澤西 央海 氏、松田 広志 氏、村上 善明 氏：JFE スチール(株)

(3) プラズマトーチ用部品交換ユニット（特許第 6636249 号）

山口 義博 氏、近藤 圭太 氏：コマツ産機(株)

齋尾 克男 氏：(株)小松製作所

#### 7. 会長特別賞

たつの からこ 氏 漫画家／『浪速博士の溶接がってん！R』作画

和田 義孝 氏 近畿大学

## 全国溶接技術競技会

全国溶接技術競技会は 1951 年に当協会が中小企業庁に協力して開催したのが最初であり、1954 年からは当協会が独自の立場で継続的に開催している。2025 年度は 70 回目の節目となるため記念大会と位置づけ、北陸地区の富山県で開催した。

「2025 年度第 70 回記念 全国溶接技術競技会 北陸地区富山大会」は、2025 年 10 月 4 日に開会式および記念事業の一環としての特別講演を富山国際会議場で開催するとともに、技術交流会を ANA クラウンプラザ富山で開催したうえで、翌 5 日に競技会をポリテクセンター富山で開催した。

被覆アーク溶接の部、炭酸ガスアーク溶接の部の 2 部門に出場する選手は、例年では全国都道府県の指定機関代表として 56 名ずつ計 112 名であるが、今回は記念大会および 2024 年 1 月に発生した能登半島沖地震からの復興を祈念して、北陸地区溶接協会連絡会に対し 1 名ずつ特別枠を設け、57 名ずつ計 114 名となった。

厳正なる審査の結果、被覆アーク溶接の部 20 名、炭酸ガスアーク溶接の部 18 名を入賞とし、2026 年 6 月 10 日に開催される当協会定時総会に併せて表彰式を予定している。

## 日本溶接協会マイスター審査委員会

優秀な溶接技能を有し、かつ溶接界へ技能教育等を通じて溶接界へ顕著な貢献のあった方を日本溶接協会マイスターとして認定する「日本溶接協会マイスター制度」を 2019 年に設立した。この制度は、技能の伝承や後進の指導・育成により溶接技能教育の活性化を推進し、優秀な溶接技能を有する方のプレゼンス向上を図ることを目的としている。

日本溶接協会マイスター審査委員会では、日本溶接協会マイスター制度の規則と内規に基づいて、日本溶接協会マイスターとして申請・推薦のあった方を審査し、日本溶接協会マイスター候補者を選定して理事会に諮る。

#### 1. 日本溶接協会マイスターの公募

2025 年 6 月にホームページへ募集要領を掲載し、指定機関・企業・教育機関などの団体に対して公募を開始した。

#### 2. 審査と日本溶接協会マイスターの認定

2026 年 2 月に日本溶接協会マイスター審査委員会を開催して、指定機関・企業・教育機関などの団体から申請があり、地区溶接技術検定委員会から推薦を経て、溶接技能と溶接界への貢献活動実績を審査し、日本溶接協会マイスター候補者を選定した。

第 39 期第 10 回理事会において、8 名を日本溶接協会マイスターに認定した。

### 第7回日本溶接協会マイスター認定者

No.		氏名	所属
1	溶接技能者	井上 直哉	森鉄工(株)
2	溶接技能者	上田 宏	(株)三浦マニュファクチャリング
3	溶接技能者	内田 勝典	(株)日立製作所
4	溶接技能者	榎本 裕介	(株)ウエルテック 近畿中小企業溶接事業協同組合
5	溶接技能者	小野 誠	エムイーシーテクノ(株)
6	溶接技能者	城定 晃	(株)日立インダストリアルプロダクツ
7	溶接技能者	吉田 健二	(株)伊万里鉄工所
8	マイクロソルダリング要員	岩野 充壮	横手精工(株)

※ 所属は認定時

## Ⅲ. 国際協力事業関係

### 国際活動委員会

#### 1. AWF 活動

AWF (Asian Welding Federation : アジア溶接連盟) は、アジア地域における溶接技能者共通認証制度 (CWCS) の確立、溶接技術の普及及び規格体系の確立などを主な狙いとして、2004 年に設立され、以来、概ね 2 回/年の頻度で会議を開催し、アジア地域の共通課題に基づいて活発な活動を続けている。

1.1 2025 年 5 月 23、24 日にモンゴルのウランバートルで、モンゴル材料科学溶接協会 (MMSWS) が開催担当となり、第 12 回 Steering Committee 会議、第 20 回の CWCS 委員会会議、及び第 25 回 TF-STAND 会議及び第 42 回 AWF 会議 (理事会含む) を開催した。中国 (3 名、以下各国の参加者数)、インドネシア (3)、日本 (6)、マレーシア (2)、モンゴル (7)、シンガポール (2)、タイ (3) の 7 ヶ国 26 名が出席した。

JWES が議長を務める CWCS 委員会、認証委員会、TF-STAND 会議及び Steering Committee において、以下の提案及び報告を行った。(IIW:国際溶接学会、AM: Additive Manufacturing、3次元積層造形)

- 1) IWS-ACB (インドネシアの CWCS 認証機関) が実施した ATB 監査結果に関する AWF 監査員のコメント報告
- 2) AWF CWCS の監査員及び試験員に対する要求事項の簡略化に関する提案並びに口述試験要領の提案
- 3) タイ及びベトナムにおける JIS 溶接技量試験の評価員の現地化プロジェクト報告
- 4) 各国の溶接技量競技会要領の調査票の作成と配布
- 5) JIS 溶接技量試験のインドネシアでの推進状況報告
- 6) JWES における IIW 国際溶接検査技術者特認コース及び AM 技術者認証システムの運用状況報告
- 7) ISO/TC (Technical Committee) 44 へのアジア各国の参加状況 報告

中国が議長を務める、Specification Sub-committee において、Handheld Laser Welding, Simulation Welding に関する Specification 作成の提案があった。

1.2 2025 年 10 月 24、26 日に中国の南寧市で、中国溶接協会 (CWA) 及び中国溶接学会 (CWS) が開催担当となり、第 13 回 Steering Committee 会議、第 21 回の CWCS 委員会会議、第 26 回 TF-STAND 会議及び第 43 回 AWF 会議 (理事会含む) が開催された。中国 (7)、インド (2)、インドネシア (11)、日本 (6)、マレーシア (2)、モンゴル (6)、シンガポール (2)、タイ (3)、ベトナム (1) の 9 ヶ国 40 名が出席した。

JWES が議長を務める CWCS 委員会、認証委員会、TF-STAND 会議及び Steering Committee において、以下の提案及び報告を行った。

- 1) インドネシアでの CWCS 推進方法及び CWCS における初期認可について
- 2) CWCS 文書リストの最新版の提示、新要員認証システムの検討及び CWCS 要求事項の改訂の提案
- 3) タイ、ベトナム及びフィリピンにおける JIS 溶接技量試験の評価員の現地化プロジェクト報告
- 4) JWES における国内での ISO9096-1 溶接技量試験の運用状況報告
- 5) JIS 溶接技量試験のインドネシアでの推進状況報告
- 6) JWES における IIW 国際溶接技術者特認コース及び IAMQS（国際 AM 認証システム）の運用状況報告
- 7) JIS 規格における ISO 規格の採用状況報告

中国が議長を務める Specification Sub-committee において、AWF の Welder Skill Competition に関し Specification 作成の提案があった。

1.3 第 25 回の TF-STAND 会議では、AWF 標準化委員会の戦略的な目的の達成に向け ISO TC44（Technical Committee）へのアジア各国の関わりについての現状が報告された。具体的には、TC44 の 12 の SC（Sub-committee）においては、AWF メンバー国が投票権を持つ P メンバーの割合は、17%から 33%である。30%を超える SC が 4 つあり、アジアの声が積極的に反映されているとのことである。また、溶接技能者不足の対応策検討の一環として、各国の溶接資格認証者数の調査を開始したことが報告された。

第 26 回 TF-STAND 会議では、前回の日本の提案に基づいて AWF メンバー各国の溶接資格認証者数の調査結果が報告された。また、IIW Annual Assembly meeting における SC-II-E 標準化活動状況及び、JIS 規格における ISO 規格の採用状況が報告された。



第 42 回 AWF 会議（モンゴル、ウランバートル市）



第 43 回 AWF 会議（中国、南寧市）

## 2. 海外認証活動への協力

アジア各国において ISO の品質管理手法が広がり、溶接要員認証の重要性が認識されつつある。当協会は溶接管理技術者の認証制度の構築を希望しているアジア各国の溶接機関との間で協力協定を締結し、当協会の制度に準拠した認証制度の導入と定着化に協力している。協力協定の締結は国際活動委員会が担当し、セミナーの実施、評価及び認証に関わる協力（毎回の評価試験問題の提供を含み）は溶接管理技術者認証委員会が担当している。

### 2.1 各国との協力協定の締結

これまで、タイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、台湾、ミャンマー、ベトナムの 8 ヶ国 9 つの機関と協力協定を締結している。このうち、マレーシアにおいては、マレーシア材料学会（IMM）とマレーシア溶接接合協会（MWJS）と、ベトナムにおいてはハノイ工科大学と大阪大学接合科学研究所との連合組織とそれぞれ協定を締結している。2025 年 10 月に新たにモンゴル材料科学溶接協会（MMSWS）と協力協定書を締結し、現在、締結している国と機関の数は 9 ヶ国 10 機関となる。

### 2.2 各国における溶接管理技術者認証活動

2025 年度は、マレーシア、タイ、台湾、ミャンマー、インドネシアにおいてセミナー（研修会）と評価試験が実施された。研修会は現地講師が担当し、各国の溶接協会により自立運営されている。当協会は教材及び評価試験問題を提供し、運営を支援した。現地評価員により一次採点された結果は当協会により評価認証され、認証結果は各国の溶接協会に通知され、適格性証明書が発行された。

### 2.3 ベトナムにおける取り組み

ベトナムにおいて、第 2 回研修会と評価試験が 2025 年 11 月にハノイ工科大学接合科学研究所 HUST-UOsaka を会場として開催された。講師は大阪大学及び熊本大学から派遣され、評価試験はハノイ工科大学担当者が主体となり、運営された。

## 3. 各国溶接関連団体との交流

### 3.1 AWF 加盟団体

2025 年は、AWF 会議が、対面形式で開催され情報交換を行った。

### 3.2 EWF（欧州溶接連盟）

2024 年に、Additive Manufacturing（AM: 3D Printing）技術の専門家の育成を目的として、EWF が創設した IAMQS（International Additive Manufacturing Qualification System）の導入を申請し、申請書、申請書類及び運営主体の Japan-ANB の品質マニュアルの一次審査に合格した。2025 年 3 月に CU（Competence Unit）00”AM プロセスの概要”の研修会を、同年 7 月に CU00 の評価試験を実施し、合格者 60 名に履修記録 Record of Achievement）を発行した。併せて同年 4 月と 8 月に EWF 監査員のリモート監査を受審し合格し、当協会は、AM 資格認証 CU00「AM プロセス概要」を実施する ANB（認可認証機関）として正式認可された（AM-ATB は大阪大学接合科学研究所、JWES の AM 技術者教育委員会である）。2025 年 12 月に接合科学研究所多次元造形研究センターに JWES のオープンラボを開設し、国内向けの AM 技術者の専門家育成を推進した。

## 4. 国際会議等への出席

### 4.1 IIW 関係

2025 年 6 月 22 日～25 日にイタリアのジェノアにて、第 79 回 IIW Annual Assembly（年次大会）、2026 年 1 月 20 日～22 日にイタリアのジェノアにて、IIW2026 中間会議に出席した。次の議論と報告があった。

- 1) WGA#2a/2b で IAB-252「IWE/IWT/IWS のガイドライン：溶接要員の教育、試験・資格認証の要求事項」の見直しが行われ、従来の Module1/2/3/4 に代わる EWF が提案した 12 の CU から構成されるガイドラインを採用することが承認された。現在、EWF の提案内容を IAB-252 に統合中である。
- 2) WGA#3b で「溶接検査技術者（IWIP）の教育、試験・資格認証のガイドライン（Qualification）」の見直しを実施中である。多くの ANB から教育時間及び試験時間が長く、かつ試験問題が難しいとの意見が出され、時間の短縮及び試験問題の平易化を検討中である。

- 3) グループ B 議長が、従来は国別に規定されていた国際溶接エンジニア (IWE) の受験条件統一化 (案) をグループ B 会議で提案し承認された。J-ANB (JWES) にとっては、受験条件が拡大された内容である。今後、国際溶接テクノロジスト/スペシャリスト (IWT/IWS) の受験条件も統一される予定である。
- 4) 2024 年の Diploma 発行数は 7,789 となり、2023 年の 7,250 と比較して 7%増加している。国別発行数では、中国 (CWTQC-ANBCC) 1,509、ドイツ (DVS) 1,336、スウェーデン (SVETS) 667 の順である。

#### 4.2 AM 関係 EWF/IAMQC 会議

2025 年 4 月から 2026 年 2 月にかけて、2 ヶ月毎に開催された。トピックスは以下のとおりである。

- 1) J-ANB (JWES) は、CU00 の研修会を 3 月、評価試験を 7 月に実施した。EWF 監査は、4 月と 8 月にリモートで受審した。最終的に、10 月に CU00 を実施する認証機関として正式認可された。
- 2) AM-ANB による ATB (認可教育機関) の監査時の EWF 監査員の立会は、リモートとすることが承認された。
- 3) ドイツ及びマレーシアの ANB は EWF 認可を辞退した。
- 4) 中国溶接学会 (CWS) が、AM-ANB になるための申請書を EWF 事務局に提出した。
- 5) フランスの ANB は、認可スコープに 2025 年に新設された「Designer Technician」資格を追加した。

## 海外における溶接管理技術者の教育・認証事業

東南アジア及び東アジアに展開する日本企業が、当協会の溶接管理技術者認証制度によって認証された優秀な現地技術者を活用できるよう、当協会は各国関連団体と協力協定を結び、溶接管理技術者認証制度の普及及び定着のための支援を行っている。これまでタイ、フィリピン、インドネシア、マレーシア、シンガポール、台湾、ミャンマー及びベトナムにおいて、溶接管理技術者研修会及び評価試験の実施に協力している。

2025 年 11 月には、ベトナムにおいて 2 回目となる研修会が大阪大学接合科学研究所の主導により、ハノイ工科大学にて実施された。また、評価試験はハノイ工科大学が主体となり実施された。また、新たに 2025 年 10 月にモンゴル材料科学溶接協会 (Mongolian Material Science And Welding Society: MMSWS) と協力協定書を締結し、2026 年度の研修会開催に向け準備を開始した。

### 1. 東南アジア及び東アジア地区での溶接管理技術者研修会 (セミナー) の実施協力

2025 年度は、台湾溶接協会、マレーシア溶接接合協会 (MWJS)、マレーシア材料学会 (IMM)、ハノイ工科大学及びタイ溶接・検査協会が、次のとおり溶接管理技術者研修会を実施した。

WE : 1 級と同等、AWE : 2 級と同等、SWE : 特別級と同等

主催団体	開催回	開催地	開催年月	受講者数
台湾溶接協会	第 9 回	高雄	2025 年 4 月	WE : 10 名
マレーシア溶接接合協会 (MWJS)	第 31 回	バンギ	2025 年 6 月	WE : 2 名
マレーシア材料学会 (IMM)	第 32 回	シャーアラム	2025 年 6 月	WE : 6 名、AWE : 3 名
インドネシア溶接協会 (IWS)	第 21 回	スラバヤ	2025 年 9 月	WE : 5 名
マレーシア溶接接合協会 (MWJS)	第 33 回	カジャング	2025 年 11 月	WE : 1 名、AWE : 1 名
マレーシア材料学会 (IMM)	第 34 回	シャーアラム	2025 年 11 月	WE : 8 名、AWE : 7 名
接合科学研究所 HUST-UOsaka *	第 2 回	ハノイ	2025 年 11 月	WE : 6 名、AWE : 4 名

\* ハノイ工科大学機械工学部と大阪大学接合科学研究所が連携し設立された。

### 2. 東南アジア及び東アジア地区での溶接管理技術者評価試験の実施協力と認証

2025 年度の各国における溶接管理技術者評価試験の実施と認証状況は次のとおりである。本件は、JIS Z 3410 (ISO 14731) /WES 8103「溶接管理技術者認証基準」に基づいて行っているが、JAB 認定範囲外である。

実施国（開催地） 期日	レベル	受験者数	合格者数	保留者数	合格率
台湾（高雄） 2025年6月	WE	10名	6名	—	60%
マレーシア（2か所） 2025年6月	WE	9名	8名	—	89%
	AWE	4名	1名	—	25%
マレーシア（2か所） 2025年11月	WE	8名	6名	—	75%
	AWE	8名	7名	—	86%
ベトナム（ハノイ） 2025年11月	WE	8名	5名	—	63%
	AWE	4名	4名*	2名*	100%

\* AWE 合格者 4名のうち2名は、経験年数未達（学生）

### 3. 東南アジア及び東アジア地区での溶接管理技術者 再認証審査の実施協力と認証

2025年度の各国における溶接管理技術者再認証審査の実施状況は次のとおりである。日本国内と同様に在宅審査方法が併用された。

実施国、期日	レベル	受審者	合格者	合格率
台湾 2025年6月7日	WE（1級と同等）	5名*	5名	100%
マレーシア 2025年8月8日	WE（1級と同等）	2名	2名	100%
	AWE（2級と同等）	1名	1名	100%

\* 5名のうち1名はクレジット審査

## IV. 認証・認定事業関係

### 要員認証管理委員会

1. 溶接管理技術者、溶接技能者、マイクロソルダリング要員、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ及び AM 技術者の 2025 年度認証実績を確認した。
2. 当委員会の予算・決算を確認した。
3. 2024 年度のマネジメントレビュー結果を確認した。
4. 2025 年度の品質目標と進捗状況を確認した。
5. 認証スキームに係る変更事項がないことを確認した。
6. 第 16 回 JAB 認定サーベイランス審査を受審した。

（注）JAB：Japan Accreditation Board（公益財団法人 日本適合性認定協会）

### 溶接技能者認証委員会

1. （公財）日本適合性認定協会（JAB）より認定された品質システムに基づき、全国各地において溶接技能者評価試験を実施した。2025 年度の JIS 評価試験の受験者数は前年度（2024 年度）から 0.7%減の 102,526 人となった。新規受験者数を示す学科受験者数については対前年度比 1.7%減の 15,860 人となった。
2. 外国人技能実習生を対象とした技能評価試験を実施した。2025 年度の初級受験者数は 2024 年度から約 14%減の 7,236 人、専門級の受験者数は 2024 年度から約 79%増の 8,337 人、上級の受験者数は、2024 年度から約 73%減の 450 人となった。

[参考]

(単位：人)

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
JIS 評価試験	受験者数	108,933	111,902	100,466	110,931	104,035	103,629	103,228	102,526
	学科受験者数	22,047	22,210	18,252	19,054	16,507	16,656	16,127	15,860
外国人技能 評価試験	初級	8,538	10,375	6,993	2,724	5,107	8,310	8,371	7,236
	専門級	6,056	7,692	8,216	10,580	6,781	2,577	4,659	8,337
	上級	—	144	931	869	1,124	2,159	1,646	450

## 溶接管理技術者認証委員会

溶接管理技術者認証事業については、JAB に認定されたシステムに基づいて、評価・認証業務を行うとともに、再認証審査の充実を図った。認証者の能力向上等を目的に、溶接技術者交流会（WE-COM）の登録者に対して情報発信及び技術相談を行った。

認証に関わる各種申請は紙の申請書を郵送で受け付けていたが、2024年度後期からはWEB申請システム『e-Weld』を採用して受付を行い、申請手順の効率化、紙資源の削減等による環境保全への貢献、郵送物の軽量化による送料等の経費削減を実現した。

### 1. JIS Z 3410 (ISO 14731) /WES 8103「溶接管理技術者認証基準」に基づく

国内における特別級・1級・2級溶接管理技術者 評価試験の実施と認証

#### (1) 実施概要

##### ① 前期

- ・筆記試験：2025年6月01日（日）（実施地区）札幌、東京、名古屋、大阪、広島、沖縄
- ・口述試験：2025年6月28日（土）（実施地区）東京、大阪

##### ② 後期

- ・筆記試験：2025年11月9日（日）（実施地区）仙台、東京、名古屋、大阪、福岡
- ・口述試験：2025年12月6日（土）（実施地区）東京、大阪

#### (2) 新規受験者数と認証者数

2025年度実績	前期人数	後期人数	合計人数
受験者数	2,138人（前年比：103.5%）	2,616人（前年比：108.7%）	4,754人（前年比：106.3%）
認証者数	1,088人（前年比：97.2%）	1,296人（前年比：105.7%）	2,384人（前年比：101.7%）

### 2. JIS Z 3410 (ISO 14731) /WES 8103「溶接管理技術者認証基準」に基づく

溶接管理技術者 サーベイランス審査の実施と認証

#### (1) 実施概要

- ・実施期間：2025年5月から6月及び10月から11月
- ・最近2年間の溶接に係わる業務の記録等を書類審査

#### (2) 対象者数と認証者数

	対象者人数	認証者人数
2025年度実績	8,787人（前年比：104.7%）	7,347人（前年比：99.9%）

### 3. JIS Z 3410 (ISO 14731) /WES 8103「溶接管理技術者認証基準」に基づく

溶接管理技術者 再認証審査の実施と認証

#### (1) 実施概要

- ・実施期間：2025年4月から6月及び9月から11月
- ・実績地区：札幌、仙台、千葉、東京、横浜、新潟、富山、福井、名古屋、大阪、岡山、広島、松山、福岡、在宅審査

(2) 対象者人数と認証者人数

	対象者	認証者
2025年度実績	9,027人（前年比：120.0%）	5,833人（前年比：125.1%）

4. WES 8107「溶接作業指導者認証基準」に基づく溶接作業指導者 評価試験の実施と認証

(1) 実施概要

- ・実施期間：2025年5月及び10月
- ・実績地区：東京、名古屋、大阪、北九州

(2) 受験者数と認証者数

	受験者	認証者
2025年度実績	83人（前年比：105.1%）	80人（前年比：101.3%）

5. WES 8107「溶接作業指導者認証基準」に基づく溶接作業指導者サーベイランス審査の実施と認証

(1) 実施概要

- ・実施期間：2025年3月から5月及び9月から11月
- ・最近3年間の溶接に係わる業務の記録等を書類審査

(2) 対象者数と認証者数

	対象者	認証者
2025年度実績	340人（前年比：86.1%）	306人（前年比：88.2%）

6. WES 8107「溶接作業指導者認証基準」に基づく溶接作業指導者 再認証審査の実施と認証

(1) 実施概要

- ・実施期間：2025年5月及び10月
- ・実績地区：東京、名古屋、大阪、北九州

(2) 対象者数と認証者数

	対象者	認証者
2025年度実績	145人（前年比：103.6%）	114人（前年比：100.0%）

7. JIS Z 3410の改正に対応したWES 8103および各種要領の見直し

関連する規格の改正に伴い、各種要領の見直しに向けた検討を開始した。

8. 溶接技術者交流会（WE-COM）の運営

認証者の能力向上等を目的に、登録者に対して情報発信／技術相談を行った。また、登録者数を増やすため、適格性証明書とあわせPR用のチラシを送付し、再認証審査時に再認証審査受審者に対してPR活動を行った。

9. 試験問題データベースプログラムの運用

2級評価試験問題の作成等に寄与できる試験問題のデータベースプログラムを運用し、試験問題作成に活用した。

10. WEB申請（溶接管理技術者版“e-Weld”）の運営・改善を行い、各種申請の簡便化を推進

e-Weldの運営・改善を適宜行い、利用者が行う各種申請ならびに事務局が行う各種事務処理の簡便化・効率化を図った。

11. 各地域、関連産業分野（造船・建築鉄骨）への溶接管理技術者認証制度の普及強化活動

各地域、関連産業分野（造船・建築鉄骨）への溶接管理技術者認証制度の普及強化活動を行った。

12. JIS Z 3410（ISO 14731）/WES 8103「溶接管理技術者認証基準」に基づく

海外における溶接管理技術者評価試験、サーベイランス及び再認証審査の実施と認証

溶接管理技術者認証制度の実施に関わる協力協定に基づき、タイ溶接・検査協会（TWS）、フィリピン溶接協会（PWS）、インドネシア溶接協会（IWS）、マレーシア溶接接合協会（Malaysia Welding & Joining Society：MWJS）、マレーシア材料学会（Institute of Materials, Malaysia：IMM）、シンガポール溶接協会（SWS）、台湾溶接協会（TWS）、ミャンマーエンジニアリング協会連合（Fed. MES）及びハノイ工科大学と大阪大学接合科学研究所の連合組織と締結した協力協定に基づき、認証制度の定着・拡大のための活動を行った。また、新たに2025年10月にモンゴル材料科学溶接協会（Mongolian Material Science And Welding Society：MMSWS）と協力協定書を締結した。

海外 WE 研修会にて使用する英文版標準 PPT が完成した。今後、日本から派遣する講師に提供し、活用していく。

本件は、JIS Z 3410（ISO 14731）/WES 8103「溶接管理技術者認証基準」に基づいて行っているが、JAB 認定範囲外である。

## マイクロソルダリング要員認証委員会

### 1. 評価試験の開催

評価試験の開催回数と受験者数

No.	評価試験	対象資格	開催回数	受験者数
1	上級学科試験	技術者	2回	11名
2	中級学科試験	インストラクタ 実装工程技術者	2回	19名
3	実装工程学科試験	インストラクタ 実装工程技術者	2回	8名
4	初級学科試験	インスペクタ マニュアルソルダリングオペレータ	32回	127名
5	技術者面接試験	技術者	2回	7名
6	指導能力試験Ⅰ	インストラクタ	2回	2名
7	指導能力試験Ⅱ	インストラクタ	—	—
8	判定能力試験	インストラクタ インスペクタ	15回	102名
9	実技試験	インストラクタ マニュアルソルダリングオペレータ	19回	460名 ※

認定試験場の開催を除く

※ 材料（2種類）・種目（3種目）ごとの受験者数を合計

### 2. 認証の実施

日本溶接協会と認定試験場で開催した各評価試験における予備判定の結果に基づいて、マイクロソルダリング要員の認証を承認した。

### 3. サーベイランス（継続）の実施

各資格の審査方法（業務従事証明の書類審査）による結果に基づいて、承認した。

### 4. 再認証（更新）の実施

各資格の審査方法（書類審査、判定能力試験、実技試験）による結果に基づいて、承認した。

### 5. 認定試験場の審査

判定能力試験と実技試験を開催できる認定試験場について、更新審査を3件実施し承認した。また、認定試験場の名称変更（会社名変更）1件を承認した。

### 6. 評価試験の検討

## 6.1 制度改正に伴う評価試験の問題作成

マイクロソルダリング要員認証制度の改正（2024年4月）により、新たに設置した上級学科試験・中級学科試験・実装工程学科試験の問題を2回分作成して、評価試験を開催した。

評価試験の問題作成

No.	評価試験	作成した問題	評価試験の開催日
1	上級学科試験	記述式基礎：3問 記述式応用：3問 選択式：60問（3セクション×4設問×5問）	① 2025年7月6日 ② 2026年1月11日
2	中級学科試験	選択式：120問（3セクション×8設問×5問）	
3	実装工程学科試験	選択式：90問（3セクション×6設問×5問）	

## 6.2 品質判定基準と実装・組立基準の改訂における取組

マニュアルソルダリング実技試験・教育改訂WGにおいて、判定能力試験で使用している「品質判定基準」と実技試験で使用している「実装・組立基準（新名称：技能評価基準）」を改訂した。

これまでと同様に、JIS 61191（IEC 61191の翻訳）に準拠し、JIS 61191が対象（電気・電子機器）としている3つのレベルで最も厳しいレベルCを適用する。JISであいまいな表現となっている部分は、米軍MIL-SPECやIPCを参考にして、表現を補足した。

マニュアルソルダリング実技試験・教育改訂ワーキンググループの開催回数

10回	(2025年) 4月22日、5月13日、6月23日、7月23日、9月3日、9月26日、11月4日、12月15日 (2026年) 1月19日、2月24日
-----	--

## 7. その他

### 7.1 マイクロソルダリング技術 教育・認証フェスタ 2025の開催

マイクロソルダリング要員認証制度の関係者（資格保有者、講師）に対する還元を目的に、最新の機器・材料・装置・技術動向を紹介し、マイクロソルダリング技術を理解していただく場として、「マイクロソルダリング技術 教育・認証フェスタ 2025」を、ハイブリッド形式（現地+オンライン）で2025年10月27日に開催した。

「ソルダリング実装技術の最新動向」をテーマに、実装関連の変遷や国内外の取組、最新情報を紹介する6件の講演を行い、80の企業・団体から131名が参加した。

### 7.2 表彰制度

マイクロソルダリング技能の向上と普及を目的に、2006年から『マイクロソルダリング技術賞』の制度を設け、判定能力試験と実技試験で優秀な成績を収めた方を表彰している。さらに、多年にわたり技術の研鑽に努め卓越した技能を持つ方を『マイクロソルダリング技術 マイスター』に認定している。

2025年度は、2024年3月～2025年2月の判定能力試験あるいは実技試験を受けた方から、マイクロソルダリング技術賞の受賞者を決定した。また、マイクロソルダリング技術 マイスターは、認定者なしとなった。

2025年10月27日に開催した「マイクロソルダリング技術 教育・認証フェスタ」で、授与式を実施した。

マイクロソルダリング技術賞 受賞者とマイクロソルダリング技術 マイスター 認定者の人数

表彰名		内容	受賞者 認定者
マイクロソルダリング 技術賞	① 優秀マイクロソルダリング品質判定技術賞	判定能力試験で優秀な成績を収めた方	3名
	② 最優秀マイクロソルダリング技術賞	実技試験の2種目以上で優秀な成績を収めた方	なし
	③ 優秀マイクロソルダリング技術賞	実技試験の1種目で優秀な成績を収めた方	4名
マイクロソルダリング技術マイスター		過去に①を受賞し、②or③を受賞した方 過去に②or③を受賞し、①or②or③を受賞した方	なし

### 7.3 日本溶接協会マイスター候補者の選考と推薦

日本溶接協会マイスター候補者の募集について、マイクロソルダリング技術 マイスターの認定者へ広報し、1名から申請があった。そこで、マイクロソルダリング技術賞選考委員会で選考し、マイクロソルダリング要員認証委員会 委員長が候補者を決定、日本溶接協会マイスター審査委員会へ推薦した。

### 8. 判定能力と実技の試験・セミナーで使用する顕微鏡のメンテナンス、はんだこての入替

日本溶接協会 講師による顕微鏡（45台）の点検を行い、経年劣化した部品の修繕を実施した。また、廃盤になっている蛍光灯を使用しており、故障時に修理できないため、LED照明へ交換を開始した。

プリズムの交換： 2台

台座の交換： 11台

照明の交換： 25台（2026年4月に全台完了）

また、2025年2月からはんだこての入替（白光：FX951 ⇒ FX-971）を開始し、受講者に対する使用方法の案内やセミナー用資料の修正などを2025年4月までに完了した。

## 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ認証委員会

### 1. 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ資格を取得するための技術検定試験

建築鉄骨ロボット溶接オペレータ資格を取得するための技術検定試験（講習、筆記試験及び口述試験）として、4期（6月、9月、12月、3月）に亘って、北海道、東京、大阪及び福岡で各々実施した。新規受験の件数は合計288件で、前年度と比べ約3.6%の微増加であった。

### 2. 再評価試験

資格登録又は再評価登録から6年を経過する前に資格継続するための建築鉄骨ロボット溶接オペレータ資格の再評価試験（講習及び口述試験）について、新規資格取得試験と同様に4期（6月、9月、12月、3月）に亘って、北海道、東京、大阪及び福岡で各々実施した。再評価受験の件数は合計271件で、前年度比約22%の増加であった。

### 3. サーベイランス審査

資格登録又は再評価登録から2年を経過する前に資格継続するための業務従事証明の審査によるサーベイランスについて、上記と同様に4期（6月、9月、12月、3月）に亘って実施した。継続件数は合計584件であり、前年度比2.2%の増加となった。

### 4. 適格性証明書の発行

上記試験に合格したオペレータ資格について資格登録申請により適格性証明書を発行した。また、サーベイランス審査で合格したオペレータ資格について適格性証明書を発行した。

### 5. 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ認証基準のJIS化の検討

WES 8110（建築鉄骨ロボット溶接オペレータの技術検定試験における試験方法及び判定基準）のJIS化のため、2022年度に設置したワーキンググループ（主査：中込認証副委員長）により、継続して検討を行っている。

## 溶接検査認定委員会

### 1. 事業者認定

WES 8701「溶接構造物非破壊検査事業者等の認定基準」に基づく非破壊検査事業者の認定を4月1日及び10月1日付にて行った。認定事業者の推移は、次のとおりである。

#### 1.1 2025年4月1日付認定

- ・認定停止：1社（D種：1社）
- ・新規（復活）：1社（D種：1社）
- ・部門追加：1社（C種：建築鉄骨検査適格事業者を追加）

・認定の更新：19社（A種：1社、B種：1社、C種：3社、D種：14社）

上記の変更によって、認定事業者数は111社（A種：17社、B種：9社、C種：28社、D種：57社）となった。

#### 1.2 2025年10月1日付認定

・新規（復活）：1社（D種：1社）

・認定停止：1社（D種：1社）

・種別変更（昇格）：1社（C→B種：1社）

・種別変更（降格）：1社（A→B種：1社）

・認定の更新：14社（A種：3社、B種：0社、C種：4社、D種：7社）

上記の変更によって、認定事業者数は111社（A種：16社、B種：11社、C種：27社、D種：57社）となった。

### 2. 非破壊検査技術者の資格試験

#### 2.1 WES 8701に基づく非破壊検査技術者のCIW資格試験

認定要件の一つである検査技術管理者及び上級検査技術者資格を取得するための試験として、1次試験（筆記試験）と2次試験（面接試験）を東京及び大阪で実施した。

#### 2.2 WES 8701に基づく非破壊検査技術者CIW資格の更新審査

非破壊検査技術者CIW資格の更新審査（更新講習と確認試験）を、東京及び大阪において開催した。

### 3. CIW資格の登録証の発行

CIW資格試験（上記2.1又は2.2）に合格した技術者に対して、資格登録申請によって登録証を発行した。

また、新規登録又は更新登録から有効期限（3年間）が切れる前の継続申請によって登録証を発行した。検査技術者に対しては、新規又は継続（新規登録から3年間）申請によって登録証を発行した。

### 4. 技術指導

WES 8701に基づく検査技術管理者及び上級検査技術者の資格試験受験予定者のために、研修会「溶接部の検査に関する研修会」を、2日間にわたり東京・大阪で実施した。

### 5. 情報公開、出版及び広報活動

#### 5.1 認定事業者の登録技術者名簿の発行

個人情報保護法に基づいて、2025年4月1日及び10月1日現在の認定事業者における検査技術管理者、上級検査技術者及び検査技術者の登録技術者名簿の発行はせず、認定事業者には当該事業者分の登録者名簿を配布した。

#### 5.2 CIW通信「RUMPES」の発行

CIW認定制度の対外広報及び認定事業者の紹介をはじめ、非破壊検査業界に関する動向、関心ある話題の提供と最新の検査技術などの情報発信誌として、年4回（1・4・7・10月の20日）発行した。なお、4月20日発行と10月20日発行に合わせて認定事業者一覧を別刷で発行した。

#### 5.3 CIW認定制度の案内、認定事業者の公表

日本溶接協会ホームページに、CIW認定制度に関する案内、認定取得のための各種案内及び認定事業者について公表した。

#### 5.4 広報活動

広報委員会において行政庁及び関係団体へ認定制度の説明を行った。

## 技術基準・認証委員会

### 1. 本委員会

1.1 各種技術基準・確認試験制度に基づいて実施された試験結果の合否決定：電気事業法及び原子炉等規制法に規定される溶接士技能・溶接施工法確認/認証試験業務を実施した。審議が終了した案件については合格証/認証書、溶接士技能・適合確認証明書を発行した。

1.2 「電気工作物の溶接部に関する民間製品認証規格（火力）TNS-S3101-2017」及び各原子力施設に適用

される技術基準等に基づく品質マネジメントシステム（QMS）を維持、運用し、要員認証機関として JAB 認定を維持している。

1.3 協会 事業部が、日本原燃殿から受託した業務について、必要な支援を行った。

1.4 原子力関連 WES の改正（JSME S NB1-2020 エンドース対応）と火力関連 WES の改正（溶接自主検査ガイド改正対応）について、検討を開始した。

## 2. 発電設備用溶接評価委員会

2.1 各基準又は要領に基づき、確認/認証試験業務、評価員による立会、書類審査を実施した。

	電事法（火力設備）	原子炉等規制法（原子力施設）
溶接士技能確認/認証試験	『電気事業法に基づく溶接士技能確認試験基準 民間製品認証非適用（WES 8208）』 『電気事業法に基づく溶接士技能確認試験基準 民間製品認証適用（WES 8209）』 ① 合格証/認証書発行資格： 9 資格〔申請：1 件〕 ② 試験実施中： 0 資格〔申請：0 件〕	『原子炉等規制法に基づく溶接士技能認証試験 基準（WES 8210-1）』 ① 合格証/認証書発行資格： 107 資格〔申請：11 件〕 ② 試験実施中： 29 資格〔申請：6 件〕
溶接士更新	『電気事業法に基づく溶接士技能確認試験基準 民間製品認証非適用（WES 8208）』 『電気事業法に基づく溶接士技能確認試験基準 民間製品認証適用（WES 8209）』 ① 更新確認証発行資格： 6 資格〔申請：2 件〕 ② 判定作業中： 0 資格〔申請：0 件〕	『原子炉等規制法に基づく溶接士技能認証試験 基準（WES 8210-1）』 ① 更新確認証発行資格： 106 資格〔申請：5 件〕 ② 判定作業中： 20 資格〔申請：1 件〕
施工（行） 法確認/認証試験	『電気事業法に基づく溶接施工法確認、認証試験 基準（WES 8218）』 ① 合格証/認証書発行施工法： 0 施工法〔申請：0 件〕 ② 試験実施中： 0 施工法〔申請：0 件〕	『原子炉等規制法に基づく溶接施工法確認、認 証試験基準（WES 8219-1）』 ① 合格証/認証書発行施工法： 4 施工法〔申請：4 件〕 ② 試験実施中： 3 施工法〔申請：3 件〕
新技術認定	申請が無かったため、実施せず	申請が無かったため、実施せず

2.2 QMS に基づく評価員の技量維持のため、評価員研修会を下記のように実施した。

- ・評価員が出席した（WEB 参加者、自習含む）。

対面：23 名、WEB：1 名、自習：2 名

- ・WES/ガイド改正予定連絡、文書審査コメント分析、「質疑応答集」の解説、JSME2020 年版技術評価書の解説等を行った。

## 3. 発電設備用溶接技術検討委員会

3.1 WG にて評価員研修会のプログラムを策定し、資料作成及び講師を務めた。

3.2 WG にて発行済「質疑応答集」の見直しを実施し、改訂 2 を発行した。

3.3 WG にて、WES・ガイド改正（案）の検討を開始した。

## AM 技術者認証委員会

AM 技術者認証委員会は、2024 年度末（2025 年 3 月）の第 1 回 AM 技術者（2 級受験者）研修会の実施を受けて、2025 年度から評価試験を実施し、評価及び認証を行った。その結果、初年度は 93 名の方へ AM 技術者（2 級）の適格性証明書を授与した。

### 1. 評価試験の実施

評価試験を次の通り実施した。

■2025年度第1回 AM 技術者評価試験（2級）

【東京会場】2025年7月13日（日）、場所：溶接会館、受験者：60名（合格者59名）

■2025年度第2回 AM 技術者評価試験（2級）

【東京会場】2025年12月14日（日）、場所：溶接会館、受験者：35名（合格者34名）

2. 適格性証明書の授与

2025年度に実施した2回のAM技術者評価試験（2級）で、適格性証明書発行の条件を満たした受験者に対し、次の通りAM技術者（2級）適格性証明書を授与した。

■第1回AM技術者評価試験（2級）：59名

■第2回AM技術者評価試験（2級）：34名

3. 評価試験問題の作成

AM技術者評価委員会内の作問小委員会にて、第1回AM技術者評価試験（2級）、第2回AM技術者評価試験（2級）各100問を作問した。また、AM技術者評価試験（1級）の実施に向け、内容・作問方法の検討を開始した。

4. 関連規格の作成

AM技術者の適格性確認に対する要求事項を国内規格として制定するために、JIS原案作成委員会を設置した。AM技術者に対する適格性確認の要求事項を規定している国際規格「ISO/ASTM 52935 Additive manufacturing of metals - Qualification principles - Qualification of coordination personnel」を翻訳し、（仮）JIS B 9443「金属の付加製造-適格性確認の原則-AM技術者の適格性確認」として原案を作成している。

## IIW 資格日本認証機構（J-ANB）

1. 総括

- 日本におけるIIW国際溶接技術者資格の取得のコースとして、J-ANBが運営する特認コースと、2ヶ所のATB（Approved Training Body）による正規コースとを実施。2025年度のIIW資格認証者数は、特認コースではIWE、IWT、IWS及びIWIP合計で18名、大阪大学接合科学研究所IWE正規コースで7名、ポリテクセンター兵庫IWS正規コースで3名の、計28名であった。
- EFW（欧州溶接連盟）創設のIAMQS（International Additive Manufacturing Qualification System）のCU（Competence Unit）00「AMプロセスの概要」コースの教育訓練はAM技術者教育委員会が主催したAM技術者2級の研修会のシラバスに、CU00のシラバスが含まれていると見做して実施した。評価試験はAM技術者2級の評価試験と同時開催で、J-ANB試験委員会が実施した。最終的に、認証の決定はJ-ANB資格認証委員会が実施した。CU00の認証者数は、94名であった。

表1. 2025年度IIW特認コース及び正規コース 認証者（合格者）数

IIW コース		IWE	IWT	IWS	IWP	IWIP	計
コース 区分	特認コース	14	1	2	—	1	18
	ポリテク兵庫 IWS コース (ATB-2)	—	—	3	—	—	3
	大阪大学 IWE コース (ATB-3)	7	—	—	—	—	7
2025年度計 (2026年3月末)		21	1	5	0	1	28
2025年度末 累計見込		1,215	448	702	315	130	2,810
2026年2月にIAB本部へ 報告済(2025年1月~12 月の暦年実績)	Standard Route (正規コース)	3	—	4	—	—	7
	Alternative Route (特認コース)	14	3	9	—	1	27

## 2. 2025 年度特認コースの状況

- 2.1 募集：当協会 HP に募集案内を掲載しつつ、2024 年度後期及び 25 年度前期の溶接管理技術者・特別級 &1 級評価試験合格者へのダイレクトメールを送付し、募集広報活動を実施。IWIP については、WE 研修会場でのビラ配布と、過去の IWE/T/S 受講者で JSNDI 資格保有者にダイレクトメール送付を実施した。
- 2.2 IWIP 短期講座：計 4 回 8 日間の特別講座を実施した。その中で、実技試験対応の補講講座を設け、試験対策をも講義した。
- 2.3 TI：テクニカルインタビュー（技術面接）を、IWE/T/S 及び IWIP 特認コース応募者に対して実施した。IWE は 2Hr/1 名、IWS/IWIP は 1Hr/1 名の面接を、5 名の試験員（中野/小溝/浅井/野村/佐藤）が担当した。
- 2.4 プロジェクトワークの課題を阪大第 17 期生 7 名に通知し、ケーススタディ（集合研修）を 10 月 30 日～11 月 1 日の 3 日間、阪大接合科学研究所にて実施した。チュータの講義/指導とレポート採点のもと、1 班で討議/発表を行った。最終報告書を回収し採点した。
- 2.5 IWE/T/S 筆記試験&口述試験 / IWIP 理論試験&実技試験
  - ・11 月 29 日（土）に最終筆記試験と IWIP 理論試験を、大阪）阪大接合研と東京）溶接会館の 2 箇所で開催。
  - ・IWE/T/S についてはガイドライン IAB-252 に基づき、該当受験者に対し口述試験を 12 月 13 日（土）に大阪大学接合科学研究所で実施し、筆記及び口述試験結果の総合判定により最終合格者を決定した。
  - ・IWIP についてはガイドライン IAB-041 に基づき、受験者に対し実技試験を 12 月 6 日（土）に溶接技術センターにて実施。WI-1 サブモジュールが 59%で不合格であったので、約 1 ヶ月後の 1 月 26 日（月）に再試験を実施。すべての試験結果の総合判定により、最終合格者を決定した。
  - ・最終合格者の内、登録希望者に対して 2025 年 2 月 1 日付けのディプロマを発行済みである。

## 3. 2025 年度正規コースの状況

- 3.1 ポリテク兵庫 IWS 正規コース（ATB-02）
  - ・2025 年度の応募者は、延 3 名。第 33 回の最終試験を、2025 年 4 月 12 日（土）に、第 34 回の最終試験を 2025 年 10 月 4 日（土）に実施した。2026 年 4 月の試験は、該当者無し。
- 3.2 阪大接合研 IWE 正規コース（ATB-3）
  - ・第 17 期生 7 名のコース受講生に対し、プロジェクトワークのケーススタディを実施。
  - ・IWE 最終筆記試験を実施し、全 7 名の合格者に対し 2026 年 2 月 1 日付ディプロマを発行。

## 4. EWF の IAMQS の実施状況

- 4.1 阪大接合研（AM ATB-1）の Coordinator コース

2025 年 10 月より、大学院副プログラムとして、教育訓練は大阪大学接合科学研究所、評価試験は J-ANB 試験委員会が実施する計画であったが、受講者がいなかったため、中止した。
- 4.2 JWES AM 技術者教育委員会（AM ATB-2）の CU00 コース
  - ・教育訓練は、2025 年 9 月 2-4 日/9-11 日と 2026 年 3 月 23-25 日に実施した。総受講者は 80 名であった。
  - ・評価試験は、2025 年 7 月 13 日と 2025 年 12 月 14 日に実施した。総受験者は 95 名で、総合合格者は 94 名であった。

## 5. 国際会議への出席

下記の国際会議に参画し、情報収集と討議及び意見交換を行った。

- 5.1 IIW 年次大会「IAB 全体会議他」：2025 年 6 月 22 日（日）～7 月 10 日（水）の間、対面方式のみの会議にて、第 78 回 IIW 年次大会がイタリア（ジェノバ）にて開催され、IAB-Gr. A 会議、IAB-Gr. B 会議、IAB-メンバーズミーティング、WG-RA 等の会議に関係者が出席した。
- 5.2 IIW 中間会議：2026 年 1 月 20-21 日に、WEB オンライン併用会議にてイタリア（ジェノバ）にて実施され、監査員研修会、IAB-Gr. A 会議、IAB-Gr. B 会議、IAB-メンバーズミーティング等の会議に関係者が対面及び WEB にて出席した。

## 6. 品質システムの運用

2026年2月20日にJ-ANB内部監査を実施した。

## ガス溶断器認定委員会

### 1. 委員会開催

- 1.1 ガス溶断器認定委員会 第1回 2026年3月23日 日本溶接協会（東京）※1
- 1.2 認定・検定小委員会 第1回 2025年6月20日 日本溶接協会（東京）※1
- 第2回 2025年9月19日 WEB会議（Webex）
- 第3回 2025年12月3日 日本溶接協会（東京）※1
- 第4回 2026年2月4日 KITENA 新大阪602号室（大阪）※1
- 第5回 2026年3月23日 日本溶接協会（東京）※1

#### ※1 WEB会議との共催

### 2. 認定企業及び認定工場の登録数

#### 2.1 認定企業 6社

(株)千代田精機、ヤマト産業(株)、(株)ハンシン、日酸 TANAKA(株)、小池酸素工業(株)、(株)阪口製作所

#### 2.2 認定工場 7社

(株)千代田精機、ヤマト産業(株)、(株)ハンシン、日酸 TANAKA(株)、(株)阪口製作所、(株)群馬コイケ、NIPPON CUTTING & WELDING EQUIPMENT CO., LTD.

### 3. 事業

認定試験及び検定試験を実施した。

#### 3.1 認定試験

下記の認定試験及び書類審査を実施した。

##### 3.1.1 溶断器用圧力調整器に関する審査

- ・継続認定 3社6種類 41 銘柄を継続認定した。
- ・認定品変更 2社3種類 11 銘柄を変更した。
- ・銘柄追加登録 1社2種類 6 銘柄を追加登録した。

#### 3.2 検定試験

2025年4月1日に登録されていた手動ガス切断器（6社4種類40銘柄）、手動ガス溶接器（2社1種類2銘柄）、溶断器用圧力調整器（6社6種類95銘柄）は、いずれもそれぞれの事業所において内規に基づき検定試験を実施した。検定実施数量（2025年2月分～2026年1月分）は以下のとおりである。

手動ガス切断器	48,836本（前年度：46,937本、前々年度：52,170本）
手動ガス溶接器	373本（前年度：395本、前々年度：478本）
溶断器用圧力調整器	55,518台（前年度：59,475台、前々年度：58,495台）

### 4. その他

- 4.1 ガス溶断器認定委員会内規（手動ガス切断器・手動ガス溶接器・溶断器用圧力調整器の認定及び検定試験の方法）の見直しを行った。
- 4.2 発火試験装置の製作・動作試験を行った。
- 4.3 認定制度のPR
  - 4.3.1 認定品の安全と品質保証 PR 及びガス切断・ガス溶接等の作業安全技術指針（労働安全衛生総合研究所 2017：TR-48）の概要についてPRを行った。
  - 4.3.2 ホームページの更新、日本溶接協会機関紙・誌を通しての広報、ガス溶接技能講習等を通してのPRを行った。

#### 4.4 認定品の登録数

2026年3月31日現在の登録数は6社3器種11種類137銘柄である。

器 種	認定企業	種類	銘柄数
手動ガス切断器	6社	4種類	40銘柄
手動ガス溶接器	2社	1種類	2銘柄
溶断器用圧力調整器	6社	6種類	95銘柄

## 鋼種等認定委員会

鋼種等認定委員会は、製造者からの認定申請により、1～6の業務を随時行うことを業務としているが、認定申請がなかったため報告すべき活動はなかった。

### 1. 鋼種認定

下記規格に基づく鋼材の認定

- 1.1 WES 3001 溶接用高張力鋼板
- 1.2 WES 3003 低温用圧延鋼板判定基準
- 1.3 WES 3009 溶接割れ感受性の低い高張力鋼板の特性

### 2. 溶接材料認定

上記1の規格に用いる溶接材料の認定

### 3. 特別認定

溶接構造物の材料、施工、設計及び試験の開発に関する認定

### 4. WES 3001、WES 3003 及び WES 3009 に基づく認定を得るための準備小委員会

### 5. 溶接材料の認定を得るための準備委員会

### 6. 特別認定委員会

臨時に構成する。

## V. 教育事業関係

### 溶接技能者教育委員会

溶接技能者の国内外での育成と確保を図るため、質の高い教育機会を広く提供できるよう活動する。

2025年度は、主に以下の活動を行った。

#### 1. 「溶接技能向上のための講習会」の継続実施と拡大への取り組み

当委員会の主催、指定機関の主管による新人溶接技能者向け教育プログラム「溶接技能向上のための講習会」を継続して実施した。本プログラムはJIS溶接技能者評価試験に合格可能な知識および技能の修得を目的とし、原則として学科1日・実技1日の計2日間で構成する（学科または実技のみ実施する場合もある）。

受講者は、手溶接（A-2F）、半自動溶接（SA-2F）、ステンレス鋼ティグ溶接（TN-F）の中から希望種目を選択する。学科講習終了時の修得度確認試験に合格した場合、JIS溶接技能者評価試験における学科試験が免除される点の特徴である。

##### (1) 国内展開

全国26指定機関で合計146回実施した。2025年度から新たに開始したのは石川県、福井県、岐阜県、福岡県、沖縄県の5指定機関。受講実績は実技講習57名、学科講習1,412名（修得度確認試験の合格者は1,401名）であった。

## (2) 海外展開

2025年5月14日と11月19日の2回にわたり、海外として初めてとなるインドネシアでの半自動溶接学科講習を実施した。インドネシア語に翻訳した教材を使用して、現地講師が講義を行った。受講実績は2回合計で46名（全てインドネシア人で、全員が修得度確認試験に合格）であった。

## (3) 教材整備

次年度以降のベトナムでの学科講習の実施に向けて、ハノイ工科大学（阪大接合研サテライト）と連携して、各種教材のベトナム語への翻訳を進めた。

## (4) 講師教育

新任講師18名に対し、オンラインによる教育を行った。

## 2. スキルアップ教育（リカレント教育）の開発の継続

短期間で技能習得が可能な在職者向けの新たな教育プログラムの開発に取り組んだ。学科1日・実技1日の計2日間の構成で、学科は前項「溶接技能向上のための講習会」の学科講習を活用すること、実技は今年度新たに制作した動画付きパワーポイント教材を使用することを計画した。

上記計画に基づく講習会の検証のため、2026年1月28日と29日に北海道地区溶接技術検定委員会において第1回目のトライアルを半自動溶接で実施した。受講者は9名で、好評を得ることができた。

## 3. ディスタンスラーニングの検討継続

講師不足の地域においても、「溶接技能向上のための講習会」およびスキルアップ教育（リカレント教育）を実施可能とすることを目的に、インターネットやモバイル端末を活用したディスタンスラーニングの開発に継続して取り組んだ。

## 4. 全国工業高等学校校長協会（全工協）の教員向け「夏期講習会」への協力

全工協が工業高校の教員を対象に継続実施している「夏期講習会」に対し、当委員会が制作した「溶接検定受験者のための必読集」をテキストとして引き続き提供した。今年度開催された夏期講習会は秋田県・石川県・神奈川県・徳島県の4県で、受講者数は合計51名であった。

## 溶接管理技術者教育委員会

1. 2024年度後期から導入しているWEB申請（溶接管理技術者版“e-Weld”）を活用し、WES 8103「溶接管理技術者 認証基準」に基づく『溶接管理技術者のための研修会』を実施した。感染症対策については、一部継続状態で運営を行った。

■ 受講者数：3,221名（前年度比：110.0%）

「前期」

特別級研修会：大阪（1地区1会場）

1級研修会：札幌・東京・名古屋・大阪・広島・沖縄（6地区8会場）

2級研修会：札幌・東京・亀戸・名古屋・大阪・広島・沖縄（7地区9会場）

「後期」

特別級研修会：東京（1地区1会場）

1級研修会：仙台・東京・静岡・名古屋・大阪・福岡（6地区8会場）

2級研修会：仙台・東京・亀戸・静岡・名古屋・大阪・福岡（7地区9会場）

2. 研修会講師陣のより一層の充実を図り、新たな講師の増員の検討を行った。

3. 特別級、1級テキストを共著者である一般社団法人溶接学会と合同で2026年1月の発刊を目指し改訂作業をし、関連する演習問題集およびパワーポイント教材の改訂作業も行った。また、2級テキストについても講師等からの意見を参考に見直し作業を行った。

4. 溶接管理技術者版“e-Weld”の運営・改善を行い、受講者の申請手続きの簡便化を推進した。

例)・研修会、評価試験、再認証審査の受講地、受験地、受審地を選択した際に、選択した場所の背景色を

反転させ、選択したものがわかりやすくした。

・各種申込履歴の状況表記にて、「発送済」を「※※※発送済み」（※には、「受講票」、「受験票」、「口述通知書」、「受審票」が表記される。）に表記を変更した。

5. タイ溶接・検査協会（TWS）、フィリピン溶接協会（PWS）、インドネシア溶接協会（IWS）、マレーシア溶接接合協会（Malaysia Welding & Joining Society：MWJS）、マレーシア材料学会（Institute of Materials, Malaysia：IMM）、シンガポール溶接協会（SWS）、台湾溶接協会（TWS）、ミャンマーエンジニアリング協会連合（Fed. MES）及びハノイ工科大学と大阪大学接合科学研究所の連合組織と締結した溶接管理技術者認証制度の実施に関わる協力協定に基づき、各国での研修会実施に向け活動を行った。新たにモンゴル溶接協会と協力協定を締結した。また、海外 WE 研修会で使用される英文版標準 PPT が完成した。

## マイクロ溶ダリング教育委員会

### 1. セミナーの開催

セミナーの開催回数と受講者数

No.	セミナー	対象資格	開催回数	受講者数
①	上級学科セミナー	技術者	2回	8名
②	中級学科セミナー	インストラクタ 実装工程技術者	2回	21名
③	実装工程学科セミナー	インストラクタ 実装工程技術者	2回	8名
④	指導能力セミナー	インストラクタ	3回	19名
⑤	初級学科セミナー	インスペクタ マニュアル溶ダリングオペレータ	21回	122名
⑥	判定能力セミナー	インストラクタ インスペクタ	15回	102名
⑦	実技セミナー	インストラクタ マニュアル溶ダリングオペレータ	18回	161名

### 2. セミナー用教材の編集・改訂

#### 2.1 テキスト・問題集の再編集

マイクロ溶ダリング要員認証制度の改正により改訂した下記のテキストと問題集で、誤記や内容の不備が見つかったため、正誤表の掲載や再版を行った。

- ・標準マイクロ溶ダリング技術 第4版

出版社（日刊工業新聞社）と日本溶接協会のホームページに正誤表を掲載 [2025年4月]

- ・マイクロ溶ダリング技術問題集 第2版

第2版2刷を発行 [2025年4月]

#### 2.2 品質判定基準と実装・組立基準の改訂における取組

マニュアル溶ダリング実技試験・教育改訂 WG において、判定能力試験で使用している「品質判定基準」と実技試験で使用している「実装・組立基準（新名称：技能評価基準）」を改訂した。

これまでと同様に、JIS 61191（IEC 61191の翻訳）に準拠し、JIS 61191が対象（電気・電子機器）としている3つのレベルで最も厳しいレベルCを適用する。JISであいまいな表現となっている部分は、米軍MIL-SPECやIPCを参考にして、表現を補足した。

マニュアル溶ダリング実技試験・教育改訂ワーキンググループの開催回数

10回	(2025年) 4月22日、5月13日、6月23日、7月23日、9月3日、9月26日、11月4日、12月15日
	(2026年) 1月19日、2月24日

3. 教育研修機関とスクール講師の審査

判定能力セミナーと実技セミナーを開催できる教育研修機関について、更新審査を3件実施し承認した。また、教育研修機関で教育指導を実施できるスクール講師について、新規審査を2名、更新審査を12名実施し、承認した。

4. マイクロ溶ダリング技術 教育・認証フェスタ 2025 の開催

マイクロ溶ダリング要員認証制度の関係者（資格保有者、講師）に対する還元を目的に、最新の機器・材料・装置・技術動向を紹介し、マイクロ溶ダリング技術を理解していただく場として、「マイクロ溶ダリング技術 教育・認証フェスタ 2025」を、ハイブリッド形式（現地+オンライン）で2025年10月27日に開催した。

「溶ダリング実装技術の最新動向」をテーマに、実装関連の実装関連の取り組みや最新情報を紹介する6件の講演を行い、80の企業・団体から131名が参加した。

5. 判定能力と実技の試験・セミナーで使用する顕微鏡のメンテナンス、はんだこての入替

日本溶接協会 講師による顕微鏡（45台）の点検を行い、経年劣化した部品の修繕を実施した。また、廃番になっている蛍光灯を使用しており、故障時に修理できないため、LEDへ交換を開始した。

プリズムの交換： 2台

台座の交換： 11台

照明の交換： 25台（2026年4月に全台完了）

また、2025年2月からはんだこての入替（白光：FX951 ⇒ FX-971）を開始し、受講者に対する使用方法の案内やセミナー用資料の修正などを2025年4月までに完了した。

## 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ教育委員会

1. 特別教育の実施

溶接ロボットメーカー殿への委託によって、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育を実施した。

下表に示すように、2025年度受講者数は53人であった。

なお、建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育の修了は、同ロボット溶接オペレータ技術検定試験の受験条件の一つとなっているもので、“建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育”と“建築鉄骨ロボット溶接オペレータ専門級特別教育”の二つを設けている。専門級特別教育の修了者については、基本級と専門級の同時受験を申請することができる。

## 2025 年度 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ特別教育受講者数

(単位：人)

実施月	受講者数	
	特別教育	専門級特別教育
2025/04	2	3
2025/05	0	6
2025/06	2	6
2025/07	0	3
2025/08	0	0
2025/09	2	3
2025/10	0	2
2025/11	1	6
2025/12	0	0
2026/01	3	9
2026/02	0	3
2026/03	0	2
合計	10 人	43 人

### 2. 演習問題集の改訂

“建築鉄骨ロボット溶接オペレータ技術検定試験受験の手引き” から問題を抜粋し、グループ分け、作成された筆記試験問題を 2024 年度と 2025 年度に適用し、筆記試験を実施した。その結果、問題グループ間で受験者の得点について容認できないほどではないがある程度点数差（難・易）があることがわかった。そのため、問題グループ間で点数の平準化するために問題グループ間で問題の一部組み替えをおこなった。2026 年度より新しい問題グループ分けで適用予定。また、2025 年度当初に発行された”建築鉄骨ロボット溶接入門”に則り作成された講習会用 PPT を 2025 年度に適用してきた。実際に講習をする中で改善点も見つかったので再度の見直しも行った。

教育委員会は 2025. 4. 15～2026. 3. 17 にかけて計 3 回開催された。

## AM 技術者教育委員会

### 1. 研修会の実施

AM 技術者（2 級受験者）の研修会を実施した。第 2 回 AM 技術者（2 級受験者）研修会においては、国内での実施アピールと開催場所による需要の確認を行い、日程をずらして大阪・東京の 2 会場で実施した。第 3 回については東京会場で実施した。

#### ■2025 年度第 1 回（通算 第 2 回）AM 技術者（2 級受験者）研修会

【大阪会場】2025 年 9 月 2 日（火）～4 日（木）、場所：KITENA 新大阪、受講者：17 名

【東京会場】2025 年 9 月 9 日（火）～11 日（木）、場所：溶接会館、受講者：26 名

#### ■2025 年度第 2 回（通算 第 3 回）AM 技術者（2 級受験者）研修会

【東京会場】2026 年 3 月 23 日（月）～25 日（水）、場所：溶接会館、受講者：37 名

### 2. 演習問題集の作成

2025 年度に実施した 2 回の AM 技術者（2 級受験者）研修会に合わせて、それぞれ演習問題集を作成し研修会にて受講者に配布した。各回で担当講師が演習問題の新規作成及び修正を行った。

### 3. 修了証の授与

2025 年度に実施した 2 回の AM 技術者（2 級受験者）研修会の受講を完了した者に、AM 技術者（2 級受験者）研修会修了証及び、Course completion certificate（IAMQS CU00）を次の通り、授与した。

#### ■2025 年度第 1 回（通算 第 2 回）AM 技術者（2 級受験者）研修会

43名（大阪会場 17名、東京会場 26名）

■2025年度第2回（通算 第3回）AM技術者（2級受験者）研修会

36名（1名 途中欠席）

#### 4. AM技術者（1級受験者）研修会及びシラバスの検討

AM技術者（1級受験者）研修会の実施とそれに伴うシラバスの検討を進めた。第1回AM技術者（1級受験者）研修会については、2026年度末（2027年3月）実施予定とした。講義内容は「DfAM」及び「トポロジー最適化」に決定し、教材の準備を開始した。

## VI. **その他の事業**

### 全国指定機関委員会

1. 各地区溶接協会連絡会との情報交換と協力
2. 溶接技能者教育、マイスター制度等の協会注力事業への協力要請
3. 高校生ものづくりコンテスト全国大会への協力要請
4. 全国選抜高校生溶接技術競技会 in 新居浜への協力要請
5. 低濃度 PCB 廃棄物の適正処理に関する協力要請
6. 全国工業高等学校長協会・夏季講習会への協力要請
7. 全国溶接技術競技会に関する検討と情報提供
8. 指定機関との協力関係及び溶接技能者認証システムの改善（WEB申請化）に関する検討
9. 安全衛生に関する情報提供

### 税制措置等対応臨時専門委員会

本委員会は、「中小企業等経営強化法」（2016年7月1日施行）に基づく税制優遇・軽減措置に係る証明書の発行業務、ならびに「中小企業省力化投資補助事業」における製品カタログ登録の証明書発行団体としての業務を担うため、時限的に設置された臨時専門委員会である。2025年度は、次のとおり活動した。

1. 本協会が証明書を発行すべき事項について証明書発行団体として対応した。
2. 中小企業庁の「対象資産区分及び対応工業会等リスト」において、本協会が確認者として登録された分野について、証明書発行申請の受付および審査を実施した。証明書発行要件である当該設備の販売開始時期（10年以内）および年平均生産性向上率を確認し、要件を満たす設備に対して「中小企業等経営強化法の経営力向上設備等に係る生産性向上要件証明書」を発行した。
3. 制度所管行政庁からの要請に基づき、証明書発行件数の報告を行った。2025年度に発行した証明書の総件数は422件であり、その内訳は団体会員239件、非会員会社183件であった。
4. 「中小企業省力化投資補助事業」における製品カテゴリの申請を行い、「アーク溶接ロボット」および「デジタルアーク溶接機」の2カテゴリを制定した。
5. 同補助事業において、「アーク溶接ロボット」および「デジタルアーク溶接機」の2カテゴリに属する製品について、製品カタログ掲載のための申請受付および審査を実施した。補助金事務局による審査を経て要件を満たす設備に対し、「中小企業省力化投資補助事業 製品審査結果に係る証明書」を発行した。

## JPVRC（日本圧力容器研究会議）施工部会

### 1. 概要と総括

JPVRC（The Japan Pressure Vessel Research Council：日本圧力容器研究会議）は、米国圧力容器研究委員会（PVRC）に対応する国内組織として、国内研究の実施、取りまとめ及び米国との技術交流の実施を目的として1977年に設立され、当初よりJPVRC材料部会（事務局：日本鉄鋼協会）、JPVRC設計部会（事務局：日本高圧力技術協会）及びJPVRC施工部会（日本溶接協会）の3部会で構成されている。

近年の具体的な活動テーマとして、JPVRC、米国PVRC及び欧州EPERCの3極協力プロジェクトがあったが、2018年度以降はPVRC、EPERCに実質的な活動はなく休止中である。よって、JPVRC運営委員会が、関連の業界情報や規格情報の収集及びJPVRC参加団体間の活動情報を共有するとの観点で開催され、JPVRCを維持している状況に変化はない。JPVRC施工部会の活動も、目的を圧力容器溶接技術に関連するJWES内部の部会・委員会の活動状況の情報共有に絞って、JPVRC運営委員会に合わせ、施工部会も2回／年の開催頻度に変更した。

2025年度は、JPVRC材料部会（事務局：日本鉄鋼協会）が委員会活動休止を継続。しかしながら、WEB併用の対面会議にてJPVRC運営委員会を9月と2月に2回開催し、JPVRC設計部会との報告連絡会として実施し、今後の活動の方向を検討している状況に変化はない。

### 2. 本年度の主な活動

#### 2.1 JPVRC会長・副会長の担当

各部会の持回り規定により、2025-2026年度の2年間はJPVRC設計部会暫定会長（川重・島川氏）がJPVRC会長に、JPVRC施工部会長（阪大・南）がJPVRC副会長に就任し、会務を担当している。島川氏の後任については、JPVRC設計部会にて継続審議中となっている。

#### 2.2 「JPVRC施工部会」部会会合

2025年度は、JPVRC運営委員会との同時開催の形で年2回、WEB併用の対面会議を実施した。

なお、施工部会のテーマ別担当は、JWESの部会・委員会で以下の様に分担している。

2.2.1 溶接法、施工法、製作法：化学機械溶接研究委員会

2.2.2 鉄鋼材料、継手の信頼性評価：鉄鋼部会

2.2.3 溶接材料：溶接材料部会

2.2.4 圧力容器、パイプライン：機械部会

2.2.5 国際規格対応：規格委員会

#### 2.3 JPVRC運営委員会への参画

施工部会メンバーはJPVRC運営委員を兼務しており、運営委員会に参加して、施工部会の活動報告と2026年度の事業計画の報告とを行った。

#### 2.4 米国PVRC会議、欧州EPERC総会への参加

2025年度も、PVRC会議、欧州EPERC総会の開催はなく、JPVRCからの参加無し。但し、JWES機械部会が担当しているIIW-Commotion XIで、昨年度から中国が委員長ポストを取り、論文発表活動を開始している。Sub-Commission-Hが立ち上がり、水素設備のパイプ・圧力容器の活動が開始される。日本にとって不利な規格化制定の方向に行かぬ様、十分に注視して行く必要があると思われ、Sub-Commission-H及びSub-Commission-E（パイプライン敷設関係）にてどのような論文発表がなされるのかを、継続して注視している。

#### 2.5 主な研究テーマ

各部会で、以下の主要テーマに継続して取り組んでいる。

2.5.1 Flange & Gasket 関係：Leak tightness（JPVRC設計部会対応）

2.5.2 Fitness-for-Service 関連：Guidelines for repair by welding（JPVRC施工部会対応）

## 次世代を担う研究者助成事業

我が国の社会基盤を支える溶接・接合技術の今後の更なる発展と活性化を図るため、次世代を担う若手研究者とその研究活動を支援する事業として「研究助成金制度」を2015年度より開始した。

日本国内の大学、工業高等専門学校等の研究教育機関に所属し、日本国内で研究に従事する45歳以下（交付年の4月1日現在）の研究者（国籍不問）を対象者とし、1年間で一定の成果が得られる見込みのある溶接・接合技術およびその周辺技術の研究に対して、1件当たり100万円の助成金を奨学寄付金として支給する。助成期間は1年間とする。

今回で12回目となる2026年度は、公募の結果、15件の申請があった。助成選考審査委員会での審査結果を受け、理事会において9名の奨学寄付金支給対象者を決定した。奨学寄付金支給対象者は以下のとおり。

今後も、優秀で志の高い若手研究者を支援する事業として継続する。

### 2026年度次世代を担う研究者助成事業

#### 奨学寄付金支給対象者

No.	氏名・敬称略 (50音順)	所属機関	テーマ
1	阿部 博志	東北大学	高 SCC 耐性ステンレス鋼溶接継手の溶融境界組織・成分設計指針
2	小川 裕樹	広島大学	赤外線・DIC5 次元（時系列＋温度＋ひずみ）ハイブリッド計測によるマルチマテリアル接合部の損傷その場観察法の確立
3	國峯 崇裕	金沢大学	レーザー急速溶融凝固プロセスで形成される MC カーバイド相制御による WC 系超硬合金の高硬度化
4	清水 万真	大阪大学	異種金属薄板重ね点接合継手の耐破壊性能予測のための複合荷重試験法の確立
5	鈴木 聖顕	東北大学	IMC 層の形状最適化による Al/Fe 異材接合の高強度化
6	辻 尚史	秋田高専	MR を利用した初心者の溶接技術教育のためのガス溶接及びガス切断指導システムの開発
7	堀澤 英太郎	宮崎大学	構造用二相ステンレス鋼面外ガセット溶接接手の疲労耐久性評価
8	丸本 啓太	広島大学	粒子法を用いた熱伝導型ホットワイヤ・レーザー溶接の溶接現象の解明
9	山下 順広	福井大学	指向性エネルギー堆積法における低希釈材料付加と接合部強度に及ぼす影響

## 研究テーマ指定助成事業

当協会では、我が国の社会基盤を支える溶接・接合技術などものづくり技術のさらなる発展と活性化を図るため、当協会が指定した研究テーマの活動を助成する「研究テーマ指定助成事業」を2023年度から開始した。

2026年度は、製品・部品などの製造技術において世界で急速に開発されている「積層造形技術」を研究テーマに指定して公募を行い、申請のあった研究内容に対し選考委員会で厳正な審査して、当協会理事会にて奨学寄付金を支給する研究を下表のとおり決定した。

2026 年度研究テーマ指定助成事業 奨学寄附金 支給対象者

No.	氏名	タイトル
1	荻野 陽輔 (大阪大学)	微細ワイヤ・アーク DED プロセスの確立に向けた微細液滴の創成
2	白岩 隆行 (東京大学)	積層造形 Ti・6Al・4V 合金の Dwell 疲労機構の解明と高精度寿命予測シミュレーション技術の構築
3	新城 淳史 (島根大学)	メルトプール解析とスケール間結合した部品スケール熱・応力予測シミュレーションツールの開発
4	松田 和貴 (九州大学) 後藤 浩二 ( " )	WAAM におけるスプレー冷却技術の最適化と造形速度向上に関する研究
5	三木 隆生 (大阪産業技術研究所) 韓 霽珂 (京都大学) 西脇 眞二 ( " )	レーザ粉末床溶融結合における複数の製造要件を考慮した最適設計法と実験検証

## JIW (日本溶接会議)

### 1. 溶接学会と日本溶接協会による共同事業の活動

#### 1.1 溶接学会 春季全国大会および秋季全国大会における共同事業

##### (1) 「次世代を担う研究者助成事業」における成果報告会

日本溶接協会が実施している「次世代を担う研究者助成事業」の奨学寄付金支給対象者による成果報告会 (3名の発表) を開催した。

### 2. 学協会連携に向けた対応

学協会連携については、連携推進のためのタスクフォースメンバーが対応し、学協会連携のロードマップに従い、シナジー創出の成長戦略と組織について検討を行った。

### 3. 国際溶接学会 (IIW) の対応

#### 3.1 IIW に対する事務対応

IIW 役員の推薦や各コミッションにおける日本代表 (Delegate) の登録、日本がスポンサーになっている IIW Yoshiaki Arata Award の運営、年会費の支払い等を行った。

#### 3.2 IIW2025 年次大会の日本人参加者に対するサポート

#### 3.3 IIW 各コミッションの情報共有

IIW 年次大会時に各コミッションの代表が集う「JAPAN Delegate Meeting」を開催し、活動状況を共有した。また、溶接学会誌へ IIW 年次大会における各コミッションの出席報告書を掲載した。

## VII. 法人管理関係

### 総合企画会議

1. 溶接センター構想に関する検討
2. 協会の活動方針実施計画 (第3期) の検討

### 総務委員会

1. 会員に関する検討

- 1.1 団体会員の入会・退会・等級変更に関する検討
- 1.2 学識会員に関する検討
2. 定時総会に関する検討
  - 2.1 事業報告の検討
  - 2.2 事業計画の検討
  - 2.3 総会の検討
  - 2.4 特別講演の検討
3. その他協会全般に関する検討
  - 3.1 技術アドバイザーの委嘱に関する検討
  - 3.2 第56回日本溶接協会賞募集要領・推薦書の検討
  - 3.3 2026年度次世代を担う研究者助成事業研究テーマ募集案内の検討
  - 3.4 研究テーマ指定助成事業の検討
  - 3.5 第7回日本溶接協会マイスター募集案内の検討
  - 3.6 四国地区高校生溶接技術競技会に対する会長表彰の検討
  - 3.7 九州地区高校生溶接技術競技会に対する会長表彰の検討
  - 3.8 全国選抜高校生溶接技術競技会 in 新居浜に対する会長表彰の検討
  - 3.9 高校生ものづくりコンテスト全国大会に対する会長表彰の検討
  - 3.10 次世代を担う研究者への助成選考審査委員会構成の検討
  - 3.11 北海道溶接センター（仮称）の検討
  - 3.12 広報の検討
  - 3.13 細則改正の検討
  - 3.14 規則類制定・改正の検討

## 財務委員会

1. 2025年度決算処理方針の検討
2. 2026年度予算編成に関する検討
3. 会計処理に関する検討
4. 施設・設備維持管理計画に関する特定資産の検討
5. 資金の安全管理、金融収支改善に関する中長期的運用方針の検討・実施
6. （仮称）北海道溶接センター建設に関する検討
7. その他必要事項の検討

## 不動産管理委員会

1. 建物及び附属設備の取得・修繕に関する検討及び審議
2. 溶接会館の管理運営及び改善に関する検討及び審議
3. 賃貸不動産に関する検討及び審議
4. 施設・設備維持管理計画の策定についての検討
5. （仮称）北海道溶接センター建設に関する検討
6. その他必要事項の検討

## 第二部 会務報告等（2025年度事業報告の附属明細書）

### VIII. 各種活動報告

#### 1. 本会関係行事

- (1) 第55回 日本溶接協会賞 授与式

授賞日：2025年6月11日

場 所：東京ガーデンパレス（東京）

賞の種類	授賞者数
① 功績賞	1
② 功労賞	1
③ 業績賞	4
④ 貢献賞	9
⑤ 会長特別賞(披露)	該当なし

賞の種類	授賞件数
⑥-1 技術賞本賞	1
⑥-2 技術賞開発奨励賞	2
⑦ 溶接注目発明賞	2

- (2) 第6回 日本溶接協会マイスター 認定式

授賞日：2025年6月11日

場 所：東京ガーデンパレス（東京）

部門	認定者数
溶接技能者	5

- (3) 第69回 全国溶接技術競技会 四国地区高知大会 入賞者表彰式

授賞日：2025年6月11日

場 所：東京ガーデンパレス（東京）

種目	授賞者数
被覆アーク溶接の部	20

種目	授賞者数
炭酸ガスアーク溶接の部	19

- (4) 第70回記念 全国溶接技術競技会 北陸地区富山大会

競技日：2025年10月5日

場 所：ポリテクセンター富山（高岡）

種目	参加者数
被覆アーク溶接の部	57

種目	参加者数
炭酸ガスアーク溶接の部	57

- (5) 2026 溶接界新春賀詞交歓会

期 日：2026年1月6日

場 所：東京プリンスホテル（東京）

参加者数：約750名

## 2. 諸会合

### (1) 本会関係

会 合 名	回数
総合企画会議	1
拡大総合企画会議	1
総務委員会	5
財務委員会	3
業務及び会計監査	1
本部・地区監事連絡会	1
溶接情報センター委員会	4
広報委員会	3
溶接情報活用推進 WG	3
全国指定機関委員会	2
全国溶接技術競技会運営委員会	2
教育委員会	
溶接技能者教育委員会	3
溶接管理技術者教育委員会	2
溶接・接合技術総論改訂編集委員会	2
マイクロ溶ダリング教育委員会	1
スクール情報交換会	2
マニュアル溶ダリング実技試験・教育改訂 WG	9
建築鉄骨ロボット溶接オペレータ教育委員会	2
幹事会	1
AM 技術者教育委員会	3
日本溶接協会賞	
「業績賞」授賞選考審査委員会	1
「貢献賞」授賞審査委員会	1
「技術賞」授賞審査委員会	1
「溶接注目発明賞」授賞審査委員会	1

会 合 名	回数
日本溶接協会マイスター審査委員会	1
特許庁長官賞推薦審査委員会	1
助成選考審査委員会	1
研究テーマ指定助成選考委員会	1
日本溶接協会・産報出版業務連絡委員会	1

### (2) 特別委員会関係

会 合 名	回数
規格委員会	
本委員会	2
溶接規格専門委員会	4
幹事会	6
薄板接合技術小委員会 (SC6 対応)	3
機械式ピール試験 JIS 原案作成準備会	2
溶接用語・記号 (ISO/TC44/SC7 対応) 小委員会	
JIS Z 3021 改正打合せ	1
溶接施工管理 (ISO/TC44/SC10 対応) 小委員会	
JIS Z 3400 改正打合せ	5
AM 規格専門委員会	3
BJT-AM の標準化戦略調査事業委員会	3
建設 AM に関する国際標準化規格委員会	3
出版委員会	3
安全衛生・環境委員会 (JIW 第 8 委員会)	
本委員会	4
幹事会	4
WES 9009-7 原案作成 WG	3
保護具の展示に関する打合せ	1
粉じん対策教本改訂打合せ	10
JIS Z 3960 制定原案作成 WG	1
JIS Z 3960 制定原案作成委員会	1
特許委員会	1
幹事会	1

会 合 名	回数
設備技術規格評価委員会	3
プロセス評価委員会	1
外部評価委員会	1
国際活動委員会	2

### (3) 専門部会関係

会 合 名	回数
溶接材料部会	
本部会（部会総会）	1
役員会	1
技術委員会	4
調査第1分科会	4
調査第2分科会	3
調査第3分科会	3
調査第6分科会	2
調査第7分科会	2
規格化第9分科会	
WG3（JIS Z 3211 原案作成分科会）	2
JIS Z 3211 原案作成委員会	3
規格化第9分科会・JIW第2委員会	3
合同会議	
化学機械溶接研究委員会 合同会議	
N2バックシールド適用評価	4
合同小委員会	
電気溶接機部会	
本部会（部会総会）	1
業務委員会・技術委員会 合同開催	
見学会・技術講演会	1
業務委員会	3
技術委員会	1
幹事会	2
アーク溶接機小委員会・抵抗溶接機	2
小委員会 合同委員会	
抵抗溶接機小委員会	1
EMC 要求事項動向調査 SG	1
環境省 PCB ヒアリング	1
JIS C 9318 規格改正検討 WG	1
JIS C 9318 原案作成委員会	1

会 合 名	回数
ガス溶断部会	
本部会（部会総会）	1
幹事会	1
技術委員会	1
溶断小委員会	3
幹事会	7
安全推進委員会	4
船舶・鉄構海洋構造物部会	
総会	1
役員会	2
溶接施工委員会	2
WG1	4
WG2	4
WG3	5
機械部会	
本部会（部会総会）	1
本部会	2
幹事会	2
パイプライン小委員会（見学会）	1
パイプライン小委員会	1
化学機械溶接研究委員会 合同会議	1
車両部会	
本部会（部会総会）	1
3研究委員会 合同委員会	1
鉄・SUS 車体溶接研究委員会	4
アルミ車体溶接研究委員会	4
台車溶接研究委員会	4
自動車部会	
本部会	2
幹事会	1
建設部会	
本部会（部会総会）	1
本部会	3
講習会	1
講習会 WG	4

会 合 名	回数
鉄鋼部会	
部会総会	1
幹事会	10
新テーマ検討会	2
拡大幹事会	1
技術委員会	1
WES 2805 改正委員会	3
WG-A	1
BUH 委員会	3
BUH 構造性能 WG	2
BUH 溶接施工 WG	2
ろう部会	
本部会（部会総会）	1
業務委員会	4
技術委員会	
先端材料接合委員会	3
規格調査・分析委員会	4
JIS Z 3270（ISO 17672）作成 WG	1
はんだ・微細接合部会	
本部会（部会総会）	1
幹事会	1
技術委員会	4
規格分科会	4
JIS Z 3199 原案作成委員会	2
分科会	1
鉛フリーはんだ対応はんだこて	1
試験方法 JIS 原案作成委員会 WG	
はんだシンポジウム打合せ	1
焼結型接合材料国際標準化研究委員会	5
幹事会	5
規格委員会	5
WG	1
圧力設備サステナブル保安部会	
本部会（部会総会）	1
幹事会	2
規格原案作成委員会	4
規格原案作成 WG	6
計装 WG	8
法規 WG	6

会 合 名	回数
事例共有委員会	5
チェックリスト WG	3
ガイドライン WG	3
構造健全性評価ハンドブック改訂編集	10
委員会	
研究助成事業選考審査委員会	1
AM 部会	
本部会（部会総会）	1
幹事会	1
技術委員会	4
幹事会	3
広報委員会	10
企画運営委員会	4

#### （４）研究委員会関係

会 合 名	回数
特殊材料溶接研究委員会	
本委員会	4
幹事会	5
AM 組織・欠陥制御 SG	2
ステンレス鋼溶接トラブル事例改定	2
準備 WG	
「ステンレス鋼溶接トラブル事例集」	2
増補改訂編集委員会	
溶接部の腐食トラブル防止の基礎と	2
実際講習会 WG	
溶接部耐環境性能小委員会	2
キックオフミーティング	1
原子力研究委員会	
本委員会	1
企画検討会	6
拡大企画検討会	1
SPN-II 小委員会	5
SPN-III 小委員会	
幹事会	1
PFM 小委員会	4
PDF-III 小委員会	2
幹事会	1
校正会	1

会 合 名	回数
簡易評価法検討 WG	3
詳細評価法検討 WG	4
合同 WG	1
BDBE2 小委員会	2
WG1	1
WG2	1
WG3	1
CAF-II 小委員会	
幹事会	5
DHI-III 小委員会	3
幹事会	3
FQA3 小委員会	
幹事会	5
化学機械溶接研究委員会	
本委員会	3
常任幹事会	2
幹事会	5
運営 WG	4
海外活動 WG	2
溶接補修 WG	7
WES 2820 原案作成委員会	2
WES 2820 改正 WG	4
溶接技術仕様作成小委員会	1
ロボット溶接研究委員会	
本委員会・厚板向けの最適ロボット	1
溶接施工技術開発 PJ 合同委員会	
本委員会	2
厚板向けの最適ロボット溶接施工	5
技術開発 PJ	
「建築鉄骨ロボット溶接入門」	2
編集委員会	
表面改質技術研究委員会	
本委員会	3
幹事会	1
溶接・接合プロセス研究委員会	
本委員会	3
幹事会	1
シンポジウム	1

会 合 名	回数
レーザ加工技術研究委員会 (LMP)	
本委員会	4
非破壊試験技術実用化研究委員会 (AN)	
本委員会	2
タスクフォース	6

### (5) 認証・認定委員会関係

会 合 名	回数
要員認証管理委員会	1
溶接管理技術者認証委員会	2
溶接管理技術者評価委員会	2
再認証審査・サーベイランス小委員会	2
溶接作業指導者運営委員会	3
海外対応小委員会	2
溶接管理技術者交流会運営グループ	
WE-COM メールマガジン編集会議	4
WE-COM 技術相談会議	1
溶接技能者認証委員会	1
溶接技能者認証委員会・全国幹事会合同	2
溶接技能者運営委員会	12
溶接技能者認証小委員会	13
溶接技能者評価委員会	
北海道地区溶接技術検定委員会	
委員会	2
幹事会	12
東北地区溶接技術検定委員会	
委員会	4
幹事会	12
その他諸会合	2
東部地区溶接技術検定委員会	
委員会	12
幹事会	12
その他諸会合	1
中部地区溶接技術検定委員会	
委員会	4
幹事会	20
その他諸会合	2

会 合 名	回数
北陸地区溶接技術検定委員会	
委員会	2
幹事会	12
その他諸会合	2
関西地区溶接技術検定委員会	
委員会	4
幹事会	8
その他諸会合	40
中国地区溶接技術検定委員会	
委員会	2
幹事会	12
その他諸会合	5
四国地区溶接技術検定委員会	
委員会	2
幹事会	13
その他諸会合	2
九州地区溶接技術検定委員会	
委員会	2
幹事会	12
その他諸会合	2
事務所長連絡会	2
マイクロソルダリング要員認証委員会・ マイクロソルダリング要員評価委員会 合同委員会	1
マイクロソルダリング要員評価委員会・ マイクロソルダリング教育委員会 合同委員会	
幹事会	5
マイクロソルダリング技術 教育・ 認証フェスタ実行委員会	2
マイクロソルダリング技能評価 委員会	1
マイクロソルダリング要員認証委員会 マイクロソルダリング技術賞 選考委員会	1 2
建築鉄骨ロボット溶接オペレータ 認証委員会・評価委員会 合同会議	4
建築鉄骨ロボット溶接オペレータ 認証委員会	2
AM 技術者認証委員会	2
AM 技術者評価委員会	2
JIS B 9443 原案作成委員会	2

会 合 名	回数
分科会	3
溶接検査認定委員会	2
運営委員会	2
認定審査委員会	2
WG	6
CIW 認定のための書類審査	2
広報委員会	
通信編集委員会	4
試験委員会	2
研究・教育委員会	
幹事会	2
CIW 更新審査レポート評価 WG	2
溶接検査事業者倫理委員会	1
ガス溶断器認定委員会	
本委員会	1
認定・検定小委員会	
幹事会	5
技術基準・認証委員会	18
発電設備用溶接技術検討委員会	4
発電設備用溶接評価委員会	18

## (6) 臨時専門委員会関係

会 合 名	回数
NSU 総合委員会	2
幹事会	3
NPE(J) 委員会	2
幹事会	3
NDS 委員会	3
税制措置対応臨時専門委員会(SZ)	3

## (7) 関連団体

会 合 名	回数
J-ANB 管理委員会・アドバイザーボード	2
合同委員会	
J-ANB 管理委員会	
資格認証委員会・試験委員会 合同委員会	2
特認コース小委員会	
IWIP-WG	3

### 3. 講習会・研修会等

#### (1) 特別講演

期 日： 2025年6月11日（総会当日）  
 場 所： 東京ガーデンパレス  
 講 師： 講演者 国立大学法人 東京大学 大学院工学系研究科  
 技術経営戦略学専攻/人工物工学研究センター 教授 松尾 豊 氏  
 演 題： AIの最新動向と日本のAI戦略

#### (2) 溶接技能向上のための講習会（溶接技能者教育委員会）

期日	場所	受講者数
4月 1日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	9
4月 15日	大阪府溶接技術協会 半自動溶接・学科	15
4月 19日	ひたちなかテクノセンター ステンレス鋼溶接・学科	5
4月 30日	日本溶接技術センター ステンレス鋼溶接・学科	7
5月 7日	日本溶接技術センター 被覆アーク溶接・学科	14
5月 14日	Kampuh Welding Indonesia 半自動溶接・学科	23
5月 14日	大阪府溶接技術協会 ステンレス鋼溶接・学科	11
5月 16日	ひたちなかテクノセンター 半自動溶接・学科	2
5月 20日	富山県産業技術研究開発センター 被覆アーク溶接・学科	2
5月 20日	長野県工業技術総合センター 半自動溶接・学科	11
5月 21日	富山県産業技術研究開発センター 半自動溶接・学科	3
5月 22日	富山県産業技術研究開発センター ステンレス鋼溶接・学科	3
5月 24日	ポリテクセンター宮城 被覆アーク溶接・学科	20
5月 25日	熊本県産業技術センター 被覆アーク溶接・学科	2
5月 25日	熊本県産業技術センター 半自動溶接・学科	22
5月 31日	ほしらんどくだまつ 被覆アーク溶接・学科	6
5月 31日	熊本県産業技術センター ステンレス鋼溶接・学科	26
6月 2日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	13
6月 7日	岡山県立岡山工業高等学校 被覆アーク溶接・学科	12
6月 7日	岡山県立岡山工業高等学校 半自動溶接・学科	38
6月 13日	群馬県職業能力開発協会 被覆アーク溶接・学科	4
6月 17日	大阪府溶接技術協会 被覆アーク溶接・学科	17
6月 20日	ひたちなかテクノセンター 被覆アーク溶接・学科	2
6月 20日	群馬県職業能力開発協会 半自動溶接・学科	17
6月 21日	ほしらんどくだまつ 半自動溶接・学科	16
6月 21日	岡山県立岡山工業高等学校 ステンレス鋼溶接・学科	11
6月 21日	備後地域地場産業振興センター 被覆アーク溶接・学科	4
6月 21日	ポリテクセンター宮城 半自動溶接・学科	18
6月 21日	ポリテクセンター静岡 半自動溶接・実技	9
6月 22日	ポリテクセンター静岡 半自動溶接・学科	16
6月 27日	群馬県職業能力開発協会 ステンレス鋼溶接・学科	5

期日	場所	受講者数
7月 1日	日本溶接技術センター ステンレス鋼溶接・学科	13
7月 2日	日本溶接技術センター 被覆アーク溶接・学科	23
7月 8日	石川県立小松産業技術専門学校 被覆アーク溶接・学科	7
7月 8日	大阪府溶接技術協会 半自動溶接・学科	14
7月 9日	ポリテクセンター加古川 半自動溶接・学科	13
7月 12日	ポリテクセンター広島 ステンレス鋼溶接・実技	6
7月 13日	ポリテクセンター広島 ステンレス鋼溶接・学科	7
7月 17日	ひたちなかテクノセンター ステンレス鋼溶接・学科	5
7月 19日	ほしらんどくだまつ ステンレス鋼溶接・学科	18
7月 26日	備後地域地場産業振興センター 半自動溶接・学科	13
8月 5日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	20
8月 19日	大阪府溶接技術協会 ステンレス鋼溶接・学科	16
8月 22日	ひたちなかテクノセンター 半自動溶接・学科	7
8月 23日	宮崎県工業技術センター 半自動溶接・学科	7
8月 23日	ポリテクセンター栃木 半自動溶接・学科	12
8月 23日	ポリテクセンター広島 被覆アーク溶接・実技	3
8月 24日	ポリテクセンター広島 被覆アーク溶接・学科	11
8月 24日	岐阜県溶接協会 半自動溶接・学科	11
8月 29日	大阪府溶接技術協会 半自動溶接・学科	15
8月 30日	ポリテクセンター宮城 ステンレス鋼溶接・学科	16
9月 2日	日本溶接技術センター ステンレス鋼溶接・学科	14
9月 3日	沖縄県工業技術センター 被覆アーク溶接・学科	9
9月 3日	日本溶接技術センター 被覆アーク溶接・学科	15
9月 4日	沖縄県工業技術センター 半自動溶接・学科	8
9月 6日	備後地域地場産業振興センター ステンレス鋼溶接・学科	3
9月 6日	ポリテクセンター香川 半自動溶接・学科	2
9月 7日	ポリテクセンター香川 半自動溶接・実技	2
9月 9日	ポリテクセンター加古川 ステンレス鋼溶接・学科	13
9月 9日	埼玉鉄構会館 半自動溶接・学科	34
9月 18日	大阪府溶接技術協会 被覆アーク溶接・学科	12
9月 21日	堅ヶ浜地域交流センター ステンレス鋼溶接・学科	9
9月 27日	ポリテクセンター宮城 被覆アーク溶接・学科	7
9月 27日	スキルアップセンター苫小牧 被覆アーク溶接・実技	7
9月 27日	熊本県産業技術センター 半自動溶接・学科	7
9月 27日	ポリテクセンター広島 半自動溶接・実技	2
9月 28日	ポリテクセンター広島 半自動溶接・学科	8
9月 28日	熊本県産業技術センター ステンレス鋼溶接・学科	12
9月 28日	熊本県産業技術センター 被覆アーク溶接・学科	1
10月 7日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	16
10月 7日	ポリテクセンター加古川 被覆アーク溶接・学科	13
10月 8日	大阪府溶接技術協会 半自動溶接・学科	3

期日	場所	受講者数
10月14日	富山県産業技術研究開発センター 被覆アーク溶接・学科	2
10月16日	富山県産業技術研究開発センター ステンレス鋼溶接・学科	5
10月17日	ひたちなかテクノセンター ステンレス鋼溶接・学科	5
10月19日	岡山県立岡山工業高等学校 ステンレス鋼接・学科	14
10月19日	岡山県立岡山工業高等学校 被覆アーク溶接・学科	8
10月19日	岡山県立岡山工業高等学校 半自動溶接・学科	33
10月21日	富山県産業技術研究開発センター 半自動溶接・学科	3
10月25日	ポリテクセンター山口 被覆アーク溶接・学科	14
10月25日	ポリテクセンター宮城 半自動溶接・学科	11
10月25日	ポリテクセンター静岡 被覆アーク溶接・実技	11
10月26日	ポリテクセンター静岡 被覆アーク溶接・学科	14
11月1日	スキルアップセンター苫小牧 半自動溶接・学科	8
11月4日	日本溶接技術センター ステンレス鋼溶接・学科	16
11月5日	日本溶接技術センター 被覆アーク溶接・学科	9
11月11日	群馬県職業能力開発協会 被覆アーク溶接・学科	10
11月12日	石川県立小松産業技術専門校 半自動溶接・学科	2
11月14日	群馬県職業能力開発協会 半自動溶接・学科	7
11月15日	ポリテクセンター宮城 ステンレス鋼溶接・学科	8
11月15日	ポリテクセンター静岡 ステンレス鋼溶接・実技	10
11月16日	ポリテクセンター静岡 ステンレス鋼溶接・学科	27
11月18日	大阪府溶接技術協会 ステンレス鋼溶接・学科	13
11月18日	福井人材開発センター 被覆アーク溶接・学科	8
11月19日	Kampus Welding Indonesia 半自動溶接・学科	23
11月22日	ポリテクセンター山口 半自動溶接・学科	11
11月22日	ポリテクセンター香川 半自動溶接・学科	5
11月22日	ひたちなかテクノセンター 半自動溶接・学科	10
12月2日	福井人材開発センター 半自動溶接・学科	11
12月2日	埼玉鉄構会館 被覆アーク溶接・学科	16
12月2日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	13
12月6日	ポリテクセンター秋田 半自動溶接・実技	11
12月7日	ポリテクセンター秋田 半自動溶接・学科	10
12月9日	福井人材開発センター ステンレス鋼溶接・学科	4
12月13日	宮崎県工業技術センター ステンレス鋼溶接・学科	3
12月16日	富山県工業技術センター 被覆アーク溶接・学科	2
12月16日	ポリテクセンター加古川 半自動溶接・学科	5
12月18日	ひたちなかテクノセンター 被覆アーク溶接・学科	2
12月18日	大阪府溶接技術協会 被覆アーク溶接・学科	5
12月18日	富山県工業技術センター 半自動溶接・学科	2
12月20日	九州地区溶接技術検定委員会 被覆アーク溶接・学科	18
12月20日	ポリテクセンター山口 ステンレス鋼溶接・学科	3
1月6日	日本溶接技術センター ステンレス鋼溶接・学科	9

期日	場所	受講者数
1月 7日	日本溶接技術センター 被覆アーク溶接・学科	9
1月 15日	スキルアップセンター苦小牧 半自動溶接・学科	5
1月 17日	熊本県産業技術センター 被覆アーク溶接・学科	2
1月 17日	ポリテクセンター香川 半自動溶接・学科	3
1月 18日	ポリテクセンター香川 半自動溶接・実技	3
1月 18日	熊本県産業技術センター 半自動溶接・学科	8
1月 20日	大阪府溶接技術協会 半自動溶接・学科	15
1月 23日	ひたちなかテクノセンター ステンレス鋼溶接・学科	2
1月 24日	熊本県産業技術センター ステンレス鋼溶接・学科	2
1月 28日	北海道地区溶接検定委員会 半自動溶接・学科	6
1月 30日	群馬県職業能力開発協会 ステンレス鋼溶接・学科	5
2月 1日	岡山県立岡山工業高等学校 被覆アーク接・学科	6
2月 1日	岡山県立岡山工業高等学校 ステンレス鋼接・学科	9
2月 1日	岡山県立岡山工業高等学校 半自動鋼接・学科	20
2月 3日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	8
2月 14日	九州地区溶接技術検定委員会 半自動溶接・学科	23
2月 17日	ポリテクセンター加古川 ステンレス鋼溶接・学科	12
2月 17日	大阪府溶接技術協会 ステンレス鋼溶接・学科	8
2月 19日	ひたちなかテクノセンター 半自動溶接・学科	7
2月 21日	九州地区溶接技術検定委員会 ステンレス鋼溶接・学科	18
2月 28日	ポリテクセンター栃木 被覆アーク溶接・学科	7
3月 3日	日本溶接技術センター ステンレス鋼溶接・学科	11
3月 3日	石川県立小松産業技術専門校 被覆アーク溶接・学科	3
3月 4日	石川県立小松産業技術専門校 半自動溶接・学科	4
3月 4日	日本溶接技術センター 被覆アーク溶接・学科	11
3月 5日	石川県立小松産業技術専門校 ステンレス鋼溶接・学科	4
3月 11日	大阪府溶接技術協会 被覆アーク溶接・学科	17
3月 16日	沖縄県工業技術センター 被覆アーク溶接・学科	2
3月 17日	沖縄県工業技術センター 半自動溶接・学科	13
3月 19日	備後地域地場産業振興センター 半自動溶接・学科	16
3月 24日	富山県工業技術センター 被覆アーク溶接・学科	3
3月 25日	富山県工業技術センター ステンレス鋼溶接・学科	2
3月 31日	日本溶接技術センター 半自動溶接・学科	7
合計	146 会場	1,469

(3) 溶接管理技術者資格認証のための研修会

① 1級及び特別級 基礎編研修会

期日	場所	受講者数
4月8日～4月11日	札幌商工会議所	33
4月1日～4月4日	ビジョンセンター東京 京橋	87
4月15日～4月18日	UDX AKIHABARA ギャラリー	100
4月7日～4月10日	TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口	36
4月1日～4月4日	新大阪丸ビル別館	58
4月15日～4月18日	新大阪丸ビル別館	87
4月8日～4月11日	RCC 文化センター	62
4月15日～4月18日	沖縄コンベンションセンター	7
9月2日～9月5日	ハーネル仙台	37
8月26日～8月29日	TKP 新橋カンファレンスセンター	90
9月9日～9月12日	TKP 新橋カンファレンスセンター	90
9月2日～9月5日	名古屋サンスカイルーム	52
8月25日～8月28日	新大阪丸ビル別館	87
9月8日～9月11日	新大阪丸ビル別館	87
9月1日～9月4日	福岡商工会議所	102
8月25日～8月28日	静岡商工会議所静岡事務所会館	7
合計	16会場	1,022

② 特別級 応用編研修会

期日	場所	受講者数
4月19日～4月22日	新大阪丸ビル別館	35
9月22日～9月25日	溶接会館	44
合計	2会場	79

③ 2級対象

期日	場所	受講者数
4月8日～4月10日	札幌商工会議所	72
4月1日～4月3日	ビジョンセンター東京 京橋	158
4月15日～4月17日	UDX AKIHABARA ギャラリー	179
4月7日～4月9日	TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口	100
4月1日～4月3日	新大阪丸ビル別館	132
4月15日～4月17日	新大阪丸ビル別館	158
4月8日～4月10日	RCC 文化センター	100
4月15日～4月17日	沖縄コンベンションセンター	39
4月22日～4月24日	産学協同センタービル	46
9月2日～9月4日	ハーネル仙台	117
8月26日～8月28日	TKP 新橋カンファレンスセンター	158
9月9日～9月11日	TKP 新橋カンファレンスセンター	158

期日	場所	受講者数
9月2日～9月4日	名古屋サンスカイルーム	120
8月25日～8月27日	新大阪丸ビル別館	161
9月8日～9月10日	新大阪丸ビル別館	167
9月1日～9月3日	福岡商工会議所	180
8月25日～8月27日	静岡商工会議所静岡事務所会館	24
9月17日～9月19日	産学協同センタービル	45
合計	17会場	2,114

④ 海外における溶接管理技術者資格認証のための研修会 WE（1級同等）及びSWE（特別級同等）基礎編

期日	場所	受講者数
4月13日～4月27日	台湾, 高雄 台湾文創訓練中心	10
6月9日～6月15日	マレーシア, バンギ (MWJS) Danau Golf UKM	2
6月9日～6月13日	マレーシア, シャーアラム (IMM)	6
9月8日～9月12日	インドネシア, スラバヤ (IWS)	5
11月10日～11月16日	マレーシア, カジャング (MWJS)	1
11月10日～11月14日	マレーシア, シャーアラム (IMM)	8
11月25日～11月28日	ベトナム (ハノイ工科大学) 支援: 大阪大学接合科学研究所	6
合計	7会場	38

⑤ 海外における溶接管理技術者資格認証のための研修会 SWE（特別級同等）応用編

期日	場所	受講者数
	開催せず	
合計	0会場	0

⑥ 海外における溶接管理技術者資格認証のための研修会 AWE（2級同等）対象

期日	場所	受講者数
6月9日～6月13日	マレーシア, シャーアラム (IMM)	3
9月1日～9月5日	ミャンマー, ヤンゴン (MSWE)	29
11月10日～11月16日	マレーシア, カジャング (MWJS)	1
11月10日～11月14日	マレーシア, シャーアラム (IMM)	7
11月25日～11月28日	ベトナム (ハノイ工科大学) 支援: 大阪大学接合科学研究所	4
合計	5会場	44

(4) IIW 国際溶接技術者資格認証のための研修会

① IIW 国際溶接技術者 (IWS) ポリテクセンター兵庫コース

期日	場所	受講者数
4月2日～9月30日	ポリテクセンター兵庫	1
7月4日～12月28日	ポリテクセンター兵庫	1
10月4日～3月31日	ポリテクセンター兵庫	0
1月6日～6月30日	ポリテクセンター兵庫	0 <sup>*1</sup>
合計	4会場	2

(\*1) 2026年10月における最終試験受験者数を受講者数とするため未確定

② IIW 国際溶接技術者 (IWE) 大阪大学接合科学研究所コース

期日	場所	受講者数
4月1日～11月23日	大阪大学接合科学研究所	4

③ IIW 国際溶接技術者 (IWIP, IWE, IWT, IWS) 特認コース

期日	場所	受講者数
ケーススタディ 10月30日～11月01日	大阪大学接合科学研究所	7

(5) 溶接作業指導者資格認証のための講習会 (WES 8107)

期日	場所	受講者数
5月13日～5月15日	フジコミュニティセンター (名古屋)	10
5月20日～5月22日	溶接会館	15
5月27日～5月29日	CIVI 研修センター新大阪東	8
10月7日～10月9日	九州地区溶接技術検定委員会	10
10月15日～10月17日	溶接会館	16
10月21日～10月23日	CIVI 研修センター新大阪東	24
合計	6会場	83

(6) マイクロソルダーリング要員認証制度 上級学科セミナー

期日	場所	受講者数
5月14日～5月15日	溶接会館 (千代田区)	4
11月13日～11月14日	溶接会館 (千代田区)	4
合計	2会場	8

## (7) マイクロソルダリング要員認証制度 中級学科セミナー

期日	場所	受講者数
5月14日～5月15日	溶接会館 (千代田区)	11
11月13日～11月14日	溶接会館 (千代田区)	10
合計	2会場	21

## (8) マイクロソルダリング要員認証制度 実装工程学科セミナー

期日	場所	受講者数
6月11日～6月12日	溶接会館 (千代田区)	5
12月8日～12月9日	溶接会館 (千代田区)	3
合計	2会場	8

## (9) マイクロソルダリング要員認証制度 指導能力セミナー

期日	場所	受講者数
5月15日	溶接会館 (千代田区)	8
6月12日	溶接会館 (千代田区)	3
11月14日	溶接会館 (千代田区)	8
合計	3会場	19

## (10) マイクロソルダリング要員認証制度 初級学科セミナー

期日	場所	受講者数
4月15日	溶接会館 (千代田区)	3
5月13日	溶接会館 (千代田区)	4
5月20日	(一社)福岡県溶接協会 (北九州市)	5
6月10日	溶接会館 (千代田区)	6
6月10日	(一社)神奈川県溶接協会 (川崎市)	1
7月8日	溶接会館 (千代田区)	6
7月15日	長野県工業技術総合センター (岡谷市)	18
8月19日	溶接会館 (千代田区)	8
8月20日	宇宙技術開発(株) (熊毛郡南種子町)	1
9月9日	溶接会館 (千代田区)	5
9月9日	(一社)神奈川県溶接協会 (川崎市)	4
10月7日	溶接会館 (千代田区)	7
10月21日	長野県工業技術総合センター (岡谷市)	4
11月11日	溶接会館 (千代田区)	4
11月18日	(一社)福岡県溶接協会 (北九州市)	15
12月9日	溶接会館 (千代田区)	8
1月20日	溶接会館 (千代田区)	1
1月27日	(一社)神奈川県溶接協会 (川崎市)	2
2月17日	溶接会館 (千代田区)	12
3月3日	溶接会館 (千代田区)	2

期日	場所	受講者数
3月10日	長野県工業技術総合センター（岡谷市）	6
合計	21会場	122

(11) マイクロ溶ダリング要員認証制度 判定能力セミナー

期日	場所	受講者数
4月16日～4月17日	溶接会館（千代田区）	5
5月14日～5月15日	溶接会館（千代田区）	8
5月21日～5月22日	（一社）福岡県溶接協会（北九州市）	6
6月11日～6月12日	溶接会館（千代田区）	8
7月9日～7月10日	溶接会館（千代田区）	7
7月16日～7月17日	長野県工業技術総合センター（岡谷市）	11
8月20日～8月21日	溶接会館（千代田区）	1
8月23日～8月24日	宇宙技術開発(株)（熊毛郡南種子町）	6
9月10日～9月11日	溶接会館（千代田区）	8
10月8日～10月9日	溶接会館（千代田区）	3
11月12日～11月13日	溶接会館（千代田区）	8
11月19日～11月20日	（一社）福岡県溶接協会（北九州市）	5
12月10日～12月11日	溶接会館（千代田区）	4
1月21日～1月22日	溶接会館（千代田区）	5
2月18日～2月19日	溶接会館（千代田区）	17
合計	15会場	102

(12) マイクロ溶ダリング要員認証制度 実技セミナー

期日	場所	受講者数
4月16日～4月17日	溶接会館（千代田区）	3
5月14日～5月15日	溶接会館（千代田区）	3
5月21日～5月22日	（一社）福岡県溶接協会（北九州市）	6
6月11日～6月12日	（一社）神奈川県溶接協会（川崎市）	3
7月9日～7月10日	溶接会館（千代田区）	9
7月16日～7月17日	長野県工業技術総合センター（岡谷市）	18
8月20日～8月21日	溶接会館（千代田区）	11
8月21日～8月22日	宇宙技術開発(株)（熊毛郡南種子町）	8
9月10日～9月11日	（一社）神奈川県溶接協会（川崎市）	7
10月8日～10月9日	溶接会館（千代田区）	10
10月22日～10月23日	長野県工業技術総合センター（岡谷市）	9
11月12日～11月13日	溶接会館（千代田区）	11
11月19日～11月20日	（一社）福岡県溶接協会（北九州市）	21
12月10日～12月11日	溶接会館（千代田区）	10
1月28日～1月29日	（一社）神奈川県溶接協会（川崎市）	6
2月18日～2月19日	溶接会館（千代田区）	10

期日	場所	受講者数
3月4日～3月5日	溶接会館（千代田区）	8
3月11日～3月12日	長野県工業技術総合センター（岡谷市）	8
合計	18会場	161

(13) AM技術者(2級受験者)研修会（AM技術者教育委員会）

期日	場所	受講者数
9月2日～9月4日	KITENA 新大阪	17
9月9日～9月11日	溶接会館	26
3月23日～3月25日	溶接会館	37
合計	3会場	80

各期日の初日（9/2, 9/9, 3/23）にIAMQS（国際AM認証システム）のCU00「AMプロセス概要」の講義を実施。

(14) マイクロ溶ダリング技術 教育・認証フェスタ 2025 ～ ソルダリング実装技術の最新動向 ～  
（マイクロ溶ダリング要員認証委員会・マイクロ溶ダリング要員評価委員会・マイクロ溶ダリング教育委員会）

期日	場所	受講者数
10月27日	溶接会館（WEB開催併用）	131

(15) 第22回「溶接の研究」講習会 ～溶接材料規格および溶接技術の最新動向～（溶接材料部会）

期日	場所	受講者数
11月26日	溶接会館	30

(16) 熱切断作業の品質と安全講習会 ＝ ガス、プラズマ、レーザ切断の勘所 ＝（ガス溶断部会）

期日	場所	受講者数
10月29日	溶接会館（WEB開催併用）	36

(17) 第2回 建設部会主催講習会 『建築鉄骨の溶接の勘所』（建設部会）

期日	場所	受講者数
12月16日	溶接会館（WEB開催併用）	50

(18) 現場に役立つろう付技術講習会（ろう部会）

期日	場所	受講者数
10月3日	ウインクあいち	77
12月12日	溶接会館	80

(19) はんだ・微細接合部会シンポジウム

～多様な社会課題に応えるエレクトロニクス実装技術・材料の最前線～（はんだ・微細接合部会）

期日	場所	受講者数
7月30日	溶接会館(WEB開催併用)	55

(20) 第3回 AM World セミナー ～AMプロセスとその理解…シミュレーションと現象観察～（AM部会）

期日	場所	受講者数
7月18日	株式会社ニコン 本社イノベーションセンター アトリウム	102

(21) ジョイントセミナー：AMによる素材加工革新 セラミックス、CFRPの可能性と最新動向（AM部会+日本3Dプリンティング産業技術協会）

期日	場所	受講者数
10月22日	溶接会館	34

(22) 第4回 AM World セミナー ～AM品質保証の現状～（AM部会）

期日	場所	受講者数
2月4日	岩谷産業株式会社 神戸研修所（神戸市）	94

(23) ステンレス鋼のアーキ溶接および新しい溶接方法による施工技術の実際（特殊材料溶接研究委員会）

期日	場所	受講者数
11月20日	四国地区溶接技術検定委員会(WEB開催併用)	83

(24) 「溶接部の腐食トラブル防止の基礎と実際」（特殊材料溶接研究委員会）

期日	場所	受講者数
1月29日	溶接会館(WEB開催併用)	54

(25) 原子炉圧力容器の加圧熱衝撃に対する新しい破壊評価技術

－塑性拘束を考慮した破壊評価基準の社会実装－（原子力研究委員会）

期日	場所	受講者数
9月30日	溶接会館(WEB開催併用)	57

(26) 原子力プラント機器の健全性評価に関する講習会（原子力研究委員会）

期日	場所	受講者数
12月10日～12月11日	溶接会館(WEB開催併用)	76

(27) 「二相ステンレス鋼の溶接－溶接施工のかんどころ－」書籍発刊記念シンポジウム

（化学機械溶接研究委員会）

期日	場所	受講者数
7月9日	溶接会館	49

(28) 第2回 WES 2820 (圧力設備の供用適性評価方法-減肉評価) 講習会 (化学機械溶接研究委員会)

期日	場所	受講者数
11月25日	連合会館(WEB開催併用)	88

(29) 「プラント圧力設備の溶接補修指針(改訂版)」シンポジウム (化学機械溶接研究委員会)

期日	場所	受講者数
2月17日～2月18日	溶接会館(WEB開催併用)	123

(30) 表面処理技術セミナー ～ドライプロセスを中心に基礎から応用まで～  
(表面改質技術研究委員会)

期日	場所	受講者数
11月6日	溶接会館(WEB開催併用)	29
12月8日	溶接会館(WEB開催併用)	40

(31) 第11回 溶接・接合プロセス研究委員会主催シンポジウム  
～新エネルギー源とその実現に向けた製造技術の展望～ (溶接・接合プロセス研究委員会)

期日	場所	受講者数
11月27日	溶接会館(WEB開催併用)	40

(32) LMP シンポジウム 2026 「レーザ加工技術の基礎・応用と最新動向」 (レーザ加工技術研究委員会)

期日	場所	受講者数
3月5日～3月6日	つくば国際会議場(WEB開催併用)	86

(33) 2025年度 デジタルラジオグラフィに関する技術講習会  
ー工業分野におけるデジタルラジオグラフィの基礎とその適用ー (非破壊試験技術実用化研究委員会)

期日	場所	受講者数
8月28日～8月29日	溶接会館	16
9月1日～9月2日	RCC文化センターエールエールA館	11

(34) 令和7年度 特許庁との懇談会 (特許委員会)

期日	場所	受講者数
11月5日	溶接会館(WEB開催併用)	48

(35) 溶接の安全・衛生を取り巻く最近の環境 ー労働安全衛生規則及びハンドヘルドレーザ溶接の最新動向ー  
(安全衛生・環境委員会)

期日	場所	受講者数
10月1日	溶接会館(WEB開催併用)	55

## 4. 溶接・AM 関係規格

### 4. 1 JIS 原案の提出

#### 4.1.1 制改廃原案

区分	規格番号	規格名称	JSA 提出日	公示日	担当
改正(公募)	JIS Z 3001-3	溶接用語—第 3 部：ろう接	2025/5/26	2025/12/22	ろう部会、はんだ・微細接合部会、規格委員会

#### 4.1.2 経済産業省委託の JIS 見直し調査による確認及び暫定確認の検討

区分	規格番号	規格名称	担当
確認	JIS C 9300-5:2022	アーク溶接装置—第 5 部：ワイヤ送給装置	電気溶接機部会
	JIS Z 3118:2022	鋼溶接部の拡散性水素量測定方法	溶接材料部会
	JIS Z 3183:2012	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分	溶接材料部会
	JIS Z 3214:2012	耐候性鋼用被覆アーク溶接棒	溶接材料部会
	JIS Z 3221:2021	ステンレス鋼被覆アーク溶接棒	溶接材料部会
	JIS Z 3315:2012	耐候性鋼用のマグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ	溶接材料部会
	JIS Z 3320:2012	耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ	溶接材料部会
	JIS Z 3323:2021	ステンレス鋼アーク溶接フラックス入りワイヤ及び溶加棒	溶接材料部会
	JIS Z 3351:2012	炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ	溶接材料部会
	JIS Z 3352:2017	サブマージアーク溶接及びエレクトロスラグ溶接用フラックス	溶接材料部会
	JIS Z 3700:2022	溶接後熱処理方法	化学機械溶接研究委員会

#### 4.1.3 JSA 認定産業標準作成機関の JIS 見直し調査による確認及び暫定確認の検討

##### 4.1.3.1 確認

規格番号	規格名称	担当
JIS C 9317:1995	ポータブル・スポット溶接機用溶接変圧器	電気溶接機部会
JIS Z 3090:2022	熔融溶接継手の外観試験方法	AN 委員会
JIS Z 3158:2016	y 形溶接割れ試験方法	溶接材料部会
JIS Z 3202:2007	銅及び銅合金ガス溶加棒	溶接材料部会
JIS Z 3225:2007	9%ニッケル鋼用被覆アーク溶接棒	溶接材料部会
JIS Z 3231:2007	銅及び銅合金被覆アーク溶接棒	溶接材料部会
JIS Z 3252:2012	鋳鉄用被覆アーク溶接棒, ソリッドワイヤ, 溶加棒及びフラックス入りワイヤ	溶接材料部会
JIS Z 3282:2017	はんだ—化学成分及び形状	はんだ・微細接合部会
JIS Z 3283:2017	やに入りはんだ	はんだ・微細接合部会
JIS Z 3319:2007	エレクトロガスアーク溶接用フラックス入りワイヤ	溶接材料部会
JIS Z 3321:2021	溶接用ステンレス鋼溶加棒, ソリッドワイヤ及び鋼帯	溶接材料部会
JIS Z 3326:2007	硬化肉盛用アーク溶接フラックス入りワイヤ	溶接材料部会
JIS Z 3332:2007	9%ニッケル鋼用ティグ溶加棒及びソリッドワイヤ	溶接材料部会
JIS Z 3333:2007	9%ニッケル鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ及びフラックス	溶接材料部会
JIS Z 3341:2007	銅及び銅合金イナートガスアーク溶加棒及びソリッドワイヤ	溶接材料部会
JIS Z 3420:2022	金属材料の溶接施工要領及びその適格性確認—一般原則	規格委員会
JIS Z 3900:1974	貴金属ろうのサンプリング方法	ろう部会
JIS Z 3904:1979	金ろう分析方法	ろう部会

規格番号	規格名称	担当
JIS Z 3905:2006	ニッケルろう分析方法	ろう部会
JIS Z 3910:2017	はんだ分析方法	はんだ・微細 接合部会

#### 4.1.3.2 暫定確認

規格番号	規格名称	担当
JIS Z 3021:2016	溶接記号	規格委員会
JIS Z 3422-1:2022	金属材料の溶接施工要領及びその適格性確認—溶接施工法 試験—第1部：鋼のアーカ溶接及びガス溶接並びにニッケル 及びニッケル合金のアーカ溶接	規格委員会
JIS Z 3831:2002	プラスチック溶接技術検定における試験方法及び判定基準	溶接技能者認証委員会

#### 4.1.4 改正準備（準備中／活動中）

##### 4.1.4.1 活動中

区分	規格番号	規格名称	担当
制定(認定)	JIS Z 3199(仮)	鉛フリーはんだ対応はんだこて試験方法(仮)	はんだ・微細 接合部会
制定(公募)	JIS Z 3270(仮)	(ろう付用の) ろう材(仮)	ろう部会
制定(公募)	JIS Z 3960(仮)	溶接及び関連工程における安全衛生—アーカ溶接用の透 明な溶接遮光カーテン、ストリップ及びスクリーン(仮)	安全衛生・ 環境委員会
改正(認定)	JIS C 9318	ポータブル・スポット溶接機用水冷二次ケーブル	電気溶接機 部会
改正(認定)	JIS Z 3021	溶接記号	規格委員会
改正(公募)	JIS Z 3211	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーカ溶接棒	溶接材料部会
廃止	JIS Z 3261	銀ろう	ろう部会
廃止	JIS Z 3262	銅及び銅合金ろう	ろう部会
廃止	JIS Z 3264	りん銅ろう	ろう部会
廃止	JIS Z 3265	ニッケルろう	ろう部会
廃止	JIS Z 3266	金ろう	ろう部会
廃止	JIS Z 3267	パラジウムろう	ろう部会
廃止	JIS Z 3268	真空用貴金属ろう	ろう部会

##### 4.1.4.2 準備中

区分	規格番号	規格名称	担当
制定(認定)	JIS Z 3146(仮)	スポット溶接部の機械式ピール試験方法(仮)	規格委員会
改正(認定)	JIS Z 3021	溶接記号	規格委員会
改正(公募)	JIS Z 3313	軟鋼，高張力鋼及び低温用鋼用アーカ溶接フラックス入 りワイヤ	溶接材料部会
改正(公募)	JIS Z 3400	金属材料の融接に関する品質要求事項	規格委員会

#### 4.2 WESの原案審議

##### 4.2.1 制改廃・英訳 WES

区分	規格番号	規格名称	担当	発行日
制定	WES 2821	溶着金属のトランス・バレストレイン試験方 法	溶接材料部会	2025/7/1
制定	WES 9009-7	溶接，熱切断及び関連作業における安全衛生 第7部：レーザ溶接・切断	安全衛生・環境委員会	2025/10/1
改正	WES 1108	亀裂先端開口変位（CTOD）試験方法	鉄鋼部会	2025/10/1
改正	WES 2820	圧力設備の供用適性評価方法—減肉評価	化学機械溶接研究 委員会	2026/1/1
改正	WES 3009	溶接割れ感受性の低い高張力鋼板の特性	鉄鋼部会	2025/10/1
改正	WES 8111	建築鉄骨ロボット溶接オペレータの資格認証 基準	建築鉄骨ロボット溶接 オペレータ認証委員会	2025/7/1

区分	規格番号	規格名称	担当	発行日
改正	WES 9009-2	溶接，熱切断及び関連作業における安全衛生 第2部：溶接ヒューム及び有害ガス	安全衛生・環境委員会	2026/3/1
改正	WES 9801	特定認定高度保安実施者による保安検査基準 (コンビナート等保安規則関係)	圧力設備サステナブル 保安部会	2025/7/1
改正	WES 9802	圧力設備の維持管理基準	圧力設備サステナブル 保安部会	2025/7/1
追補 改正	WES 0001/ AMD 1	日本溶接協会規格作成基準 (追補1)	規格委員会	2025/10/1
追補 改正	WES 1104/ AMD 1	インプラント形溶接割れ試験方法 (追補1)	鉄鋼部会	2025/10/1
追補 改正	WES 3003/ AMD 1	低温用圧延鋼板判定基準 (追補1)	鉄鋼部会	2025/10/1
廃止	WES 3008	鋼板及び平鋼の厚さ方向特性	鉄鋼部会	2025/10/1

#### 4.2.2 確認

規格番号	規格名称	担当
WES 0011	マイクロ接合用語	マイクロソルダリング 要員認証委員会
WES 1109	溶接継手のCTOD試験方法	鉄鋼部会
WES 2805	溶接継手のぜい性破壊発生及び疲労亀裂進展に対する欠陥の評価方法	鉄鋼部会
WES 4101	超高張力鋼用被覆アーク溶接棒	溶接材料部会
WES 4102	すみ肉溶接用被覆アーク溶接棒	溶接材料部会
WES 7901	余裕深度処分用処分容器溶接規格	原子力研究委員会
WES 8102	溶接士技量検定基準 (石油工業関係)	溶接技能者認証委員会
WES 8201	手溶接技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 8221	ステンレス鋼溶接技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 8231	プラスチック溶接技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 8241	半自動溶接技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 8291	銀ろう付技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 9009-4	溶接，熱切断及び関連作業における安全衛生 第4部：電撃及び高周波ノイズ	安全衛生・環境委員会

#### 4.2.3 制定・改正準備中

規格番号	規格名称	担当
WES 7101	溶接作業者の資格と標準作業範囲	溶接技能者認証委員会
WES 8101	すみ肉溶接技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 8103	溶接管理技術者認証基準	溶接管理技術者認証委員会
WES 8106	基礎杭溶接技能者の資格認証基準	溶接技能者認証委員会
WES 8210-2(仮)	原子炉等規制法に基づく溶接士技能認証試験基準 (原子力施設) 第2部：JSME S NB1-2020 適用(仮)	技術基準・認証委員会

### 4.3 ISO及びIECの原案審議

#### 4.3.1 日本がプロジェクトリーダーとなって発行された規格

区分	規格番号	規格名称	担当 TC・SC	発行日
改訂	ISO 5821:2025	Resistance welding — Spot welding electrodes — Female electrode caps	TC 44/SC 6	2025/6/12

#### <参考>

IEC：国際電気標準会議 (International Electrotechnical Commission)

ISO：国際標準化機構 (International Organization for Standardization)

JIS：日本産業規格 (Japanese Industrial Standards)

JSA : 一般財団法人日本規格協会 (Japanese Standards Association)

WES : 日本溶接協会規格 (Welding Engineering Standard)

## 5. 出版

- (1) 溶接技術 73巻4号～74巻3号
- (2) 溶接ニュース 3573号～3620号
- (3) 技術図書 新刊3件、増刷0件、重版3件
- (4) 日本溶接協会文献

部会・委員会名	文献番号 JWES-	題 目	頁数	作成年月日
原子力研究委員会	AE-2403	令和6(2024)年度報告書 繰返し荷重下での低サイクル疲労および延性破壊に対する評価法の整備に関する調査研究(その3)	632	2025.03.31
	AE-2404	令和6(2024)年度報告書 塑性拘束効果を考慮した破壊評価基準の確立検討小委員会(その2)	219	2025.03.31
	AE-2405	令和6年度成果報告書 原子力構造機器信頼性評価への確率論的破壊力学の適用法に関する調査研究	258	2025.03.31
	AE-2406	令和6(2024)年度報告書 原子力構造機器の経年化とその関連技術に関する調査研究(XXXI)	298	2025.03.31
	AE-2407	令和6年度成果報告書 デジタル打音検査技術の高度情報化に関する調査研究 PhaseIII	301	2025.03.31
	AE-2501	第15回原子力機器健全性国際ワークショップ報告書	25	2025.06.01
	AE-2502	原子炉圧力容器の加圧熱衝撃に対する新しい破壊評価技術-塑性拘束を考慮した破壊評価基準の社会実装-(第59回国内シンポジウム)	132	2025.09.30
	AE-2503	疲労に関するQ&A集	197	2025.11
	AE-2504	原子力プラント機器の健全性評価に関する講習会	287	2025.12.10
AM技術者教育委員会	AME-2401	2級 AM技術者演習問題集	188	2025.03.25
	AME-2501	2級 AM技術者演習問題集(2025年9月版)	188	2025.09.02
AN委員会	AN-2501	令和6年度非破壊試験技術実用化試験(XXIV)成果報告書	121	2025.11.28

部会・委員会名	文献番号 JWES-	題 目	頁数	作成年月日
化学機械溶接研究委員会	CP-2501	プラント圧力設備の溶接補修指針（改訂版）	377	2025. 10. 01
	CP-2502	「二相ステンレス鋼の溶接 - 溶接施工のかんどころ -」書籍発刊記念シンポジウム ～プラント装置におけるトラブル防止のための溶接施工ポイントについて～	137	2025. 07. 09
本会	GE-2501	IIW2022 東京大会	203	2026. 03. 02
ガス溶断部会	GW-2501	熱切断作業の品質と安全講習会-ガス・プラズマ・レーザ切断の勘所-	140	2025. 10. 29
レーザ加工技術研究委員会	LP-2401	LMP シンポジウム 2025 「レーザ加工技術の基礎・応用と最新動向」	239	2025. 03. 04
	LP-2501	LMP シンポジウム 2025 「レーザ加工技術の基礎・応用と最新動向」	223	2026. 03. 05
ろう部会	NB-2501	令和7年度(2025年度)現場に役立つろう付技術講習会	222	2025. 10. 03
溶接・接合プロセス研究委員会	PJ-2501	第11回溶接・接合プロセス研究委員会シンポジウム 新エネルギー源とその実現に向けた製造技術の展望	252	2025. 11. 27
車両部会	RV-2501	加熱矯正（歪取り）温度による母材強度への影響調査	17	2025. 06. 06
建設部会	SC-2501	第2回建設部会講習会 建築鉄骨の溶接の勘所	76	2025. 12. 16
安全衛生・環境委員会	SH-2501	溶接の安全・衛生を取り巻く最近の環境-労働安全衛生規則及びハンドヘルドレーザ溶接の最新動向-	130	2025. 10. 01
特殊材料溶接研究委員会	SM-2501	ステンレス鋼のアーク溶接および新しい溶接方法による施工技術の実際	193	2025. 11. 20
	SM-2502	「溶接部の腐食トラブル防止の基礎と実際」講習会-溶接部の耐環境性能とトラブル・対策-	148	2026. 01. 29
はんだ・微細接合部会	SR-2401	はんだ・微細接合部会 シンポジウム『～DX・GX時代を支える実装技術・材料の研究開発動向～』	166	2024. 07. 23
	SR-2501	はんだ・微細接合部会 シンポジウム『～多様な社会課題に応えるエレクトロニクス実装技術・材料の最前線～』	93	2025. 07. 30

部会・委員会名	文献番号 JWES-	題 目	頁数	作成年月日
溶接材料部会	WM-2501	溶接の研究 No. 64 (2024 年度 研究経過報告) CD-ROM	36	2025. 10. 21
	WM-2502	第 22 回「溶接の研究」講習会テキスト	123	2025. 11. 26

## 6. 認証・認定関係

### (1) 溶接技能者

#### A 国内規格（JIS, WES）に基づく溶接技能者関係

##### ① 評価試験

	北海道地区		東北地区		東部地区		中部地区	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
手溶接（アーク・ガス） （JIS Z 3801／ WES 8201）	1,480	1,059	2,856	2,112	8,027	6,264	3,597	2,612
半自動溶接 （JIS Z 3841／ WES 8241）	1,736	1,307	3,593	2,672	11,902	9,103	5,656	3,826
ステンレス鋼溶接 （JIS Z 3821／ WES 8221）	628	484	1,934	1,658	5,169	4,570	2,407	2,058
石油工業溶接 （WES 8102／ JPI-7S-31）	35	20	36	25	295	262	83	73
すみ肉溶接 （WES 8101）	300	231	374	281	878	683	386	307
プラスチック溶接 （JIS Z 3831／ WES 8231）	5	3	47	26	67	37	51	17
銀ろう付 （JIS Z 3891／ WES 8291）	2	1	22	18	210	173	42	33
基礎杭溶接 （WES 8106）	13	5	14	7	116	72	26	19
チタン溶接 （JIS Z 3805／ WES 8205）	6	5	9	9	95	90	27	25
合計	4,205	3,115	8,885	6,808	26,759	21,254	12,275	8,970

##### ② 評価試験合格者及びサーベイランスの合格者（＝資格保有者総合計）の内訳

評価試験			サーベイランス			総合計（①+②）
新規	再評価	①合計	第1回	第2回	②計	
36,550	43,194	79,744	73,581	67,615	141,196	220,940

#### B 国際規格（ISO 9606-1）に基づく溶接技能者関係

##### ① 評価試験

	北海道地区		東北地区		東部地区		中部地区	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
合計	—	—	—	—	1	0	0	0

#### C 外国人技能実習生関係

##### ① 評価試験

内容	受験者数	合格者数
初級 （手溶接及び半自動溶接）	7,236	6,046
専門級 （手溶接及び半自動溶接）	8,337	4,132
上級 （手溶接及び半自動溶接）	450	291

北陸地区		関西地区		中国地区		四国地区		九州地区		全国合計	
受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
1,311	925	4,965	3,566	3,144	2,491	1,066	852	4,906	3,741	31,352	23,622
2,048	1,569	7,475	5,587	3,857	3,081	2,203	1,673	5,436	4,064	43,906	32,882
849	724	4,460	3,954	1,857	1,688	837	716	3,187	2,832	21,328	18,684
12	6	80	60	169	136	43	24	162	113	915	719
252	183	451	364	257	215	95	76	419	360	3,412	2,700
35	27	37	17	69	37	21	9	97	50	429	223
4	3	210	175	29	24	11	8	24	20	554	455
0	0	21	15	19	10	6	3	94	45	309	176
0	0	80	61	52	48	13	13	39	32	321	283
4,511	3,437	17,779	13,799	9,453	7,730	4,295	3,374	14,364	11,257	102,526	79,744

北陸地区		関西地区		中国地区		四国地区		九州地区		全国合計	
受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
—	—	16	8	0	0	—	—	0	0	17	8

## (2) 溶接管理技術者評価試験 (JIS Z 3410(ISO 14731)/WES 8103)

期日	会場	受験者数			合格者数		
		特別級	1級	2級	特別級	1級	2級
前期 筆記 6月 1日 口述 6月 28日	札幌	5	38	75	1	7	55
	東京	39	340	572	10	74	392
	名古屋	2	62	133	2	14	90
	大阪	16	183	337	2	44	233
	広島	11	124	162	5	24	114
	沖縄	0	7	32	0	2	19
後期 筆記 11月 9日 口述 12月 6日	仙台	3	51	146	0	8	102
	東京	54	396	553	8	70	386
	名古屋	1	86	152	0	16	113
	大阪	28	270	415	9	51	300
	福岡	16	181	265	6	45	182
合計		175	1,738	2,842	43	355	1,986

## (3) 海外における溶接管理技術者評価試験 (JIS Z 3410(ISO 14731)/WES 8103)

## ① 台湾 (台湾溶接協会)

期日	会場	受験者数			合格者数		
		SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)	SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)
筆記 6月 14日	高雄	—	10	—	—	6	—

## ② ミャンマー (ミャンマー溶接協会)

期日	会場	受験者数			合格者数		
		SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)	SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)
筆記 9月 7日	ヤンゴン	—	—	29	—	—	25

## ③ インドネシア (インドネシア溶接協会)

期日	会場	受験者数			合格者数		
		SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)	SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)
筆記 9月 13日	スラバヤ	—	5	—	—	2	—

## ④ マレーシア (IMM: マレーシア材料学会及び MWJS: マレーシア溶接協会 同日実施)

期日	会場	受験者数			合格者数		
		SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)	SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)
筆記 6月 16日	シャーアラム/バンギ	—	9	4	—	8	1
筆記 11月 17日	セランゴール	—	8	8	—	6	7

## ⑤ ベトナム (ハノイ工科大学)

期日	会場	受験者数			合格者数		
		SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)	SWE (特別級 同等)	WE (1級同 等)	AWE (2級同 等)
筆記 11月 29日	ハノイ	—	8	4	—	5	4

## (4) 溶接管理技術者再認証審査 (JIS Z 3410(ISO 14731)/WES 8103)

## A 前期

## ① 評価試験結果

期日	場所	受験者数			合格者数		
		特別級	1級	2級	特別級	1級	2級
5月29日	札幌商工会議所 北海道経済センター	1	8	64	1	8	64
5月15日	ハーネル仙台	1	12	80	1	12	79
5月21日	ハーネル仙台	1	8	39	1	8	39
5月23日	ペリエホール	1	18	80	1	18	80
6月5日	ペリエホール	2	18	46	2	18	46
5月14日	TKP 新橋カンファレンスセンター	8	50	134	8	50	134
5月29日	TKP 新橋カンファレンスセンター	2	18	79	2	18	79
6月4日	TKP 新橋カンファレンスセンター	5	28	57	5	28	57
5月22日	ビジョンセンター横浜	6	19	78	6	19	77
6月4日	ビジョンセンター横浜	6	31	61	6	31	61
5月16日	富山商工会議所	2	11	64	2	11	64
5月13日	名古屋サンスカイルーム	2	26	141	2	26	141
5月30日	名古屋サンスカイルーム	4	22	111	4	22	110
5月12日	新大阪丸ビル別館	6	55	86	6	55	86
5月20日	新大阪丸ビル別館	6	33	61	6	33	60
6月4日	新大阪丸ビル別館	3	28	86	3	28	86
5月8日	岡山コンベンションセンター	3	30	61	3	30	60
5月30日	TKP ガーデンシティ広島駅前大橋	3	43	60	3	43	60
6月5日	えひめ共済会館	2	17	47	2	17	47
5月13日	福岡県中小企業振興センター	0	33	101	0	33	101
5月22日	福岡県中小企業振興センター	2	32	85	2	32	85
4月18日	沖縄コンベンションセンター	0	0	5	0	0	5
5月14日	在宅	25	156	517	25	156	517
合計	23 会場	91	696	2,155	91	696	2,151

## ② クレジット審査結果

受験者数			合格者数		
特別級	1級	2級	特別級	1級	2級
8	4	1	7	3	1

## B 後期

## ① 評価試験結果

期日	場所	受験者数			合格者数		
		特別級	1級	2級	特別級	1級	2級
10月21日	札幌商工会議所 北海道経済センター	2	27	95	2	27	95
11月6日	ハーネル仙台	4	20	86	4	20	86
9月30日	ペリエホール	2	21	70	2	21	70
10月29日	ペリエホール	2	35	57	2	35	57
10月9日	TKP 新橋カンファレンスセンター	5	38	147	5	38	147
10月28日	TKP 新橋カンファレンスセンター	9	38	102	9	38	102
11月6日	TKP 新橋カンファレンスセンター	9	35	97	9	35	97
10月17日	ビジョンセンター横浜	7	43	96	7	43	96
10月23日	ビジョンセンター横浜	2	22	45	2	22	45
10月15日	TKP ガーデンシティ PREMIUM 金沢駅西口	1	13	60	1	13	60
10月30日	名古屋サンスカイルーム	5	55	150	5	55	150
9月29日	新大阪丸ビル別館	3	49	129	3	43	129
10月15日	新大阪丸ビル別館	6	47	96	6	47	96
11月7日	新大阪丸ビル別館	9	56	126	3	56	126
10月8日	岡山コンベンションセンター	3	30	62	3	30	62
10月24日	TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋	4	24	78	4	24	78
10月30日	四国ろうきん松山ビル	1	10	33	1	10	33
10月21日	福岡県中小企業振興センター	4	45	74	4	45	74
10月28日	福岡県中小企業振興センター	2	17	35	2	17	35
10月15日	在宅	22	110	407	22	110	407
合計	18会場	102	735	2,045	102	735	2,045

## ② クレジット審査結果

受験者数			合格者数		
特別級	1級	2級	特別級	1級	2級
15	6	0	14	6	0

C 海外における溶接管理技術者 再認証評価試験 (JIS Z 3410(ISO 14731)/WES 8103)

期日	会場 審査方法	受験者数			合格者数		
		SWE (特別級同等)	WE (1級同等)	AWE (2級同等)	SWE (特別級同等)	WE (1級同等)	AWE (2級同等)
6月7日	台湾 在宅審査		5*			5	
8月8日	マレーシア 在宅審査		2	1		2	1

\*台湾：5名のうち1名はクレジット審査

(5) 溶接作業指導者 (WES 8107)

期日	場所	新規試験		再認証	
		受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
5月15日	フジコミュニティセンター	10	9	4	4
5月22日	溶接会館	15	15	14	14
5月29日	CIVI 研修センター新大阪東	8	8	22	22
10月9日	九州地区溶接技術検定委員会	10	9	9	9
10月17日	溶接会館	16	16	24	24
10月23日	CIVI 研修センター新大阪東	24	23	26	26
他の実績申請		—		6	6
合計	6会場	83	80	105	105

(6) IIW 国際溶接技術者評価試験

期日	場所	受験者数				合格者数			
		IWIP	IWE	IWT	IWS	IWIP	IWE	IWT	IWS
4月5日	ポリテクセン	—	—	—	3	—	—	—	2
10月4日	ター兵庫	—	—	—	2	—	—	—	2
筆記 11月29日	大阪大学	—	11	1	2	—	11	1	1
口述 12月13日	溶接会館 (筆記のみ)	1	10	—	—	0	10	—	—
IWIP 実技 12月6日	溶接技術セン ター(川崎)	1	—	—	—	1	—	—	—
IWIP 理論筆記再 試験 1月26日	溶接会館 (筆記のみ)	1	—	—	—	1	—	—	—
合計	4会場	1	21	1	6	1	21	1	5

(7) IAMQS (国際 AM 認証システム) CUOO 「AM プロセス概要」 筆記試験

期日	場所	受験者数	合格者数
7月13日	溶接会館	60	60
12月14日	溶接会館	35	34
合計	2会場	95	94

## (8) CIW 検査技術管理者・上級検査技術者 試験 (WES 8701)

期日	場所	部門	受験者数	合格者数	
前期1次試験 5月10日	東京(溶接会館) 大阪(ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター)	検査技術管理者	17	8	
		上級 検査 技術 者	RT	8	5
			UT	13	8
			MT	4	2
			PT	12	8
前期2次試験 7月5日	東京(溶接会館)	ET	8	1	
		ST	0	0	
前期2次試験 7月6日	大阪(ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター)	小計	46	24	
		合計	63	32	
後期1次試験 11月13日	東京(溶接会館) 大阪(ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター)	検査技術管理者	17	9	
		上級 検査 技術 者	RT	10	5
			UT	32	16
			MT	7	4
			PT	13	11
後期2次試験 1月10日	東京(溶接会館)	ET	6	1	
		ST	1	0	
後期2次試験 1月11日	大阪(ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター)	小計	69	37	
		合計	86	46	

## CIW 検査技術管理者・上級検査技術者 資格更新審査 (WES 8701)

期日	場所	部門	受験者数	合格者数	
前期更新審査 4月21日	東京(溶接会館)	検査技術管理者	29	29	
		上級 検査 技術 者	RT	16	16
			UT	37	37
前期更新審査 4月22日	大阪(ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター)	MT	10	10	
		PT	19	19	
		ET	3	3	
		ST	1	1	
		小計	86	86	
		合計	115	115	
後期更新審査 10月20日	東京(溶接会館)	検査技術管理者	22	22	
		上級 検査 技術 者	RT	31	31
			UT	48	47
後期更新審査 10月21日	大阪(ホテルマイステイズ新大阪 コンファレンスセンター)	MT	4	4	
		PT	9	9	
		ET	6	6	
		ST	0	0	
		小計	98	97	
合計	120	119			

## (9) 溶接構造物非破壊検査事業者の技術認定 (WES 8701)

① 2025年4月1日付認定【 】内の数字は会社コード、建築：建築鉄骨検査適格事業者

1) 認定停止(削除)：1社

・(有)イワオエンジニアリング【109】D種 UT, 建築 登録事業所：本社

2) 新規(復活)：1社

・日本エックス線検査(株)【101】D種 RT 登録事業所：本社

3) 部門追加：1社

- ・(株)アディック【153】C種 UT, PT, 建築 登録事業所：本社

4) 認定の更新：19社

- ・日工検サービス(株)【50】D種 UT 登録事業所：本社
- ・東洋検査工業(株)【52】B種 RT, UT, MT, PT  
登録事業所：本社, 和歌山営業所, 大阪営業所, 鹿島営業所, 技術ソリューション部
- ・溶接検査(株)【66】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・日本X線検査(株)【91】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(株)アイペック【92】A種 RT, UT, MT, PT, ET, ST 登録事業所：本社
- ・(株)大検工業【107】D種 UT 登録事業所：本社, 大阪事業所, 姫路事業所
- ・千代田検査工業(株)【125】C種 RT, UT, 建築 登録事業所：本社
- ・沖縄工業検査(株)【158】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・沖縄非破壊検査(株)【163】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・(株)九検【165】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・内外エンジニアリング(株)【189】C種 UT, PT, 建築 登録事業所：本社
- ・四国エックス線(株)【191】C種 RT, UT, 建築 登録事業所：本社
- ・(有)三重非破壊検査【206】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・(株)アミック【209】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(有)シー・アイ・エス【220】D種 UT 登録事業所：本社
- ・テクノス三原(株)【229】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(有)ユーソニック【240】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・(有)優検【242】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・(株)日本ユーテック【251】D種 UT, 建築 登録事業所：本社

② 2025年10月1日付認定 [ ] 内の数字は会社コード、建築：建築鉄骨検査適格事業者

1) 新規(復活)：1社

- ・東邦非破壊検査(株)【103】D種 UT 登録事業所：本社

2) 認定停止(認定要員不足による)：1社

- ・(株)茗和検査【55】D種 UT 登録事業所：本社

3) 種別変更(昇格)：1社

- ・(株)スルガ検査【252】C→B種 RT, UT, PT, 建築 登録事業所：本社

4) 種別変更(降格)：1社

- ・(株)川重サポート【228】A→B種 RT, UT, MT, PT, ET, ST, 建築  
登録事業所：本社、神戸検査事業所、坂出検査事業所

5) 認定の更新：14社

- ・(株)アイ・エム・シー【1】A種 RT, UT, MT, PT, ET, ST, 建築  
登録事業所：本社, 関西事業所, 中部事業所
- ・エース・エンジニアリング(株)【3】D種 UT, 建築 登録事業所：本社, 東京支社
- ・(株)ジャスト【25】A種 RT, UT, MT, PT, ET, ST, 建築  
登録事業所：本社, 名古屋営業所, 大阪営業所, 仙台営業所, 新潟営業所, 千葉営業所, 長野営業所, 山口営業所, 群馬営業所

- ・(株)コーケン【34】C種 RT, UT 登録事業所：本社(経営管理のみ), 大阪事業所, 坂出事業所
- ・ユニセック(株)【86】C種 RT, UT 登録事業所：本社
- ・(株)サンテクノス【113】C種 UT, PT, 建築 登録事業所：本社, 関東事業所
- ・北日本非破壊検査(株)【115】A種 RT, UT, MT, PT, ET, ST, 建築 登録事業所：本社
- ・(株)ジェイアールシー【120】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(株)エスティエス【138】D種 UT, 建築 登録事業所：本社
- ・アトミックス工業(株)【145】C種 RT, UT 登録事業所：本社
- ・京浜検査工業(株)【146】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(株)中嶋エンジニアリング【185】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(有)アネスト【212】D種 UT 登録事業所：本社
- ・(有)佐賀検査サービス【221】D種 UT 登録事業所：本社

6) 住所・電話・FAX などの変更のあった事業者(本社事務所を表示)：1 社

- ・(有)ジェイ・テックス【205】D種  
 【旧住所】〒370-0012 群馬県高崎市大沢町 72-81  
 【新住所】〒370-0031 群馬県高崎市上大類町 704-1 J ビル 2F  
 ※TEL&FAX は変更なし。

認定事業者数	登録技術者数 ( ) は建築鉄骨検査付加資格
A 種 …… 16 社	検査技術管理者数 …… 445 名 (140 名)
B 種 …… 11 社	上級検査技術者数 …… 1,354 名 (178 名)
C 種 …… 27 社	検査技術者数 …… 1,737 名 (213 名)
D 種 …… 57 社	合 計 …… 3,536 名 (531 名)
合 計 …… 111 社	* 2025 年 10 月 1 日現在

## (10) マイクロソルダリング要員認証制度 評価試験

評価試験		受験者数	合格者数	
上級学科試験		11	8	
中級学科試験		19	17	
実装工程学科試験		8	8	
初級学科試験		394	364	
技術者面接試験		7	7	
指導能力試験Ⅰ		2	1	
指導能力試験Ⅱ		0	0	
判定能力試験		223	172	
実技試験	材料：鉛フリー	種目：挿入実装	576	441
		種目：表面実装	543	359
		種目：端子実装	473	303
	材料：錫-鉛共晶	種目：挿入実装	68	61
		種目：表面実装	58	48
		種目：端子実装	72	39

## (11) 電気事業法、炉規法に基づく溶接士・溶接施工法確認試験、溶接士の更新

試験名	申請数	合格証/認証書/ 確認証 発行資格
電事法(火力) 溶接施工法	0	0
電事法(火力) 溶接士技能	1	9
電事法(火力) 溶接士更新	2	6
炉規法(原子力) 溶接施工法	4	4
炉規法(原子力) 溶接士技能	11	107
炉規法(原子力) 溶接士更新	5	106

## (12) 建築鉄骨ロボット溶接オペレータ検定試験

期日	場所	新規		再評価	
		受験件数	合格件数	受験件数	合格件数
1期	福岡，東京，大阪及び書類審査（機種追加，種別追加）	90	77	48	42
2期	東京，大阪及び書類審査（機種追加，種別追加）	39	36	61	59
3期	北海道，東京（2会場），大阪及び書類審査（種別追加）※	65	60	97	95
4期	東京（2会場），福岡，大阪及び書類審査（種別追加）※	94	87	65	63
合計	13会場	288	260	271	259

※3期より機種追加は書類審査から口述試験へ試験方法が変更された。

## (13) AM 技術者評価試験

期日	場所	受験者数			合格者数		
		特別級	1級	2級	特別級	1級	2級
7月13日	東京	—	—	60	—	—	59
12月14日	東京	—	—	35	—	—	34
合計	2会場	—	—	95	—	—	93

## 7. 官公庁及び民間からの受託・委託の研究、調査及び研修等

(1)「JIS 原案共同作成事業(JIS 公募案件)

JIS Z 3211「軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒」(改正)の原案及び解説の作成  
(一財)日本規格協会 149,600円(税込)  
2025年5月1日～2026年3月31日  
JIS Z 3211 原案作成委員会 伊藤和博委員長

(2)「2025年度NSU及び関連委員会の設置及び運営」

川崎重工業(株)、三菱重工業(株)、日本製鉄(株)、JFEスチール(株)、(株)神戸製鋼所、  
三菱製鋼(株)、日鉄溶接工業(株) 929,760円(税込)  
2025年5月30日～2026年3月31日  
NSU総合委員会 望月正人委員長  
NSU: Naval steel, Ultra high strength

(3)「令和7年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費(省エネルギー等国際標準開発  
(国際標準分野))(建設用付加製造(積層造形)の積層造形建設要素の設計プロセス及び構  
造用プリントの評価に関する国際標準化)」

(株)野村総合研究所 14,499,978円(税込)  
2025年6月6日～2026年2月28日  
建設AMに関する国際標準化規格委員会 石田哲也委員長

(4)「令和7年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費(省エネルギー等国際標準開発  
(国際標準分野(新規対応分野))(半導体デバイス向け焼結型接合材料に関する国際標準化)」

(一財)日本規格協会 7,446,759円(税込)  
2025年4月1日～2026年2月27日  
焼結型接合材料国際標準化研究委員会 西川宏委員長

(5)「使用前事業者検査(溶接)業務委託(新規制基準)その2」

日本原燃(株) 149,807,460円(税込)  
2025年3月19日～2026年9月30日

(6)「JIS 原案共同作成事業」(JIS 公募案件)

JIS Z 3960「アーク溶接作業用カーテン、ストリップ及びスクリーンの安全要求事項」(制定)  
の原案及び解説の作成  
(一財)日本規格協会 154,000円(税込)  
2025年8月1日～2026年6月30日  
JIS Z 3960 原案作成委員会 山根敏委員長

(7)「JIS 原案共同作成事業」(JIS 公募案件)

JIS B 9443「金属の付加製造-適格性確認の原則-AM技術者の適格性確認」(制定)  
の原案及び解説の作成  
(一財)日本規格協会 440,000円(税込)  
2025年8月1日～2026年6月30日  
JIS B 9443 原案作成委員会 才田一幸委員長

(8)「JIS 原案共同作成事業」(JIS 公募案件)

JIS Z 3199「鉛フリーはんだ対応はんだこて試験方法」(制定)の原案及び解説の作成

(一財)日本規格協会 484,000円(税込)

2025年9月1日～2026年4月30日

JIS Z 3199 原案作成委員会 荘司郁夫委員長

(9)「令和7年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野(新規対応分野))バインダージェット方式の付加製造技術(積層造形技術)に関する標準化戦略構築」

(一財)日本規格協会 10,945,000円(税込)

2025年6月3日～2026年2月27日

建設-AMに関する国際標準化規格委員会 京極秀樹委員長

(10)「令和7年度原子力システム研究開発事業「構造対策とシステム安全対策の連携による不確定性の大きい事象の合理的リスク低減法の研究」研究推進のための外部評価委員会の設置と運営」

東京都市大学 1,081,902円(税込み)

2025年10月6日～2026年3月31日

構造対策とシステム安全対策の連携に関する調査研究小委員会(BDBE2小委員会) 笠原主査

BDBE: Beyond Design Basis Events

(11)「JIS 原案作成事業」

JIS C 9318「抵抗溶接機用水冷二次ケーブル(現行名称:ポータブル・スポット溶接機用水冷二次ケーブル)」(改正)の原案及び解説の作成

(一財)日本規格協会 187,000円(税込)

2025年11月1日～2026年8月31日

JIS C 9318 原案作成委員会 山根敏委員長

(12)「JIS 原案共同作成事業」(JIS 公募案件)

JIS Z 3270「ろう(ろう付用)」(制定)の原案及び解説の作成(ろう部会 承認済)

(一財)日本規格協会 440,000円(消費税込)

2026年2月1日～2026年11月30日

JIS Z 3270 原案作成委員会 宮澤靖幸委員長



期日・場所	議 案	議事結果
	<p>(株)三保造船所 4級 (船舶・鉄構海洋構造物部会)  林電化工業(株) 4級 (参加部会・研究委員会 未定)  昇級 2社  (株)デンソー 4級→2級  (株)東芝 4級→2級  退会 4社  日鉄ステンレス(株) 4級  (株)最新レーザ技術研究センター 5級  東芝インフラシステムズ(株) 3級  三菱マテリアル(株) 4級  AM規格専門委員会参加に伴う入会 8社(全て 3級)  (株)リコー  福田金属箔粉工業(株)  金属技研(株)  ティーケーエンジニアリング(株)  (株)松浦機械製作所  (株)Polyuse  日本積層造形(株)  ニデックマシンツール(株)  AM規格専門委員会参加に伴う昇級 4社(全て 4級→3級)  山陽特殊製鋼(株)  日本電子(株)  (株)大阪チタニウムテクノロジーズ  東洋アルミニウム(株)</p> <p>○ 技術アドバイザーの件  ○ 会長表彰授与の件  (1) 第17回九州地区高校生溶接技術競技会 兼 高校生ものづくりコンテスト九州地区大会溶接部門  (2) 第14回四国地区高校生溶接技術競技会  (3) 第9回全国選抜高校生溶接技術競技会 in 新居浜(溶接甲子園 in 新居浜)</p> <p>○ 第56回日本溶接協会賞募集要領の件  ○ 2026年度次世代を担う研究者助成事業研究テーマ募集案内の件  ○ 2026年度研究テーマ指定助成事業募集案内の件  ○ 第7回日本溶接協会マイスター募集要領の件  ○ 要員認証品質マニュアル改訂の件  ○ 基礎となる工学分野の教育研究助成事業 対象研究決定の件  ○ 2025年度定時総会関連の件  (1) 定時総会スケジュール・開催案内他の件  (2) 2024年度会計報告承認の件(第1号議案)  (3) 2024年度公益目的支出計画実施報告の件  (4) 交代に伴う理事選任の件(第2号議案)  (5) 2024年度事業報告の件  (6) 活動方針実施状況と実施計画(第3期)の件</p> <p>○ 参与その他の件  ○ 部会長・委員長の件  (1) ガス溶断部会 部会長交代  前任：小池 英夫 氏(小池酸素工業)  後任：長堀 正幸 氏(日酸 TANAKA)  (2) 規格委員会 AM規格専門委員会 委員長就任  芦田 極 氏(産業技術総合研究所)</p> <p>○ 2025年度設備投資計画の追加申請の件  ○ 北海道溶接センター(仮称)の件  ○ 日本溶接会議(JIW)の件  (1) 2024年度事業報告の件  (2) 2024年度決算承認の件  (3) 共同事業の進捗状況の件  (4) 学協会統合の件</p>	<p>承認 承認</p> <p>承認 承認 承認 承認 承認 承認</p> <p>承認 承認</p> <p>承認 承認</p>





期日・場所	議 案	議事結果
	<p>特別優秀賞 青山章吾氏(北海道)</p> <p>優秀賞 川上達也氏(山口県) 他 10名</p> <p>優良賞 溝部璃央氏(広島県) 他 6名</p> <p>・炭酸ガスアーク溶接の部(参加者 57名のうち 18名)</p> <p>最優秀賞 浜野元輝氏(愛知県)</p> <p>特別優秀賞 疋田絢哉氏(茨城県)</p> <p>優秀賞 山本龍治氏(大分県) 他 5名</p> <p>優良賞 臼井誠也氏(京都県) 他 9名</p> <p>○ 学協会統合の件</p> <p>○ 日本溶接会議(JIW)の件</p> <p>○ 北海道溶接センター(仮称)の件</p> <p>○ 税制措置対応臨時専門委員会関連の証明書発行状況報告の件</p> <p>○ 2026 溶接界新春賀詞交歓会の件</p> <p>○ 協賛方依頼：23 件</p> <p>○ 講習会・試験等：6 件</p>	承認 承認 承認 報告 報告 承認 承認
2月25日 溶接会館 WEB開催併用	<p>○ 第39期第10回定例理事会議事録の承認の件</p> <p>○ 2025年12月度 決算報告の件</p> <p>○ 諸会合報告の件</p> <p>○ 委員会の開催報告の件</p> <p>①総務委員会</p> <p>②財務委員会</p> <p>③溶接規格専門委員会</p> <p>④特許委員会</p> <p>⑤国際活動委員会</p> <p>⑥溶接情報センター委員会</p> <p>⑦溶接技能者認証委員会</p> <p>⑧溶接管理技術者認証委員会</p> <p>⑨建築鉄骨ロボット溶接オペレータ認証委員会</p> <p>○ 調査・研究・研修等委託契約締結の報告の件</p> <p>○ 団体会員異動の件 退会1社 ソニー(株) 3級 (参加部会・研究委員会なし)</p> <p>○ 日本溶接協会規格(WES)改正の件</p> <p>○ 規格委員会規則改正の件</p> <p>○ 技術アドバイザーの件</p> <p>○ 第56回「日本溶接協会賞」授賞者決定の件</p> <p>①功労賞 [理事会審議] 粉川博之氏(東北大学 名誉教授)</p> <p>②業績賞 [業績賞授賞選考審査委員会審議] 大沢直樹氏(大阪大学 教授) 矢野嘉孝氏(日鉄パイプライン&amp;エンジニアリング(株)) 山根敏氏(埼玉大学 教授)</p> <p>③貢献賞 [貢献賞授賞審査委員会審議] 伊藤幹郎氏(東芝テクニカルサービスインターナショナル(株)) 井上健裕氏(日鉄テクノロジー(株)) 桑原孝次氏(日本溶接協会 技術アドバイザー) 小池敏郎氏(株小池鉄工) 関根俊宗氏(株関根製作所) 藤岡和俊氏((一財)電子科学研究所) 藤原哲矢氏(元住重試験検査(株)) 真木洋次氏(株新来島高知重工) 宮沢靖幸氏(東海大学 教授) 三和勇氏(函館どつく安全衛生協力会) 柳原幸一氏(株鶴飼)</p> <p>⑤技術賞(本賞・開発奨励賞) [技術賞授賞審査委員会審議] 本賞3件 「レーザメタルデポジション方式による内面高機能コーティング技術の開発と大型レシプロエンジンへの適用」</p>	承認 報告 報告 報告      報告 承認  承認 承認 承認 承認



### 3. 会員異動

(1) 団体会員

	会員数							
	特級	1級	2級	3級	4級	5級	合計	
2025年4月1日時点	13	24	15	96	162	6	316	
2025年度異動	入会	0	0	0	+10	+8	0	+18
	退会	0	0	0	-2	-4	-1	-7
	変更	0	0	+2	+4	-6	0	0
2026年3月31日時点	13	24	17	108	160	5	327	

(2) 学識会員

		会員数
2025年4月1日時点		315
2025年度異動	増	+7
	減	+7
2026年3月31日時点		315